発掘調査報告第29集

駒ヶ根東部地区県営ほ場整備事業埋蔵文化財緊急発掘調査

反目・遊光・殿村・小林遺跡

（本文編）

1990.3

上伊那地方事務所

駒ヶ根市教育委員会

発掘調査報告第29集

駒ヶ根東部地区県営ほ場整備事業埋蔵文化財緊急発掘調査

反目・遊光・殿村・小林遺跡

（本文編）

1990.3

上伊那地方事務所

駒ヶ根市教育委員会

例　言

1．この報告書は昭和63年度駒ケ根東部地区県営ほ場整備事業に伴うもので、文化庁補助事業と上伊那地方事務所の受託を受けて実施したものである。事業は２年度にわたって行われたもので、昭和63年度に発掘調査と一部整理作業を行い、平成元年度に整理作業と報告書刊行を行ったものである。

2．本報告書は、同一事業区内にある「反目」「遊光」「小林」「殿村」の４遺跡をまとめて一冊としたものである。

3．焼土はドット・カマドは網点で表示している。

4．遺構・遺物の縮尺はその都度示してある。

5．遺構の整図は気賀沢進が、石器の実測整図は、林茂樹（小林遺跡）、竹村章子があたった。土器の実測はスリースペース方式による図化を大半に用い、一部は気賀沢が行い、整図はすべて気賀沢が行った。

6．土器の容積はスリースペース方式によって計測したものである。

7．報告書の執筆は、以下に示す以外は気賀沢があたった。

第Ⅱ章	第３節　５	木下平八郎
第Ⅱ章	第４節	林　茂樹
付　編		友野良一

8．写真撮影は、遺構は木下、林が、遺物は木下、友野が行い、編集は木下が行った。

9．報告書をまとめるに当たり多くの方々から、ご助言、ご指導いただいた。とりわけ殿村遺跡の縄文前期土器については渋谷昌彦氏、土師・須恵・灰釉関係は笹沢浩・小平和夫氏から適切な指導を賜り、感謝にたえない。ここに誌して謝意としたい。

10．遺物及び実測図等関係資料は駒ケ根市立博物館に保管してある。

反目遺跡　第84号住居址出土土器

反目遺跡　第69号住居址出土土偶

反目遺跡　第95号住居址出土平瓶

目　次

例　言
巻頭図版(カラー)
目　次
挿図目次

第Ⅰ章　調査経緯……1
　第1節　調査に至る経過……1
　第2節　調査体制……5
　第3節　発掘調査日誌……6
第Ⅱ章　調査遺跡……17
　第1節　反目遺跡……17
　　1　位置と地形……17
　　2　歴史的環境……17
　　3　調査概要……20
　　4　遺構と遺物……23
　　1）　住居址……23
　　(1)　縄文時代……23
　　(2)　弥生時代……169
　　(3)　古墳時代以降……215
　　(4)　時期不明の住居址……322
　　2）　土　壙……322
　　3）　掘立柱式建物址……332
　　4）　竪穴址……334
　　5）　ロームマウンド……335
　　6）　方形溝状遺構……337
　　7）　単独埋甕遺構……337
　　8）　溝状遺構……337
　　5　奈良・平安時代の時期区分について……338
　　6　まとめ……339

第２節　遊光遺跡 …… 385
1　位置と地形 …… 385
2　歴史的環境 …… 385
3　調査概要 …… 385
4　遺構と遺物 …… 387
1）　住居址 …… 387
2）　土　壙 …… 412
3）　建物址 …… 412
5　まとめ …… 417
第３節　殿村遺跡 …… 423
1　位置と地形 …… 423
2　歴史的環境 …… 423
3　調査概要 …… 427
4　遺構と遺物 …… 428
1）　住居址 …… 428
(1)　縄文時代 …… 428
(2)　弥生時代 …… 489
(3)　奈良・平安時代 …… 495
2）　方形周溝墓 …… 525
3）　小竪穴址 …… 525
4）　土　壙 …… 531
5）　表面採集の青磁片 …… 532
6）　表面採集の瀬戸瓶子片 …… 532
5　縄文時代早期・前期の土器について …… 533
6　まとめ …… 535
第４節　小林遺跡 …… 549
1　位置と地形 …… 549
1）　位　置 …… 549
2）　地形及び地質 …… 549
2　歴史的環境 …… 549
3　調査概要 …… 554
4　遺　構 …… 561

1） 配石遺構の概況……561
2） 第Ⅰ配石帯……561
3） 第Ⅱ配石帯……563
4） 第20号址……566
5） 第１号土壙……567
5 遺 物……567
1） 配石址出土遺物……567
(1) 土 器……567
(2) 石 器……572
2） 第１号土壙出土の遺物……576
(1) 土 器……576
(2) 石 器……576
6 まとめ……579
付 編……583

挿　図　目　次

第１図　遺跡位置図……18
第２図　周辺の遺跡分布図……19
第３図　反目遺跡・遊光遺跡概要図……21
第４図　反目遺跡遺構全体図……（折りたたみ図）
第５図　第15号住居址実測図……23
第６図　第15号住居址炉及び埋設土器断面図……23
第７図　第15号住居址床面出土土器……24
第８図　第15号住居址石皿実測図……25
第９図　第16号住居址実測図……26
第10図　第16号住居址出土土器……27
第11図　第16号住居址覆土出土石器……28
第12図　第16号住居址出土石器……29
第13図　第16号住居址石皿……30
第14図　第19号住居址実測図……30
第15図　第19号住居址床面出土土器……31
第16図　第22号住居址実測図……31
第17図　第22号住居址床面出土土器……32
第18図　第22号住居址出土石器……33
第19図　第22号住居址床面出土石器……34
第20図　第24号住居址実測図……34
第21図　第24号住居址床面出土土器……35
第22図　第28号住居址埋設土器断面図……36
第23図　第28号住居址埋甕……36
第24図　第29号・39号住居址実測図……37
第25図　第29号・39号住居址炉及び第29号住居址埋設土器断面図……37
第26図　第29号住居址床面出土土器……38
第27図　第29号住居址覆土出土石器……39
第28図　第29号住居址出土石器……40
第29図　第29号住居址床面出土石器……41

第30図　第30号住居址実測図……42
第31図　第30号住居址床面出土土器……42
第32図　第32号住居址実測図……43
第33図　第32号住居址炉実測図……44
第34図　第32号住居址床面出土土器……45
第35図　第32号住居址床面出土土器……46
第36図　第34号住居址実測図……47
第37図　第34号住居址床面出土土器……48
第38図　第34号住居址床面出土土器……49
第39図　第34号住居址床面出土石器……50
第40図　第34号住居址床面出土石器……51
第41図　第37号住居址実測図……52
第42図　第37号住居址床面出土土器……52
第43図　第38号住居址実測図……53
第44図　第38号住居址出土遺物……54
第45図　第39号住居址床面出土土器……54
第46図　第40号住居址実測図……55
第47図　第43号住居址実測図……56
第48図　第43号住居址炉及び埋設土器断面図……56
第49図　第43号住居址埋甕……56
第50図　第46号住居址実測図……57
第51図　第46号住居址石壇実測図……58
第52図　第46号住居址出土遺物……59
第53図　第47号住居址実測図……61
第54図　第47号住居址床面出土土器……62
第55図　第47号住居址覆土出土石器……63
第56図　第47号住居址床面出土石器……64
第57図　第48号住居址実測図……65
第58図　第48号住居址床面出土土器……66
第59図　第48号住居址床面出土土器……67
第60図　第48号住居址床面出土石器……68
第61図　第48号住居址覆土出土石器……69

第62図　第48号住居址床面出土石器……70
第63図　第48号住居址床面出土石器……71
第64図　第48号住居址床面出土石器……72
第65図　第50号住居址実測図……72
第66図　第51号住居址実測図……73
第67図　第51号住居址炉及び埋設土器断面図……74
第68図　第51号住居址床面出土土器……74
第69図　第51号住居址出土石器……75
第70図　第52号住居址実測図……76
第71図　第52号住居址床面出土土器……77
第72図　第52号住居址床面出土土器……78
第73図　第52号住居址床面出土土器……79
第74図　第52号住居址出土石器……80
第75図　第52号住居址床面出土石器……81
第76図　第52号住居址床面出土土器……82
第77図　第60号住居址実測図……83
第78図　第60号住居址炉及び埋設土器断面図……83
第79図　第60号住居址床面出土土器……84
第80図　第60号住居址覆土出土石器……85
第81図　第60号住居址出土石器……86
第82図　第61号・65号住居址実測図……87
第83図　第61号住居址床面出土土器……88
第84図　第64号住居址実測図……89
第85図　第64号住居址床面出土土器……89
第86図　第65号住居址出土遺物……90
第87図　第65号住居址床面出土石器……91
第88図　第66号住居址実測図……92
第89図　第66号住居址炉実測図……93
第90図　第68号住居址実測図……93
第91図　第68号住居址床面出土土器……94
第92図　第68号住居址出土石器……95
第93図　第68号住居址床面出土石器……96

第 94 図　第69号住居址実測図 …… 97
第 95 図　第69号住居址床面出土土器 …… 98
第 96 図　第10号住居址実測図 …… 99
第 97 図　第70号住居址床面出土土器 …… 100
第 98 図　第71号住居址床面出土土器 …… 101
第 99 図　第74号住居址実測図 …… 102
第100図　第74号住居址床面出土土器 …… 103
第101図　第78号住居址実測図 …… 104
第102図　第78号住居址床面出土土器 …… 105
第103図　第79号・80号住居址実測図 …… 107
第104図　第79号住居址炉及び埋設土器断面図 …… 109
第105図　第79号住居址床面出土土器 …… 109
第106図　第79号住居址床面出土石皿 …… 110
第107図　第80号住居址炉実測図 …… 110
第108図　第80号住居址床面出土土器 …… 111
第109図　第81号・84号住居址実測図 …… 113
第110図　第81号住居址炉内出土土器 …… 115
第111図　第81号住居址床面出土土器 …… 116
第112図　第81号住居址床面出土石器 …… 117
第113図　第81号住居址床面出土石器 …… 118
第114図　第83号住居址実測図 …… 119
第115図　第83号住居址炉及び埋設土器断面図 …… 119
第116図　第83号住居址床面出土土器 …… 120
第117図　第84号住居址床面出土土器 …… 121
第118図　第88号住居址実測図 …… 122
第119図　第88号住居址床面出土土器 …… 123
第120図　第92号住居址実測図 …… 124
第121図　第92号住居址床面出土土器 …… 125
第122図　第93号住居址実測図 …… 126
第123図　第93号住居址床面出土土器 …… 127
第124図　第94号住居址実測図 …… 128
第125図　第94号住居址床面出土土器 …… 129

第126図　第97号住居址実測図……130
第127図　第97号住居址床面出土土器……131
第128図　第97号住居址出土遺物……132
第129図　第97号住居址床面出土石器……133
第130図　第99号（109号）住居址実測図……135
第131図　第99号（109号）住居址床面出土遺物……137
第132図　第102号住居址実測図……138
第133図　第102号住居址床面出土土器……139
第134図　第103号・98号住居址実測図……140
第135図　第103号住居址床面出土土器……141
第136図　第106号住居址実測図……142
第137図　第106号住居址埋甕（２）……143
第138図　第106号住居址床面出土土器……144
第139図　第106号住居址出土遺物……145
第140図　第106号住居址出土石器……146
第141図　第108号住居址実測図……147
第142図　第108号住居址床面出土土器……148
第143図　第110号住居址実測図……148
第144図　第110号住居址床面出土土器……149
第145図　第110号住居址床面出土土器……150
第146図　第112号住居址実測図……151
第147図　第113号住居址実測図……152
第148図　第113号住居址床面出土土器……153
第149図　第115号住居址実測図……154
第150図　第115号住居址床面出土土器……154
第151図　第116号住居址実測図……155
第152図　第116号住居址床面出土土器……155
第153図　第117号住居址実測図……156
第154図　第117号住居址床面出土土器……157
第155図　第119号住居址実測図……158
第156図　第121号住居址実測図……159
第157図　第121号住居址床面出土土器……160

第158図　第121号住居址出土石器 …… 161
第159図　第121号住居址床面出土石器 …… 162
第160図　第121号住居址床面出土石皿 …… 163
第161図　第122号住居址実測図 …… 164
第162図　第123号住居址実測図 …… 165
第163図　第123号住居址床面出土土器 …… 166
第164図　第136号住居址実測図 …… 167
第165図　第136号住居址床面出土土器 …… 168
第166図　第１号住居址実測図 …… 169
第167図　第１号住居址床面出土遺物 …… 170
第168図　第１号住居址出土遺物 …… 171
第169図　第３号住居址実測図 …… 171
第170図　第３号住居址床面出土土器 …… 172
第171図　第３号住居址床面出土遺物 …… 173
第172図　第４号住居址実測図 …… 173
第173図　第５号住居址実測図 …… 174
第174図　第５号住居址床面出土土器 …… 175
第175図　第５号住居址床面出土土器 …… 176
第176図　第５号住居址床面出土遺物 …… 176
第177図　第６号住居址実測図 …… 177
第178図　第６号住居址床面出土土器 …… 178
第179図　第８号住居址実測図 …… 179
第180図　第８号住居址床面出土土器 …… 179
第181図　第10号住居址実測図 …… 180
第182図　第10号住居址床面出土土器 …… 181
第183図　第10号住居址床面出土土器 …… 182
第184図　第11号住居址実測図 …… 182
第185図　第11号住居址床面出土土器 …… 183
第186図　第12号住居址実測図 …… 184
第187図　第12号住居址床面出土土器 …… 185
第188図　第41号住居址実測図 …… 186
第189図　第41号住居址床面出土土器 …… 187

第190図　第41号住居址床面出土土器……188
第191図　第41号住居址出土石器……189
第192図　第45号住居址実測図……191
第193図　第45号住居址床面出土土器……192
第194図　第45号住居址床面出土遺物……193
第195図　第58号住居址実測図……195
第196図　第58号住居址床面出土土器……197
第197図　第58号住居址床面出土土器……198
第198図　第58号住居址床面出土土器……199
第199図　第58号住居址覆土出土石器……200
第200図　第58号住居址床面出土石器……201
第201図　第58号住居址床面出土石器……202
第202図　第59号住居址実測図……203
第203図　第59号住居址床面出土土器……204
第204図　第111号住居址実測図……206
第205図　第111号住居址床面出土土器……207
第206図　第118号住居址実測図……208
第207図　第118号住居址床面出土土器……209
第208図　第129号住居址実測図……210
第209図　第129号住居址床面出土土器……211
第210図　第129号住居址床面出土土器……212
第211図　第132号住居址実測図……213
第212図　第132号住居址床面出土土器……214
第213図　第２号住居址実測図……215
第214図　第２号住居址出土遺物……216
第215図　第７号住居址カマド実測図……216
第216図　第９号住居址実測図……217
第217図　第９号住居址出土遺物……218
第218図　第13号住居址実測図……219
第219図　第13号住居址出土遺物……220
第220図　第13号住居址出土遺物……221
第221図　第14号住居址実測図……222

第222図　第14号住居址カマド実測図……222
第223図　第14号住居址出土遺物……223
第224図　第17号・55号住居址実測図……223
第225図　第17号住居址カマド実測図……224
第226図　第17号住居址出土遺物……224
第227図　第18号住居址実測図……225
第228図　第18号住居址出土遺物……226
第229図　第20号住居址実測図……227
第230図　第21号住居址実測図……227
第231図　第21号住居址カマド実測図……228
第232図　第21号住居址出土遺物……229
第233図　第23号住居址実測図……230
第234図　第23号住居址カマド実測図……231
第235図　第23号住居址出土遺物……232
第236図　第23号住居址出土遺物……233
第237図　第25号住居址実測図……234
第238図　第25号住居址カマド実測図……234
第239図　第25号住居址出土遺物……234
第240図　第26号住居址実測図……235
第241図　第26号住居址出土遺物……236
第242図　第27号住居址実測図……237
第243図　第27号住居址カマド実測図……238
第244図　第27号住居址出土遺物……238
第245図　第31号住居址実測図……239
第246図　第31号住居址カマド実測図……239
第247図　第31号住居址出土遺物……240
第248図　第33号住居址実測図……241
第249図　第33号住居址出土遺物……242
第250図　第35号住居址実測図……244
第251図　第35号住居址出土遺物……245
第252図　第36号住居址実測図……246
第253図　第36号住居址出土遺物……247

第254図　第42号住居址実測図……247
第255図　第42号住居址カマド実測図……248
第256図　第42号住居址出土遺物……249
第257図　第49号住居址実測図……250
第258図　第49号住居址カマド実測図……251
第259図　第49号住居址出土遺物……252
第260図　第49号住居址出土遺物……253
第261図　第54号住居址実測図……254
第262図　第54号住居址出土遺物……255
第263図　第55号住居址実測図……256
第264図　第55号住居址出土遺物……256
第265図　第56号住居址実測図……257
第266図　第56号住居址カマド実測図……258
第267図　第56号住居址出土遺物……258
第268図　第62号住居址実測図……259
第269図　第62号住居址柱間計測図……261
第270図　第62号住居址カマド実測図……262
第271図　第62号住居址出土遺物……263
第272図　第62号住居址出土遺物……264
第273図　第62号住居址出土遺物……265
第274図　第62号住居址出土遺物……266
第275図　第62号住居址出土遺物……267
第276図　第63号住居址実測図……268
第277図　第63号住居址カマド実測図……269
第278図　第63号住居址出土遺物……269
第279図　第67号住居址実測図……270
第280図　第67号住居址カマド実測図……270
第281図　第72号・135号住居址実測図……271
第282図　第73号住居址実測図……272
第283図　第73号住居址出土遺物……272
第284図　第75号住居址実測図……273
第285図　第75号住居址カマド実測図……273

第286図　第75号住居址出土遺物……274
第287図　第76号住居址実測図……275
第288図　第76号住居址カマド実測図……275
第289図　第76号住居址出土遺物……276
第290図　第77号住居址実測図……277
第291図　第77号住居址出土遺物……278
第292図　第82号住居址実測図……279
第293図　第82号住居址出土遺物……280
第294図　第85号住居址実測図……281
第295図　第85号住居址出土遺物……282
第296図　第86号住居址実測図……283
第297図　第86号住居址出土遺物……284
第298図　第87号住居址実測図……284
第299図　第89号住居址実測図……285
第300図　第90号住居址実測図……285
第301図　第95号住居址実測図……286
第302図　第95号住居址出土遺物……287
第303図　第96号住居址実測図……289
第304図　第96号住居址柱間計測図……291
第305図　第96号住居址出土遺物……291
第306図　第96号住居址出土遺物……292
第307図　第96号住居址出土遺物……293
第308図　第98号住居址カマド実測図……294
第309図　第98号住居址出土遺物……295
第310図　第98号住居址出土遺物……296
第311図　第100号・105号住居址実測図……297
第312図　第100号住居址カマド実測図……298
第313図　第100号住居址出土遺物……299
第314図　第101号住居址実測図……300
第315図　第101号住居址カマド実測図……301
第316図　第101号住居址出土遺物……302
第317図　第104号住居址実測図……303

第318図　第104号住居址カマド実測図 …… 303
第319図　第104号住居址出土遺物 …… 304
第320図　第105号住居址カマド実測図 …… 304
第321図　第105号住居址出土遺物 …… 304
第322図　第114号住居址実測図 …… 305
第323図　第114号住居址カマド実測図 …… 306
第324図　第114号住居址出土遺物 …… 306
第325図　第120号・124号（119号）住居址実測図 …… 308
第326図　第120号住居址出土遺物 …… 309
第327図　第125号住居址実測図 …… 311
第328図　第125号住居址出土遺物 …… 313
第329図　第126号住居址実測図 …… 314
第330図　第126号住居址出土遺物 …… 314
第331図　第127号住居址実測図 …… 315
第332図　第128号住居址実測図 …… 316
第333図　第128号住居址出土遺物 …… 317
第334図　第130号住居址実測図 …… 318
第335図　第131号住居址実測図 …… 319
第336図　第131号住居址出土遺物 …… 319
第337図　第137号住居址実測図 …… 320
第338図　第137号住居址出土遺物 …… 320
第339図　第138号住居址実測図 …… 321
第340図　第138号住居址出土遺物 …… 321
第341図　土壙実測図 …… 326
第342図　土壙実測図 …… 327
第343図　土壙実測図 …… 328
第344図　土壙実測図 …… 329
第345図　土壙実測図 …… 330
第346図　土壙出土遺物 …… 331
第347図　第１号掘立柱式建物址実測図 …… 332
第348図　第２号・３号掘立柱式建物址実測図 …… 333
第349図　竪穴址実測図 …… 334

第350図　第１号・２号ロームマウンド実測図……335
第351図　第１号・２号・３号方形溝状遺構実測図……336
第352図　単独埋甕実測図……337
第353図　遊光遺跡遺構概略図……386
第354図　第１号住居址実測図……387
第355図　第１号住居址カマド実測図……388
第356図　第１号住居址出土遺物……389
第357図　第２号住居址実測図……389
第358図　第３号住居址実測図……390
第359図　第３号住居址カマド実測図……391
第360図　第３号住居址遺物出土状況図……392
第361図　第３号住居址出土遺物……393
第362図　第３号住居址出土遺物……394
第363図　第３号住居址出土遺物……395
第364図　第３号住居址出土遺物……396
第365図　第４号住居址実測図……397
第366図　第４号住居址出土遺物……398
第367図　第５号住居址実測図……399
第368図　第５号住居址出土遺物……400
第369図　第６号住居址実測図……401
第370図　第６号住居址出土遺物……402
第371図　第７号住居址実測図……403
第372図　第７号住居址出土遺物……404
第373図　第８号住居址実測図……405
第374図　第８号住居址カマド実測図……406
第375図　第８号住居址出土遺物……407
第376図　第９号住居址実測図……408
第377図　第９号住居址炭化材検出状況図……408
第378図　第９号住居址出土遺物……408
第379図　第10号住居址実測図……409
第380図　第10号住居址出土遺物……410
第381図　土壙実測図……411

第382図　土壙出土遺物……412
第383図　建物址実測図……413
第384図　建物址断面図……415
第385図　殿村遺跡概況図……424
第386図　殿村遺跡遺構全体図……425
第387図　第３号住居址実測図……428
第388図　第３号住居址出土土器……429
第389図　第６（７）号住居址実測図……431
第390図　第６号住居址出土遺物……432
第391図　第６号住居址出土遺物……433
第392図　第６号住居址出土遺物……434
第393図　第６号住居址出土遺物……435
第394図　第６号住居址出土遺物……436
第395図　第６号住居址出土遺物……437
第396図　第６号住居址出土遺物……438
第397図　第８号住居址実測図……441
第398図　第８号住居址出土遺物……442
第399図　第11号・12号住居址実測図……444
第400図　第11号住居址出土遺物……445
第401図　第12号住居址出土遺物……447
第402図　第13号住居址実測図……448
第403図　第13号住居址出土遺物……448
第404図　第15号住居址実測図……450
第405図　第15号住居址出土遺物……451
第406図　第15号住居址出土遺物……452
第407図　第15号住居址出土遺物……453
第408図　第15号住居址出土遺物……454
第409図　第15号住居址出土遺物……455
第410図　第15号住居址出土遺物……456
第411図　第16号・20号住居址実測図……458
第412図　第16号住居址出土遺物……459
第413図　第20号住居址出土遺物……461

第414図　第20号住居址出土遺物……462
第415図　第23号住居址出土遺物……464
第416図　第23号住居址出土遺物……465
第417図　第23号住居址出土遺物……466
第418図　第24号住居址実測図……468
第419図　第24号住居址出土遺物……468
第420図　第25号住居址実測図……469
第421図　第25号住居址出土遺物……470
第422図　第26号・27号住居址実測図……471
第423図　第26号住居址出土遺物……473
第424図　第27号住居址出土遺物……474
第425図　第28号住居址実測図……475
第426図　第29号住居址実測図……476
第427図　第29号住居址出土遺物……477
第428図　第31号住居址実測図……478
第429図　第31号住居址出土遺物……479
第430図　第32号住居址実測図……480
第431図　第32号住居址出土遺物……481
第432図　第32号住居址出土遺物……482
第433図　第34号住居址実測図……483
第434図　第34号住居址出土遺物……484
第435図　第39号住居址実測図……485
第436図　第39号住居址出土遺物……486
第437図　第39号住居址出土遺物……487
第438図　第５号住居址実測図……489
第439図　第５号住居址出土遺物……490
第440図　第18号・21号住居址実測図……491
第441図　第18号住居址出土遺物……493
第442図　第21号住居址出土遺物……494
第443図　第１号住居址実測図……495
第444図　第１号住居址カマド実測図……495
第445図　第１号住居址出土遺物……496

第446図　第２号住居址実測図……496
第447図　第２号住居址カマド実測図……497
第448図　第２号住居址出土遺物……497
第449図　第４号住居址実測図……498
第450図　第４号住居址カマド実測図……498
第451図　第４号住居址出土遺物……499
第452図　第９号住居址実測図……500
第453図　第９号住居址出土遺物……500
第454図　第10号住居址実測図……501
第455図　第10号住居址出土遺物……501
第456図　第14号住居址実測図……502
第457図　第14号住居址出土遺物……503
第458図　第17号住居址実測図……504
第459図　第17号住居址カマド実測図……504
第460図　第17号住居址出土遺物……505
第461図　第19号住居址実測図……506
第462図　第19号住居址出土遺物……507
第463図　第22号・41号住居址実測図……508
第464図　第22号・41号住居址出土遺物……509
第465図　第30号住居址実測図……510
第466図　第30号住居址カマド実測図……511
第467図　第30号住居址出土遺物……511
第468図　第33号住居址実測図……512
第469図　第33号住居址出土遺物……513
第470図　第35号住居址実測図……514
第471図　第35住カマド実測図……515
第472図　第35号住居址出土遺物……516
第473図　第35号住居址出土遺物……517
第474図　第37号住居址実測図……518
第475図　第37号住居址カマド実測図……519
第476図　第37号住居址出土遺物……519
第477図　第38号住居址実測図……520

第478図　第38号住居址カマド実測図……520
第479図　第38号住居址出土遺物……521
第480図　第40号住居址実測図……522
第481図　第40号住居址出土遺物……522
第482図　第１号方形周溝墓実測図……523
第483図　第１号方形周溝墓出土遺物……525
第484図　小竪穴址実測図……526
第485図　小竪穴址実測図……527
第486図　小竪穴址出土遺物……528
第487図　小竪穴址出土遺物……529
第488図　土壙実測図……531
第489図　土壙出土遺物……532
第490図　小林遺跡概況図……550
第491図　中沢台地及び遺跡分布図……551
第492図　小林遺跡発掘概況図……553
第493図　配石遺構実測図……555
第494図　第Ⅰ配石帯実測図……557
第495図　第Ⅱ配石帯実測図……559
第496図　第Ⅱ配石帯第18号址・19号址実測図……565
第497図　第20号配石址実測図……566
第498図　第１号土壙実測図（Ｓ＝１／20）……566
第499図　配石遺構出土出土土器拓影……568
第500図　配石遺構出土石器実測図〈１〉……570
第501図　配石遺構出土石器実測図〈２〉……571
第502図　配石遺構出土石器実測図〈３〉……574
第503図　配石遺構出土石器実測図〈４〉……575
第504図　第１号土壙出土土器拓影……577
第505図　第１号土壙出土石器実測図……578
第506図　小林遺跡配石帯構造図……580
第507図　反目遺跡第35号住居址炭化材検出状況図……584
第508図　遊光遺跡第９号住居址実測図……585

第Ⅰ章　調査状況

第１節　調査に至る経過

昭和63年度の県営ほ場整備事業駒ケ根東部地区施工区域内に、東伊那地区反目遺跡、遊光遺跡殿村遺跡、中沢地区小林遺跡の４遺跡が含まれてるとのことで、昭和62年10月５日、県教育委員会文化課、上伊那地方事務所土地改良第２課担当者、駒ケ根市東部土地改良区関係者、市教育委員会を交じえて現地協議を行った。

当初計画案として、発掘対象面積が４遺跡併せて65,000㎡が示された。１年間でこれだけの広大な面積の発掘調査はとても無理なこと、また実施するとすればばく大な費用がいること、さらに、遺跡保護の面から極力埋立保存可能な箇所については、計画変更するよう再検針を依頼して協議を終わった。

その後土地改側から、反目遺跡については、主要部分は計画通り実施し、湿地帯部分を埋土する、また遊光遺跡は半分を埋立保存・殿村遺跡は北側の低い部分を全面埋土する。小林遺跡については、地形上の制約から計画どおり行うとの検針結果が提示され発掘対象面積は30,000㎡となった。

これに基づき総事業費2900万円の計画書を提出、県の指導により初年度に発掘調査と一部整理、次年度に本整理と報告書刊行を行うこととした。事業は駒ケ根市埋蔵文化財発掘調査会が行うことにした。

昭和63年度は発掘調査と一部整理を1,840万円（農政部局分1,334万円、補助事業分506万円）で実施することとした。

以下事務手続きを誌すこととする。

昭和63年４月16日　国宝重要文化財等保存整備費補助事業計画の内示通知（４月７日付、反目・小林遺跡分187万円）。

４月18日　埋蔵文化財（反目遺跡）発掘調査の通知を文化庁長官あて提出。

４月27日　国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請（反目・小林遺跡分374万円）を文化庁長官あて提出。

５月12日　埋蔵文化財発掘調査計画及び経費の見積書提出について、上伊那地方事務所長より通知。

５月16日　埋蔵文化財発掘調査計画及び経費の見積書（反目・小林・殿村・遊光遺跡農政部局分1,334万円）上伊那地方事務所長あて提出。

５月18日　昭和63年度県営ほ場整備事業駒ケ根東部地区埋蔵文化財包蔵地（反目他３）発掘調査委託業務の委託契約を上伊那地方事務所長と締結。

５月23日　農政部局分1,334万円・補助金分374万円にて駒ケ根市埋蔵文化財発掘調査会会長と再委託契約を締結。

5月24日　埋蔵文化財包蔵地（反目他３）発掘調査に係わる諸届（着手届・発掘調査事務担当者届・工程表）を上伊那地方事務所長あて提出。
本日発掘調査のための器材準備行う。
5月25日　発掘器材を反目遺跡へ運搬、後グリット設定を行う。
5月26日　本日より、反目遺跡の発掘調査を行う。
5月31日　昭和63年度文化財保護事業補助金（反目・小林遺跡分561,000円）内示。
6月16日　文化財保護事業補助金交付申請書（反目・小林遺跡分）を県教委へ提出。
7月21日　埋蔵文化財（遊光遺跡）発掘調査の通知を文化庁長官あて提出。
7月31日　国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（６月21日付委保第71号）通知あり。
8月１日　埋蔵文化財（小林遺跡・殿村遺跡）発掘調査の通知を文化庁長官あて提出。
8月16日　現場作業の11月15日までの工期延長願を上伊那地方事務所長あて提出。
8月18日　変更委託契約を上伊那地方事務所長と締結。
8月25日　文化財保護事業補助金交付決定（長野県教育委員会教育長指令63教文第２－29号）通知あり。
8月30日　国宝重要文化財等保存整備事業の計画変更（殿村遺跡・遊光遺跡分追加、補助金187万円を66万円追加し、253万円とする。総補助事業対象経費506万円）
9月14日　文化財保護事業の計画変更（殿村遺跡・遊光遺跡追加、補助金561,000円を198,000円追加し、759,000円とする。）申請書提出。
9月16日　殿村遺跡・遊光遺跡追加に伴なう補助分変更委託契約を発掘調査会会長と締結。
9月17日　反目遺跡も一部を残して一段落となったので、遊光遺跡の調査を始める。
9月19日　反目遺跡西側畑部分後日調査することとして、本日をもって一応終了することする。
10月７日　殿村遺跡の調査開始
10月11日　遊光遺跡９号住居址の炭化物採りあげも終わり、本日をもって遊光遺跡の調査終了する。
10月12日　本日より調査団の半分によって、中沢の小林遺跡の調査を開始する。
11月10日　小林遺跡の発掘調査終了
11月11日・12日　反目遺跡の残分調査を行う。
11月15日　殿村遺跡の発掘調査を終了。本日にて６箇月にわたる長い調査を無事終了する。
11月21日　国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定変更通知（10月28日付委保第71号）あり。
12月20日　発掘調査完了報告書を上伊那地方事務所長あてに提出。
12月21日　文化財保護事業の変更交付決定通知あり。
昭和64年１月５日　埋蔵文化財の拾得について駒ケ根警察署長あてに届け出。
平成元年１月18日　埋蔵物の受領及び文化財認定について、長野県教育委員会より通知あり。
３月31日　昭和63年度国宝重要文化財等保存整備事業実績報告書提出。同日昭和63年度文化財保護事業実績報告書の提出

3月31日　文化財保護事業補助金の確定通知あり。

4月10日　国宝重要文化財保存整備費補助金の額の確定通知あり。

平成元年度は整備作業と報告書刊行作業のみで当初総事業費1,060万円（農政部局分7,685,000円　補助事業分2,915,000円）で行う予定であったが計画の途中で総事業費1,020万円（農政部局分739万円：補助事業分281万円）として行うこととなった。以下事務手続きを誌す。

昭和63年6月30日　昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財について、県教委より通知あり。

7月11日　昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財について（反目遺跡外総事業費1060万円、補助事業分2,915,000円）県教委へ回答。

9月9日　昭和64年度文化財補助事業等計画の事情聴取について、県教委より通知あり。

9月30日　昭和64年度文化財補助事業等計画書を県教委へ提出。

10月11日　昭和64年度文化財補助事業計画の事業聴取、県庁にて

12月8日　昭和64年度文化財関係補助事業計画について、県教委より照会あり。

12月20日　昭和64年度文化財関係補助事業計画(反目遺跡外総事業費1,020万円(農政部局分739万円・補助事業分281万円）について、県教委へ回答。

平成元年4月10日　消費税導入後の文化財保護事業の取扱いについて（3月20日付庁保伝第54号）県教委より通知あり。

5月23日　平成元年度文化財関係国庫補助事業計画の内定通知（4月3日付庁保伝第7号)、県教委よりあり。

4月17日　平成元年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書(補助事業対象経費281万円　・補助金1,405,000円）を文化庁長官あてに提出。

5月8日　埋蔵文化財発掘調査計画書及び経費の見積書提出について、上伊那地方事務所長より通知あり。

5月15日　埋蔵文化財発掘調査計画書及び経費の見積書（農政部局分739万円）上伊那地方事務所長あて提出。

5月17日　平成元年度県営ほ場整備事業駒ケ根東部地区埋蔵文化財包蔵地（反目他3）発掘調査委託業務の委託契約を上伊那地方事務所長と締結。

5月19日　埋蔵文化財包蔵地（反目他3）発掘調査に係わる諸届（着手届・発掘調査事務担当者届・工程表）を上伊那地方事務所長あて提出。

5月29日　農政部局分7.39万円、補助事業分281万円にて、駒ケ根市埋蔵文化財発掘調査会会長と再委託契約を締結。

本日より本年度の整理作業を始める。

7月10日　平成元年度文化財保護事業（県費補助金）の内定通知（4月3日付元教文第2号）あり。

7月15日　文化財保護事業補助金交付申請書（県費補助金421,000円）県教委あて提出。

7月18日　国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定（7月18日付委保第71号）通知あり。

8月10日　平成元年度農業基盤整備事業等にかかわる埋蔵文化財の保護措置に係る委託契約について、県教委より通知あり。

9月11日　平成元年度文化財保護事業補助金の交付決定（長野県教育委員会教育長指令元教文第２－11号）通知あり。

平成元年３月11日　発掘調査完了報告書を上伊那地方事務所長あて提出。

発掘調査事業費一覧表

単位：円

	農政部局分	補助事業分				合　計
		国庫補助金	県費補助金	市負担金	計	
昭和63年度	13,340,000	2,530,000	759,000	1,771,000	5,060,000	18,400,000
平成元年度	7,390,000	1,405,000	421,000	984,000	2,810,000	10,200,000
合　計	20,730,000	3,935,000	1,180,000	2,755,000	7,870,000	28,600,000

第２節　調査体制

・駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会

顧　問　小平　善信（駒ヶ根市文化財保存会会長）
　　中山　敬及（駒ヶ根市教育委員長）
会　長　木下　　衛（駒ヶ根市教育長　平成元年９月30日まで）
　　高坂　　保（　　〃　　平成元年10月１日より）
理　事　福沢　　亘（駒ヶ根市教育次長）
〃　友野　良一（駒ヶ根市文化財審議会会長）
〃　松村　義也（　　〃　　副会長）
〃　新井　徳博（　　〃　　委員）
〃　竹村　　進（　　〃　　）
〃　吉江　修深（　　〃　　）
〃　福沢　正陽（駒ヶ根市立博物館長　昭和63年６月30日まで）
〃　下村　幸雄（　　〃　　昭和63年７月１日より）
監　事　下平　基雄（駒ヶ根市収入役）
〃　北沢　晋六（駒ヶ根郷土研究会会長　平成元年３月31日まで）
〃　宮脇　昌三（　　〃　　平成元年４月１日より）
幹　事　堀　　勝福（駒ヶ根市教育委員会社会教育係長　昭和63年６月30日まで）
〃　気賀沢善則（　　〃　　〃　　昭和63年７月１日より）
〃　滝沢　修身（　　〃　社会教育係）
〃　気賀沢　晋（駒ヶ根市立博物館）
〃　青木　道子（　　〃　　）（平成元年４月１日より）
〃　白沢　由美（　　〃　　）

・発掘調査団

団　長　友野　良一（日本考古学協会員）〈反目・遊光・殿村遺跡発掘担当者〉
〃　林　　茂樹（　　〃　　）〈小林遺跡発掘調査担当者〉
調査主任　気賀沢　進（　　〃　　）〈発掘担当者〉
調査員　北沢　雄喜（辻沢遺跡群研究会会員）
〃　木下平八郎（長野県考古学会会員）
〃　小町谷　元（上伊那考古学会会員）
〃　小松原義人（長野県考古学会会員）
〃　田中　清文（　　〃　　）
〃　吉沢　文夫（辻沢遺跡群研究会会員）
〃　和田　武夫（長野県考古学会会員）　（50音順）

駒ヶ根市埋蔵文化財発掘調査会事務所　駒ヶ根市上穂栄町23番１号
駒ヶ根市立博物館内

第３節　発掘調査日誌

昭和63年度

・反目遺跡

５月24日(火)　発掘器材手入れ及び運搬準備

５月25日(水)　発掘器材運搬、後グリッド設定

５月26日(木)　テント設営、現場の麦刈り。午前10時から発掘調査開始式。10m毎に１箇所２×２m四方のグリッドを設定し試掘行う。

５月27日(金)　昨日に引き続き10m毎に試掘調査を行う。16ラインより北県道わきは黒色土厚く下部は湿地帯となる。各所において住居址らしき落ち込みみられる。調査区域全域に試掘が済んだため、21～26－Ｋ～Ｓにさらに細かくグリッド掘り行う。24－M北東部に住居址落ち込み確認する。

５月28日(土)　雨のため作業中止

５月29日(日)　休

５月30日(月)　24－M東北部に確認された住居址の拡張確認を行い１号住居址（以下住とする。）とする。１号住の南西部23－M、26－Ｓにも住居址らしき落ち込み確認。周囲を全面発掘する。

５月31日(火)　21－た、21－Ｐ、21－Ｖ、21－あグリットの断面測量・写真測量。昨日に引き続き全面拡張２～６号住を確認。２号住と北東の５号住、南の３号住は重複の可能性あり。

６月１日(水)　５号住北側確認に努める。１～６号住精査。２・３・５号住は通しのセクションベルトを設定する。４号住ほぼ掘り下げ終了、遺物少なく時期ははっきりしない。５号住は大形住居址。６号住も大形住居址で、中央部にカマドあり別に一軒住居址あると思われる。(７号住)

６月２日(木)　雨のため作業中止

６月３日(金)　雨のため作業中止。

６月４日(土)　前日までの雨のため排水作業を行う。雨が降り始めたため、９時半にて本日の作業も中止する。

６月５日(日)　休

６月６日(月)　１・２・３・５・６号住掘り下げ。２号住は５号住に貼床しカマドを作っている。１号住、２・３・５号住、６号住セクション図作成。

６月７日(火)　１号住完掘、２号住完掘写真撮影、カマド断面掘、断面図作成。３号住荒掘終了、北東部床面に小児の頭大粘土魂３個ある。５号住貼床部残し、荒掘終了。６号住荒掘終了。４号住北側に方形の小竪穴ある。

６月８日(水)　３号・５号住精査。７号住カマド断面調査。１～６号住の北側部分グリッド掘。午後３時にて作業中止。

６月９日(木)　５号住精査。６号住北に住居址らしき落ち込みあり拡張する（８号住)。８号の西井をまたいで３～４箇所落ち込み確認拡張する。

６月10日(金)　１号住実測。３号住清掃・写真撮影。５号住精査・写真撮影・実測。昨日に引き続き７号住カマド断面調査。昨日確認された住居址と溝状遺構拡張。

６月11日(土)　３号・５号住埋甕炉断面調査・取り上げ。３号住実測。６号住清掃。昨日同様拡張の結果９～11号住確認。

6月12日(日)　休

6月13日(月)　6号住清掃。4号住・1号竪穴址実測。8～11号住精査。9号住は南側の10号住に貼床している。

6月14日(火)　8～11号住精査。11号住北に確認されている溝状遺構調査。6号住埋甕炉調査取り上げ。9～11号住断面図作成。10号住南に落ち込みあり井の東にある7号住の西部分と思われ調査するも住居址は確認できなかった。

6月15日(水)　6号住実測。8号住精査断面図作成。9号住清掃実測。9号住貼床壊して10号住精査。11号住精査。10号・11号住南側全面拡張する。11号住の南に12号住確認。

6月16日(木)　8号住清掃写真撮影。10・11号住写真撮影実測。9号住カマド断面調査。10・11号埋甕調査。全測図とる。昨日に続く拡張の結果36－お井のきわに煙道と落ち込み確認13号住とする。

6月17日(金)　昨日に続き36～41－さ～たの表土はねと漸移層までの掘り下げ。埋土厚く西に行くに従い深くなる。12号住の南西に幅10～15㎝の黒色の方形溝状遺構2基確認。溝状遺構は南西に幅2m程で続いている。

6月18日(土)・19日(日)　休

6月20日(月)　表土厚く手掘りでは作業がはかどらないので、西側の水田51～56－は～やの表土はぎ、遺構検出を行う。数箇所に住居址の落ち込みと柱穴址みられる。

6月21日(火)　昨日に続き南側の表土はぎと遺構検出に努める。雨のため午後2時にて、作業中止。

6月22日(水)　表土はぎと遺構検出と行う。新たに確認された14～17号住と1号柱穴址、1号土壙、12号住精査。1号柱穴址は15号住の覆土中に一部あり測柱式である。

6月23日(木)　12～17号住、1号土壙精査。1号土壙より完形の灰釉埦出土する。14号住の西側は溝状遺構によって壊されている。16号住は西の17号住に切られている。午前中にて作業中止。

6月24日(金)　雨のため作業中止。

6月25日(土)　雨のため作業中止。

6月26日(日)　休。ボーイスカウト現地研修会午前9時～11時まで。

6月27日(月)　天候不順のため、作業はかどらず気が目入ってくる。12～17号住精査。14号住の南西に18号確認調査行う。18号住と16号住の間にもう一軒ある可能性大きい。1号・2号方形溝状遺構精査。1号土壙断面図作成完掘。第14号断面図作成。雨のため午前中にて作業中止。

6月28日(火)　2号・3号土壙断面調査後完掘。12～18号住精査。1号柱穴址写真撮影、12号住清掃写真撮影。18号と16号との間の19号住精査。68・ま東半分住居址らしき（20号住）落ち込み確認確認。にわか雨のため午後3時にて作業中止。

6月29日(水)　16号・17号・19号住精査。16号住の西には別の住居址が重複している。15号住、1号、2号溝状遺構清掃写真撮影。1号柱穴址、1号土壙実測。20号住付近の拡張昨日同様行う。

6月30日(木)　雨のため作業中止。

7月1日(金)　12号住、1号・2号方形溝状遺構実測。29日同様拡張。

7月2日(土)　作業午前のみ。13号住・17号住精査。20号住南一帯の表土はぎ遺構検出行う。

7月3日(日)　休

7月4日(月)　今日より大望の重機による排土作業が行われる。76～86－さ～はの排土。排土後遺構検出行い21・22・23号住確認する。12号住埋甕炉調査。13号住精査西カマドぎわより遺物集中して発見される。焼失家屋である。14号住精査。15号住清掃写真撮影、埋甕と伏甕確認。16号住精査、炉西に伏甕、南入口部に埋甕確認。20～23号住精査。縄文と土師の重複がはげしい。

7月5日(火)　昨日同様重機によって51～75－た～なの排土。13号・20号～23号住精査。23住の西に24号住確認。14号住灰だまり掘り下げ。16号～19号住清掃写真撮影。23号住より鉄斧出土する。

7月6日(水)　21～23号住土層断面調査の後精査。22号住の南の25号住精査。22号・23号住の東に26号住確認調査行う。15号住・1号住穴址の北の27号住精査、開田時に削られており、床面まで浅い。23号住床面に縄文の埋甕出土住居址が壊され埋甕のみ残ったものとし28号住とする。重機による表土はぎ76～78－T～さ、31～41－さ～た。

7月7日(木)　21・22・23・25・26・27号住精査。23号住の南東に26号住と同一床面の30号住確認。さらに東に31号住も確認される。21号住の南西に29号住確認。

7月8日(金)　23号住、26号住写真撮影後灰だまり調査。31号住と26号住の間に32号住あり精査する。27号・30号住精査。31号住の北に33号・34号住発見される。この一帯は住居址の密集地帯である。13号住実測。

7月9日(土)　作業午前中のみ。23号住灰だまり精査。30～34号住精査。

7月10日(日)　休

7月11日(月)　雨のため作業中止。

7月12日(日)　1号溝状遺構掘り下げ。22・23・25・26・30号住清掃写真撮影。33・34号住精査。15号住東に35号住確認精査。

7月13日(水)　21号住清掃写真撮影。32～35号住精査。32～34号住写真撮影。35号住の北に36号住検出精査。35号住は焼失家屋。23号住カマド断面調査。28号住埋設土器調査取り上げ。22・23号住実測。

7月14日(木)　午後雨のため作業中止。31号住の東と南に37・38号住確認精査。23号住カマド調査。24・29・32号住精査。29号住遺物多し。37・38号住精査。

7月15日(金)　雨のため作業中止。

7月16日(土)　天候不順のため作業員少なし、雨のため午前中で作業中止。64～65－ぬ～ふ耕土・土手はずし。

7月17日(日)　休

7月18日(月)　24・29・32・35～38号住精査。20号住東削平部分の遺構検出努める。40・41号住確認。21号住カマド精査。26・30号住実測。29号住の西に一段高い床あり39号住とする。

7月19日(火)　24・29号住精査。24号住炉調査。21・23号住カマド調査。30号住埋甕調査。37・38～41号住精査。56－な中心に大形住居址（42号住）確認。31・34号住実測。

7月20日(水)　雨のため午後3時にて作業中止。32・39～42号住精査。41号住南に開田時に壊され43号住確認、精査する。36号住実測。

7月21日(木)　29・39号住精査。29号住南に落ち込みあり44号住として調査するも住居址とはならず44号住は欠番となる。32・38号住ほぼ完掘。35・36・40～43号住精査。35号住は焼失家屋にて炭化材多く手間取る。36号住南西単独埋甕取り上げ。36号住実測灰だまりの遺物取り上げる。

7月22日(金)　13－25号住カマド精査。31号住カマド実測。27・33号住実測。35・37・38号住清掃。39～43号住精査。42号住の外側に45号住確認。さらに41号住に切られ東側に46号検出。

7月23日(土)　作業は午前中で終了。27・33号住灰だまり調査。38号住内土壙調査。41・42・45・46号住精査、42号住は弥生時代の45号住の中央部に作られ床面差はほとんどない。42・46号住の南側一帯遺物多くでるも住居址もプランはっきりしないため幅30cmのサブトレンチを33号住に向かって設定調査する。２箇所で床面を確認。

7月24日(日)　休

7月25日(月)　午前中東伊那公民館寿学級の皆さん現地見学(約30名)。41号住完掘写真撮影。42・45号住精査。33号住灰だまり調査。昨日検出された床面の住居址（47号住）の範囲の検出に努める。29号・39号住セクションベルト取りはずし精査行う。重機によって井をつけかえる。さらに16号住の西側一帯の表土はぎ行う。

7月26日(火)　29・39・46・47号住精査。42・45号セクションベルトはずし精査。31号住灰だまり調査。32・33号住清掃写真撮影。47号住東と南の柱穴群調査。35号住実測。21・23・25・31号住カマド調査。昨日に続き重機による表土はぎ道北畑部分まで行う。

7月27日(水)　29号埋甕調査。39号住炉断面調査。32・37・38号住実測。42・45・46号住清掃。16号住の西側に大形の49号住、16号住に接して50号住検出。排土が終ったので、17・18号住調査行う。43号住精査。２・３号柱穴址写真撮影実測。

7月28日(木)　雨のため作業中止。

7月29日(金)　29号住埋甕取り上げ。32号住炉断面調査。35号住測量及び炭化材採集。17・18号住精査。46・47号住炉調査。48・49号住精査。42・45号住清掃写真撮影。48号住精査。49号住北東住51・52号確認。東伊那地区小中学生50名ほど見学。

7月30日(土)　作業午前中のみ。48・49号住精査。49号住周溝南に床面らしきものあり53号住とする。17・18・47号住清掃写真撮影。

7月31日(日)　休

8月１日(月)　42・45号住実測。42号住カマド及び灰だまり調査。48号セクションベルトはずし精査。45号住埋甕炉調査。46号住実測。17・49号住精査清掃写真撮影。50・51・52号住精査。

8月２日(火)　教育委員会主催市内小学６年生対象の考古学教室34名の参加で行う。50～53号住精査。15・43・46号住実測。

8月３日(水)　40号住炉断面調査。43・48号住清掃写真撮影。43号住埋甕調査。15号住埋設土器取り上げ。50～53号住精査。

8月４日(木)　遺構全測。48号埋甕取り上げ。50～53号住精査。49号住南西に54号住確認。49号住灰だまり調査。早稲田大学滝口教授、県土地改良課10名見学。

8月５日(金)　土壙10・16～19号、50号住実測。17号住西落ち込み55号住とし精査。50～54号住精査。53号住は壁等不明で住居址の可能性なく欠番とする。

8月６日(土)　作業午前中のみ。51・52・55号住精査。51号住は焼失家屋。54号住清掃。54号住西に56号住検出。

8月７日(日)　休

8月８日(月)　54・55号住清掃写真清掃。49・55号カマド調査。52・56号住精査。49・51・16・50号住の間に床面のみの57号確認調査する。49号住の西に58号住検出精査。54・55号住実測。

8月９日(火)　49号住カマド調査。51号住の清掃及び埋甕調査。52号住精査。56号住清掃写真撮影。58号住大形の住居址で西と北で住居址を切っている。

8月10日(水)　52・56号住清掃写真撮影。57号住精査。58号住精査床面よりやや浮いて遺物多量に出土。54号住の北に59号住あり調査する。

8月11日(木)　57号住清掃写真撮影。59号住の北に数軒の住居址ある。60・61・62号住確認。52号住北西に63号住、58号住北に切られた64号住確認精査。48号住精査清掃写真撮影。52・56号住実測。

8月12日(金)～16日(火)　盆休みのため作業中止。

8月17日(水)　64号住南に58号住に切られた65号住、63号住の東に66号住、西に67号住検出精査する。62号住は遺物多く大形住居址である。

8月18日(木)　64号住と67号の間に68号住、60号住の北西62号住の南に69号住、62号住の西に70号住確認する。61～70号住精査。62号住は礎石を持つ。67号住は68号住に一部貼床。58号住実測。

8月19日(金)　雨のため午後2時30分にて作業中止。61・62・68号住精査清掃。64～67・69・70号住精査。62号住南の1号ロームマウンド、65号住南の2号ロームマウンド精査。61号住居址内土壙24からは土器4個体が重なるようにつぶれて出土。調査地区南東部分バックホウにて漸移層削平作業。

8月20日(土)　雨のため午後1時30分にて作業中止。60・62・69号住清掃。70～74号住精査。34号住北に75号住あり精査。

8月21日(日)　1号ロームマウンド、60号住清掃。70～75号住精査清掃写真撮影。63・66号住実測。19日にバックホウにて漸移層を削った調査地南東部81～87－F～K付近の遺構検出に努める。住居址の重複なのかプランがはっきりつかめない。

8月22日(月)　60・63・66～69号住実測。66号住カマド調査。68・70号住埋設土器取り上げ。昨日同様南東部の遺構検出行う。重複して76～79号住確認。

8月23日(火)　62号住カマド調査。60・61・69号住埋設土器取り上げ。75号住精査。南西部はさらに85号住まで確認され精査する。

8月24日(水)　雨のため午後2時30分にて作業中止。76～85号住精査。75号住内土壙27・28号精査。全測行う。

8月25日(木)　81・83～86号住精査。56号住南に4基（87～90号住）の住居址が重複して確認され精査する。75号住清掃写真撮影。75号住カマド調査。85号住の北西に91号住、81号住と86号住の間に92号住検出精査。

8月26日(金)　76～83号住清掃写真撮影。87～90号住精査。89号住北に土壙31～34あり調査。

8月27日(土)　作業午前中のみ。85号住精査及び清掃。84号住を85・93・81号住が切っている。88号住精査。75号住カマド調査。78・79号住実測。

8月28日(日)　29日(月)　作業休

8月30日(火)　85・86・88号住清掃。82・83号住実測。77・83号住埋設土器調査。93～98号住精査。96・97号住北側重機にて排土。

8月31日(水)　79・87～90号住・土壙31～34実測。85・93・94号住清掃。95～98号住精査。96号住は95号住に切られ礎石を持つ大形住居址。98号住北に99号住あり精査。96号住より小形の灰釉の横瓶の完形品出土。

9月1日(木)　99号住北に100号住確認。95～100号住精査。96・100号住北側には住居址がいくつか続きそう検出に努める。81・84・86・92号住実測。84号住伏甕調査。10個の把手を持つ大形の優品である。

9月2日(金)　96号住北に101号住、その西に102号住確認調査する。98号住の西にカマドがあり、縄文（98号）との重複居住址あり、103号住とする。101号住東覆土中に別の住居址（104号住）のカマド確認。

9月3日(土)　95・96号住清掃写真撮影。100号住カマド手前に2m四方の落ち込みありカマドを持ち105号住する。102、104号住精査清掃。101・102号住の北重機にて排土する。

9月4日(日)　日曜日のため作業員少ない。98・99・101号住精査。102号住実測。99・100号住北東に住居址ありそう検出に努める。

9月5日(月)・6日(火)　雨のため作業中止。

9月7日(水)　101・102・104号住の北遺構検出を行う。

9月8日(木)　午前中昨日同様遺構検出行う。99・100・103・105号住清掃写真撮影。99号住北106号住精査。107～112号住確認精査。107号住は床のみで壁なし。111号住を一部壊して長方形の土壙54ある。108号北に113号住、106号住北に115号住102号住北に114号住確認。

9月9日(金)　101・106～108・110～115号住精査。土壙54より小形水瓶、灰釉段皿完形品出土。114号住西に116・117号住確認調査する。106号住2個の埋設土器確認する。

9月10日(土)　108、110～115号住清掃。99・109号住実測、111・116号住北に118～124号住確認精査する。119号住は西は124号住と重複し、東は炉の半分を120号住に壊されている。

9月11日(日)　雨のため作業中止

9月12日(月)　朝の内天候悪く作業員少ない。116～124号住精査。121号住は炉が2個あり重複住居か不明。122号住は床面のみで壁は検出できない。108・110号住実測。

9月13日(火)　118・121・123号住精査清掃。121号住北に大形の125号住西に接して126号確認精査。

9月14日(水)　125・126号北側重機にて漸移層削る。127～130号住検出調査する。129号住は127・128号住の間にあり両住居址が貼床している。106・113号住埋設土器調査。100・105・106・108・110・113号住実測。

9月15日(木)　台風のため風強い。125・126号住清掃写真撮影。127・128号住精査後貼床壊し129号住調査。130号住完掘。128号住の西に131・132号住確認精査。101・104・114号住実測。101・114号カマド調査。

9月16日(金)　129・131・132号住完掘。112・114号住実測。西畑部分の調査は他地区の調査終了次第行うこととし明日から主体は遊光遺跡に移すこととし、器材片付けを行う。

9月17日(土)　116～120・124号住実測。

9月18日(日)　121・122・123・125・126号住実測。

9月19日(月)　127～132号実測残務整理終了。

11月11日(金)　残してあって畑部分の調査行う。一部の作業員にて調査行う。136・137号住確認精査する。

11月12日(土)　137号住の北東に138号住検出調査。136～138号住清掃写真撮影実測。これにてすべて反目遺跡の調査を完了する。

・遊光遺跡

9月17日(土)　遊光遺跡テント設営。本日より調査開始する。調査地点南側26～31ーた～ま地場削平作業行う。

9月18日(日)　一般作業は中止。

9月19日(月)　平安時代と思われる4基の住居址（1～4号住）確認精査。1号住の南2号住は南側の水田開田時に壊されている。1・2・3号住と深い落ち込みである。4号住は浅いが火災にあっている。

9月20日(火)　雨のため作業中止。

9月21日(水)　1～4号住精査。3号住の西に落ち込みあり精査行う。3号住はカマド付近に多くの土器が出土し、礫も多くみられる。

9月22日(木)　1～4号住精査。3号住西の5号住は最終的に住居址ではない。6～16－そ～まの地場はぎ行う。5・6・7号住確認精査。

9月23日(金)　小雨パラつき、また祭日のため作業員少ない。3・4号住実測。4号住炭化材取り上げ。3号住遺物取り上げ。5～7号住精査。

9月24日(土)25日(日)　雨のため作業中止。

9月26日(月)　1・3号カマド精査。7号住西と南バックホウによる地場はぎ行う。5～7号住精査清掃。土壙4～9精査。

9月27日(火)　雨のため午前11時にて作業中止。5～7号住清掃。1・3号住カマド調査。16～21－た～な地場はぎ。8・9号住確認重複関係はまだ不明。

9月28日(水)　6～21－な～ね漸移層地場はぎ行う。雨上がりのため作業困難。1～3号住カマド調査。8・9号住精査。8号住は南西部を9号住に切られている。

9月29日(木)　8～21－な～は地場剥ぎ行う。6～ね～21－ね方向に幅2m程の浅い溝状遺構確認。9号住精査ロームブロック・灰・焼土の混じった覆土を除くと屋根材と思われる炭化材が板状に全面的に検出される。それと交叉する構造材も確認される。土壙10～14検出調査。5号住南に10号住確認西には柱穴址が続く。

9月30日(金)　雨のため作業中止

10月1日(土)　9号住精査全面に炭化材あり調査困難。10号住精査。柱穴址調査行う。

10月2日(日)　午前中測量のみ行い、一般作業は中止。

10月3日(月)　9号住清掃写真撮影。柱穴址群精査。7号住炉調査。8号住カマド精査。溝状遺構精査遺物まったくなく木材の投入がみられ旧道と考えられる。

10月4日(火)　8号住カマド精査3号住同様左側の方形の落ち込み確認される。9号柱炭化材検討。10号住南柱穴址精査。

10月5日(水)　航空写真測量実施。器材片付け。午後2時より奈良文化財研究所宮本室長9号住炭化材現地視察つづいて記者会見。内陸では珍しい屋根の上に土をのせた陸屋根型式の住居と断定され、現地保存無理なら炭化材の取り上げを検討してほしいとの要望あり、ウレタン処理による資料保存を行うこととした。炭化材採取を除いて調査を終了し、殿村遺跡へ移動する。

10月6日(木)　雨のため作業中止

10月9日(日)　9号住の炭化材発泡ウレタン処理による取り上げ作業。

10月10日(月)　昨日同様炭化材取り上げ。床面精査。整然とした柱穴と炉確認。本日にて遊光遺跡の調査完了。

10月11日(火)　9号住写真撮影。

・殿村遺跡

10月7日(金)　本日より調査開始。テント設営。重機による耕土と地場はぎ行い、下部の調査を

行う。縄文中期に混じって前期の土器や、黒耀石フレイク出土し期待が持たれる。

10月８日(土)　昨日に続き遺構検出に努める。黒色の落ち込み３箇所確認。昨日同様縄文前期の土器出土する。

10月９日(日)・10日(月)　作業中止。

10月11日(火)　２～14－た～ち遺構検出。前日に確認された１・２号住精査。今日より小林遺跡の調査を併行して行い始めたので作業員少ない。

10月12日(水)　１・２号住精査。２号住北西部は他住居址と重複している。雨のため午後３時にて作業中止。

10月13日(木)　１・２号住清掃写真撮影。１～３－お～くに円形プランの落ち込みあり３号住とする。覆土中より縄文前期の土器出土。

10月14日(金)　３号住精査南側は除外地である。調査区南西ぎわに４号住検出精査。その東側に溝状遺構が一部検出される。深さ70cmほどある。

10月15日(土)　本日は中沢小林遺跡は作業中止、一部作業員合流する。３号住清掃写真撮影。４号住精査掘り込み深い。２号住西黒色土の落ち込み５号とする。覆土中より土師に混じって縄文前期土器出土する。別の住居址ある可能性があり、北側を６号住とする。５号住は貼床でその下部を７号住とする。１号住北東に８号住確認精査。

10月16日(日)　休

10月17日(月)　４号住・８号住精査。８号住より縄文前期神の木式土器出土。

10月18日(火)　雨のため一般作業中止。道具の修理と遺物整理行う。

10月19日(水)　３・４・８号住清掃写真撮影。４号住東の溝状遺構精査弥生式土器出土し方形周溝墓と考えられる。溝は５号住を切っている。南西部は４号住に切られている。２号住北の小竪穴（１号）より縄文前期初頭土器出土。５号住は弥生の埋甕炉検出。

10月20日(木)　１・２・３号住実測。４・５号住の漸移層精査。縄文早期末から前期初頭の土器多量に出土。

10月21日(金)　昨日に続き漸移層精査。遺物多し。

10月22日(土)　方形周溝墓遺物精査及び主体部調査。５号住精査清掃写真撮影の後、貼床壊して方形周溝基の調査行う。

10月23日(日)　方形周溝墓清掃写真撮影実測。９号住精査。周溝墓内竪穴調査。５号住実測。

10月24日(月)　作業休

10月25日(火)　雨のため午後３時30分にて作業中止。５号住貼床壊し、７号住北の６号住精査。６・７号住は同一床面で連続している可能性強い。小竪穴５精査

10月26日(水)　６・７号住居址精査縄文前期の土器多量に出土。

10月27日(木)　小林遺跡作業１時中断したため作業員合流する。幹線道路東第Ⅱ地点精査。西側は開田時に削られている。東側は黒色土深く自然流路である。方形周溝墓北９～11－た～ち漸移層精査縄文前期遺物多し。６・７号住、９号住精査。８号住北に落ち込みあり確認行う。

10月28日(金)　９号住精査一部６号と重複切っている。８号住北に10号確認さらに北西に重複して11号住その東に12号住重複して検出される。各住居址精査。

10月29日(土)　９号住清掃写真撮影実測。９～12－そ～ちⅣ層精査遺物多い。10号住完掘実測。11号住精査10号住貼床下部調査。12号住精査。10号住東部分貼床下に13号住検出精査する。６・７号住精査７号住は６号住と同一床面にて同一の住居址とし７号住欠番とする。６号住一担遺物を採り上げ下部調査行う。

10月30日(日)　作業員少ない。一日中寒風が吹く。４号住実測。１・２・４・９号住カマド精査。２～８号小竪穴清掃。６号住精査。

10月31日(月)　６号住精査遺物多い。11～13号住精査。４・９号住カマド精査。９～12－た・ち、11、12－せ、そⅣ層精査。６号住北に14号住確認精査する。北側一帯重機にて排土する。

11月１日(火)　11～13号住清掃実測。６号住精査。14号住精査完掘。９号住カマド調査。９～12－た・ち、11・12－す～そⅣ層精査遺物多い。

11月２日(水)　６号住精査。11～14－し～つⅣ層精査遺物多く住居址があると思われる。14号住実測灰だまり調査。

11月３日(木)　６号住遺物採り上げ清掃。14号住灰だまり調査南西貼床下の小竪穴11調査。昨日同様11～14～し～つⅣ層面精査、15・16号住検出精査。

11月４日(金)　16～26－か～つ遺構検出に努める。15・16号住精査、16号住は重複の可能性ある。17・18・19号住確認精査。

11月５日(土)　朝雨のため作業中止

11月６日(日)　15・16号住精査。16号住南に同一床面の20号住検出縄文前期初頭の住居址である。17・18・19号住精査18号住の南にわずか貼床した21号住ある。

11月７日(月)　15～21号住精査。21号住の西に22号住、17号住南に24号住確認精査。

11月８日(火)　17・18・21号住清掃、15号住精査。22・24号住精査。

11月９日(水)　15号住精査覆土中の礫群調査。小竪穴12精査。22号・24号住精査。22号住東には25号住確認調査する。

11月10日(木)　19・22・24・25号住精査。19号住の西貼床下に26号住さらにその北に27号住が確認される。

11月11日(金)　14号住カマド精査。25～27号住精査。22号住灰だまり調査。22号住は西と東にカマドを持ち別の住居址の可能性もある。土壙６・７・８号調査。

11月12日(土)　土壙６～９号精査。25～27号住精査。19号住北東に重複する28号住検出。28号住北に29号住あり精査。

11月13日(日)　28号住の西に30号・34号、29号住の北に31号・32号・33号住検出精査。さらに27号住の北西に35号住精査。小竪穴10・19号精査。

11月14日(月)　26号・31～35号住精査。35号住は貼床で下部に40号住ある。35号住北に37・38号、一段上の北の田に39号住確認遺物多し。

11月15日(火)　37・38・39号住精査。35号住貼床壊して40号住精査。29～32号住実測。

11月16日(水)　昨日掘り残した37～40号住の遺物採りあげ及び清掃。午後器材洗浄テント撤収。本日にてすべての発掘完了。

・小林遺跡

10月11日(火)　本日より調査団を分けて当遺跡の調査を開始する。テント設営、器材準備。重機による表土はきができなく手掘りのため、発掘区の草刈りを行いグリットを設定する。

10月12日(水)　雨のため午後４時にて作業中止。残りの草刈り終わり次第８・10－き、８－し、11－そグリット掘りを行う。耕土15cmで地場となる。砂層のため地場はあまりはっきりしない。下層もすべて砂層で層位ははっきりしない。陶磁器片出土。

10月13日(木)　10－きＧ砂礫層掘り下げる。一部暗褐色の砂質土あり。縄文中期の大形破片出土、11－き、９－ち、23－け、26－く・さ、30－きＧ掘り下げ。

10月14日㈮　23・32－し、26・29－さ、25－け、25－そ、26－す、29・33－せG掘り下げ、礫に混じって土器・石器出土。遺物多く出土するので拡張して確認行うこととする。
10月15日㈯・16日㈰　作業中止
10月17日㈪　金曜に続きグリット拡張。遺物多く礫もみられ配石の可能性もある。
10月18日㈫　雨のため現場作業中止。調査員遺物整理道具手入れ行う。
10月19日㈬　引き続きグリット拡張行う。遺物多く配石は幅２ｍ前後で弧状となりそう。
10月20日㈭　昨日拡張部の配石調査。配石は弧状二列になり、その間に円形状の配石もみられる。
10月21日㈮　配石周辺グリット耕土はぎ。
10月22日㈯　昨日耕土はぎを行った30・31－く～そ、24・25－さ・し、27～29－そのグリットの配石精査。
10月23日㈰　昨日までに検出した配石の清掃
10月24日㈪　作業休
10月25日㈫　雨のため午後３時半にて作業中止、配石内清掃。遺物写真撮影。
10月26日㈬　配石清掃、11－さ、11－け、10－く、27－ち、33－つグリット下部まで掘り下げ。本日にて作業一時中断する。
11月７日㈪　㈱パスコによる航空写真実測行う。
11月８日㈫　配石の実測終了したため配石の石をはずし下部の調査行う。28－し・すグリットに縄文中期初頭の土器・石器集中出土。南側の礫群は下部に礫が続いており自然のものか不明のため一部掘り下げ調査を行う。
11月９日㈬　昨日同様31～32－け～せの礫下部調査を行う。非常に乱雑な状態で堆積しており、配石と考えるには問題があるとの結論で小林遺跡の調査は本日で終了する。
11月10日㈭　器材撤収して殿村遺跡へ運ぶ。

・整理作業
現場作業に並行して、遺物の洗浄一部遺物復元・註記作業を行った。
7月21日から反目遺跡の遺物洗浄作業を行う。
10月11日　反目遺跡の遺物復元作業。
10月13日　殿村・遊光遺跡の遺物洗浄作業。
11月17日　発掘調査終了のため本格的整理に入る。整理作業員を増員して註記作業を中心に行う。
12月10日　遺物洗浄作業終了。
12月20日　本日にて63年度分の事業終了。本日以降気賀沢が図面整理、遺物復元を３月まで行う。

平成元年度
本年度事業は、昨年度実施した反目遺跡外３遺跡の整理作業と報告書刊行であり、５月29日より事業を開始した。土器の実測については、効率化を図るため大半をスリースペース方式を採り入れて、株式会社パスコに委託して行った。

第Ⅱ章　調査遺跡

第１節　反目遺跡

１　位置と地形（第１・３図）

当遺跡は駒ケ根市東伊那栗林に所在する。ＪＲ飯田線大田切駅より東へ約３㎞に位置し、標高は610ｍ前後である。反目遺跡は栗林地区の曽利目に位置しており、その点からすれば曽利目遺跡とするのが妥当との考えもあるが、江戸時代の検地帳に反目の記載もあり、登録遺跡名が反目遺跡とされているのであえて変更してないことを了知いただきたい。

西の木曽山脈、東の赤石山脈その前山の伊那山脈の間を流れる天竜川によって形成された河岸段丘は、天竜川に注ぐ多くの支流によって開析され、田切地形が造られている。当遺跡は、天竜川の第二段丘上にある。

南を流れる天竜川の支流による湿地帯が東側にあり、その対岸には遊光遺跡がある。便宜上別の遺跡名としてあるが、集落の成り立ちから考えれば同一の遺跡と考えても良いと思われる。当遺跡の北300ｍほどに塩田川が流れているが、遺跡の占地条件として広いものである。遺跡の北、県道伊那生田線の上は一段と高い丘陵が続いている。

地質基盤は伊那礫層から成り、その上に新期ロームが堆積する。ローム層の厚さは２～３ｍである。その上に漸移層が10～20㎝、そして現表土（黒色土）となるが、遺跡の大半は水田のため以上述べたような模式的なものとはならないのは当然のことである。

遺構の検出面は弥生時代以降は漸移層でプランがはっきりと検出できたが、縄文時代の遺構は明確にでき得ない状態であった。

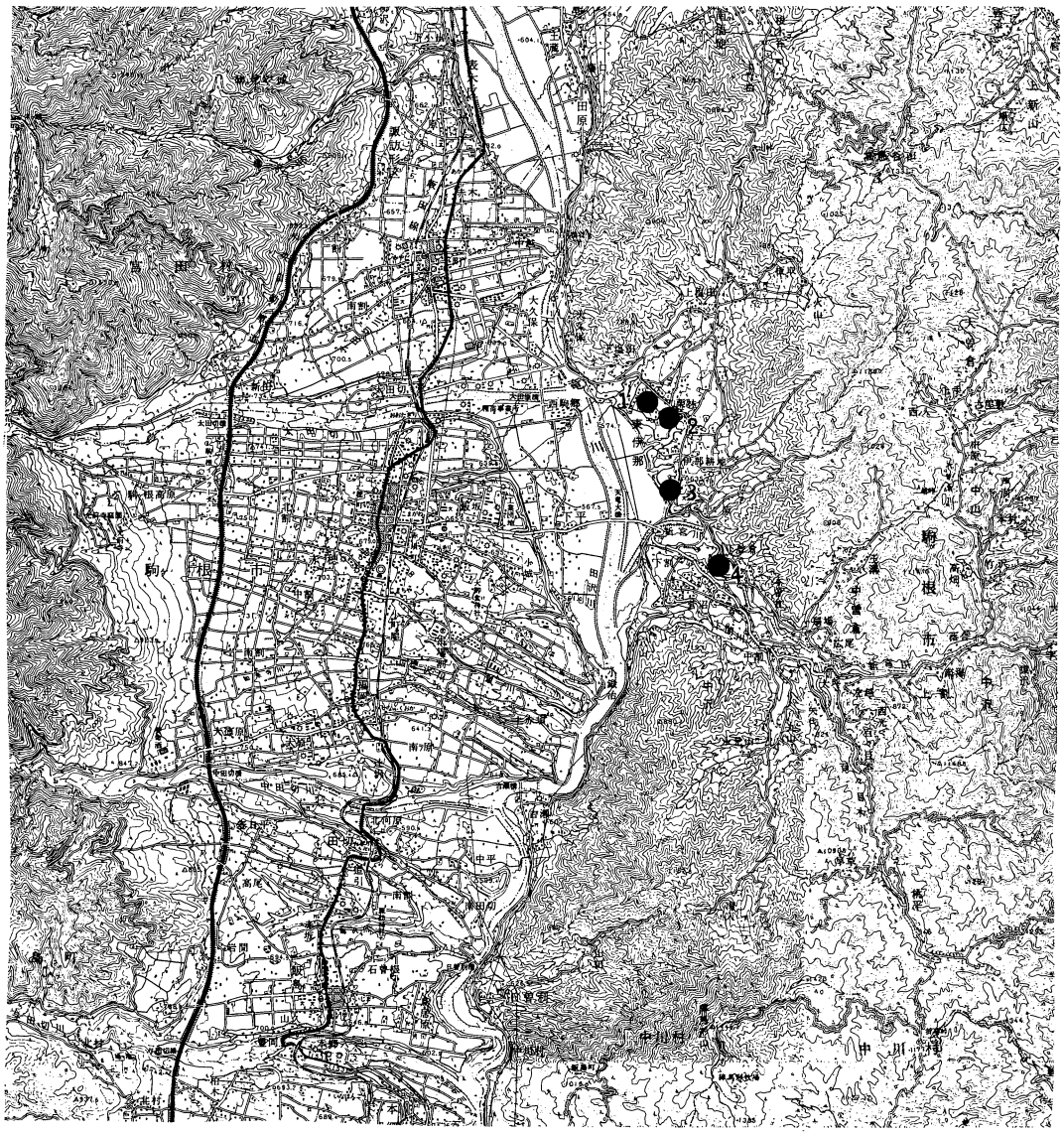
２　歴史的環境（第２図）

天竜川の河岸段丘の発達した東伊那地区は、天竜川に流れ込む小河川が開析して丘陵状地形を呈し遺跡の宝庫である。また中世から戦国時代にはその突端部を利用して域館址が造られている。

大正末年発行の「先史及び原始時代の上伊那」に多くの遺跡が確認されている。また昭和24～26年に発掘調査された東伊那遺跡群は有名である。これについては第３節殿村遺跡においてふれることとしたい。以下東伊那地区の遺跡の概略を述べることとする。

縄文時代の遺跡は、中期の大久保（１）、反目南（６）、山田（13）、殿村（10）、後期の配石遺構が発見された青木北（22）が知られる。反目南遺跡は当遺跡の南一段低い段丘突端にあり、昭和62年度において発掘調査を行った。検出された遺構は弥生時代以降のものであったが、縄文早期の押型文土器の良好な資料が得られている。

弥生時代になると遺跡の数は増え、遊光（５）、反目南（６）、殿村（10）、狐くぼ（11）、丸山（12）、善込（16）、栗林神社東（17）、城村城（15）がある。古墳時代から平安時代のものとしては、反目南（16）、遊光（５）、殿村（10）、上塩田（18）がある。また古墳もあったとの言い伝え



1　反目　2　遊光　3　殿村　4　小林

第１図　遺跡位置図（S＝１：200,000）

1　大久保　2　大久保城　3　高田城　4　反目　5　遊光　6　反目南　7　遊光城
8　稲村城　9　稲村古城　10　殿村　11　狐くぼ　12　丸山　13　山田　14　城村古城
15　城村城　16　善込　17　栗林神社東　18　上塩田　19　塩田城　20　青木城　21　青木
22　青木北　23　原城　24　菅沼古城

第２図　周辺の遺跡分布図（Ｓ＝１：30,000）

もあるが定かではない。

これらの遺跡とともに、中世の城館址が目につく。天竜川の段丘上突端部を利用した城館址が上伊那地方には多くみられるが、東伊那も例外ではない。当遺跡の北西には高田城（３）、塩田川を挟んで北側には大久保城（２）、遊光遺跡の突端部には遊光城（７）、その南側天王川の対岸に稲村城（８）、稲村古城（９）、さらに新宮川の南中沢地区には菅沼古城（24）と天竜川第１段丘上に連続して城館址がみられる。さらに一段段丘を上がると南から原城（23）、城村古城（14）、城村城（15）、塩田城（19）、青木城（20）がある。

このように多くの城館址があるが、発掘調査されたものは、青木城のみであり多くの城館址の性格は不明である。

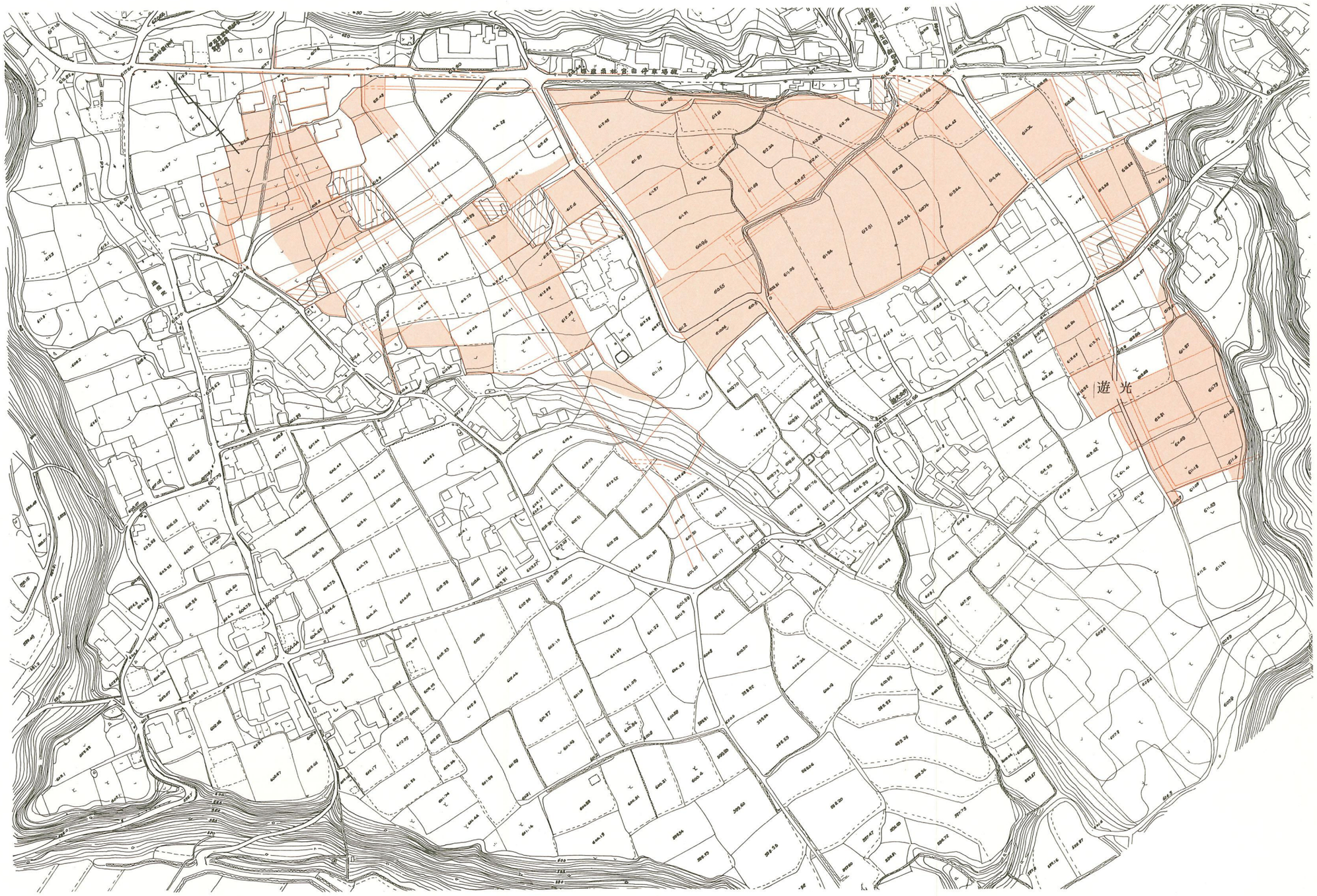
当遺跡の北西約600mほどの扇状地に展開する下塩田部落一帯からは中世の遺物が出土しており、平安末～鎌倉初期と考えられる五輪塔、応永年間の銘のある宝篋印塔、中世様式を潰す六地蔵石幢など中世石造物も多くみられ、注目される。

３　調査概要（第３・４図）

反目遺跡は東側に湿地帯を持ち、その周辺は昔からの宅地となっている。また西側も古くから家が建てられ、遺跡の規模は不明である。今回の調査はその宅地の間の水田一部畑の調査である。昔から耕作中に土器が出土しており注目される遺跡である。

湿地帯の西側の市道と県道伊那生田線の交点を基準とし、県道に沿って東から西へＡ・Ｂ・Ｃ……、あいうえお（50音順）……イロハ順、直交する方向に算用数字を用いた２ｍ四方のグリットを設定した。

当初10mおきに試掘を行った結果、段丘の縁に沿って大量の遺物や遺構らしき落ち込みが確認され、県道に近くなるほど希薄となることがわかった。試掘の結果から予想どおり大規模な集落址が考えられ、全面調査を行うことにした。工事の入札の遅れから重機の手配ができず当初は、グリット発掘によって遺構確認を行い検出次第拡張することとした。重機の手配ができてからは、耕地埋土を全面はいだ後遺構確認を行うこととした。５月末から約４箇月近くの調査の結果は確認された住居址は縄文、弥生、古代と３時代135軒と市内最大の成果を得て終わった。



第３図　反目遺跡・遊光遺跡概要図（Ｓ＝１：3,000）

（●は埋立保存区域、▨は換地計画のみ）

4　遺構と遺物

1）　住居址

⑴縄文時代

①　第15号住居址（第５～８図）

遺構　本住居址の南には第16号住居址がある。当址の覆土を第１号住居址が掘り込んでいる。

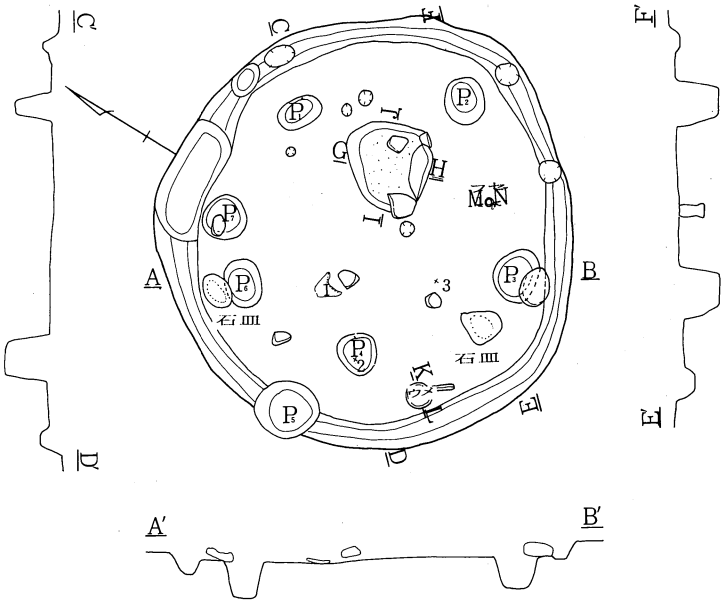
プランは円形を呈し、4.5×4.4mを測る。壁高10～15cmと浅く立ち上がりはゆるやかである。全周する周溝がある。

炉は中央東寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で南側の炉石を残して他は抜きとられる。

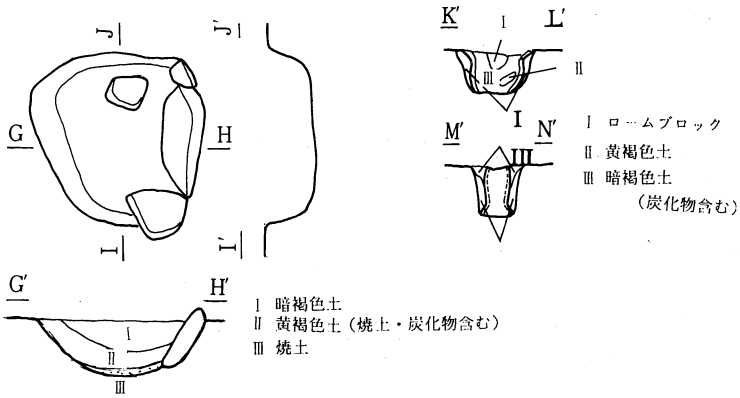
柱穴は５本（１・２・３・４・６）である。P_7は浅い。南西壁ぎわ入口部に正位の埋甕、炉と南東壁の中間に逆位の埋甕がある。内部よりは特に遺物は検出されていない。炉の手前入口部に近い所に土器がまとまって出土している。またP_3の西、P_6の西側床面上より石皿が検出されている。

遺物　１は埋甕、２は伏甕である。２の底部穿孔部は打ち欠くだけでなく、きれいに磨いている。

10は胴下部に縄文を持ち唐草文との組み合わせとし珍しいものである。

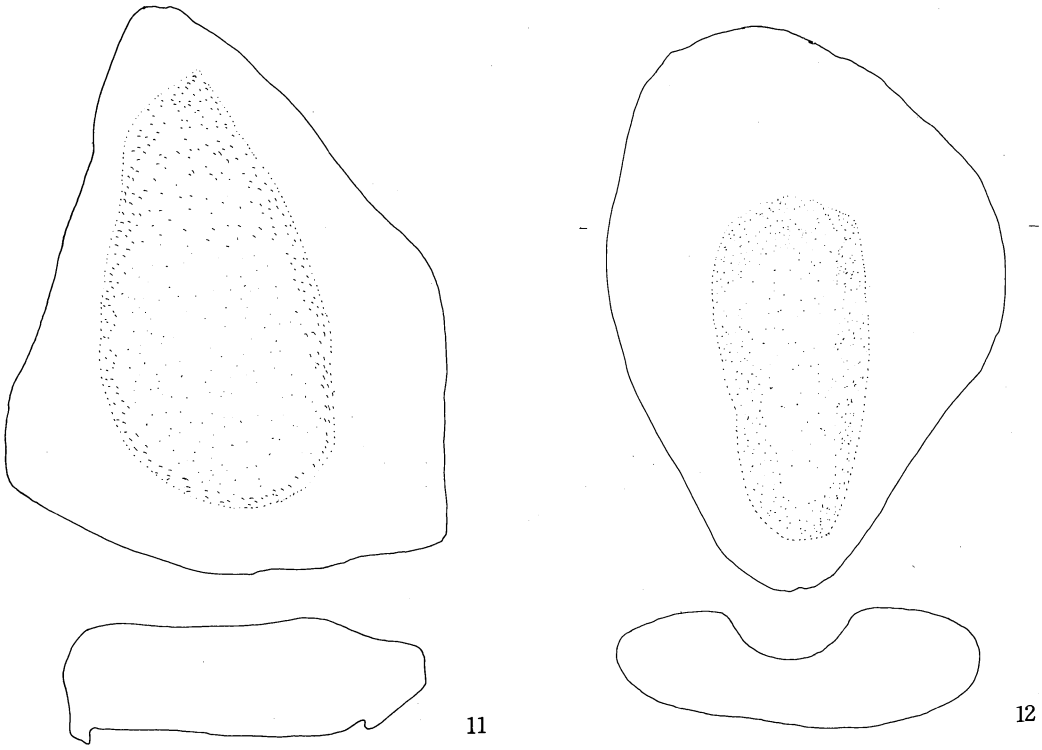


第５図　第15号住居址実測図（S＝1/80）



第６図　第15号住居址炉及び埋設土器断面図（S＝1/40）

第７図　第15号住居址床面出土土器（１は埋甕・２は伏甕、１～５は１/６・他は１/３）



第８図　第15号住居址石皿実測図（1/6）

石器は床面から打製石斧、敲打器、石皿、石敲打器、石皿、石礫各２点と横刃形石器、削器各１の10点、覆土から横刃形石器１点が出土している。

埋甕などからすると縄文中期後葉Ⅱ期（米田明訓氏編年）の様相をみせるが、唐草文土器がある処からⅡ期の後半からⅢ期への過渡期と考えられる。

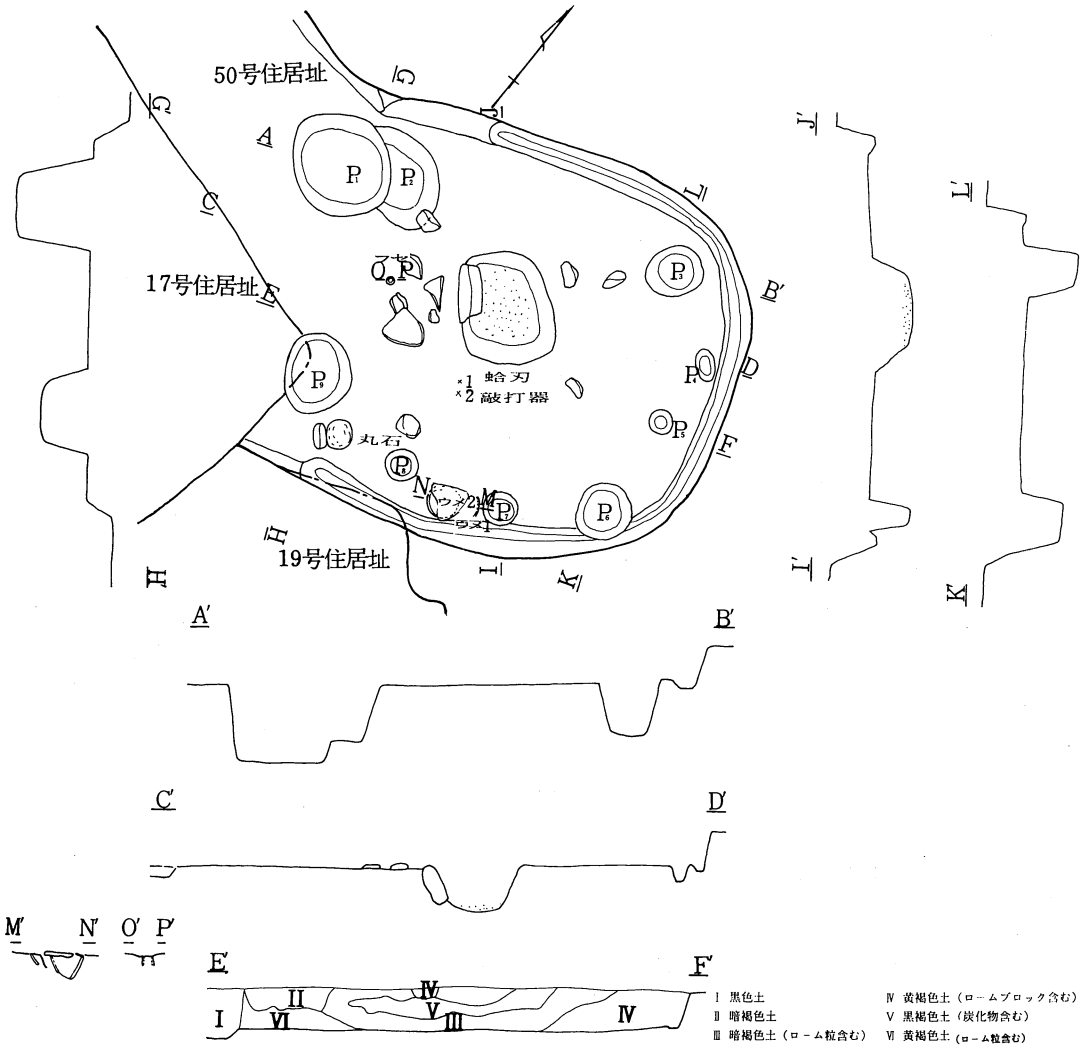
②　第16号住居址（第９～13図　図版）

遺構　本住居址は、第15号住居址の南にあり、北西部は同一床面にて第50号住居址と重複し、南東部は第17号住居址に切られ、南側は一部第19号住居址が貼床、またその東の第19号住居址を切っている。

プランは隅丸長方形で、東西推定4.8m、南北4.4mを測る。壁高は40cm前後で直に近い。床面は固くタタかれ堅緻である。炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で西側一部を除いて炉石は抜きとられている。周溝は西側を除きみられる。

主柱穴は４本で入口施設柱穴がみられる。その入口施設にはさまれる格好で正位の埋甕が２個発見されている。右側の埋甕１（第10図－７）を壊して埋甕２（８）が埋設されているが埋甕２も完形ではない。炉の西側１mほどの所に逆位の埋甕（９）がある。

P_9の東壁ぎわに花崗岩の丸石が床面上にすえられている。また炉の手前に蛤刃の磨製石斧と敲打器が出土している。覆土の堆積状況は逆レンズ状を呈している。

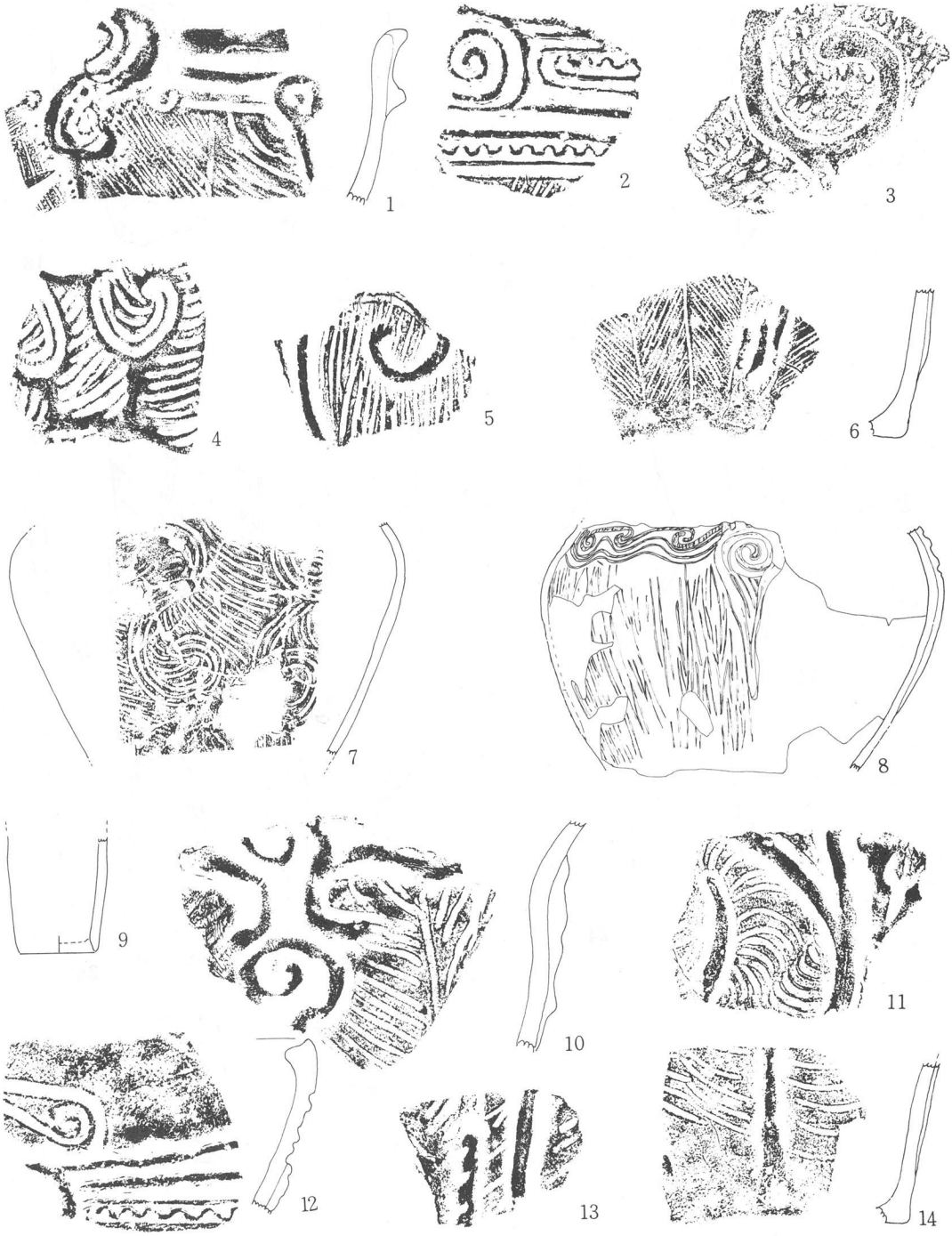


第９図　第16号住居址実測図（S＝1/80・埋設土器は1/40）

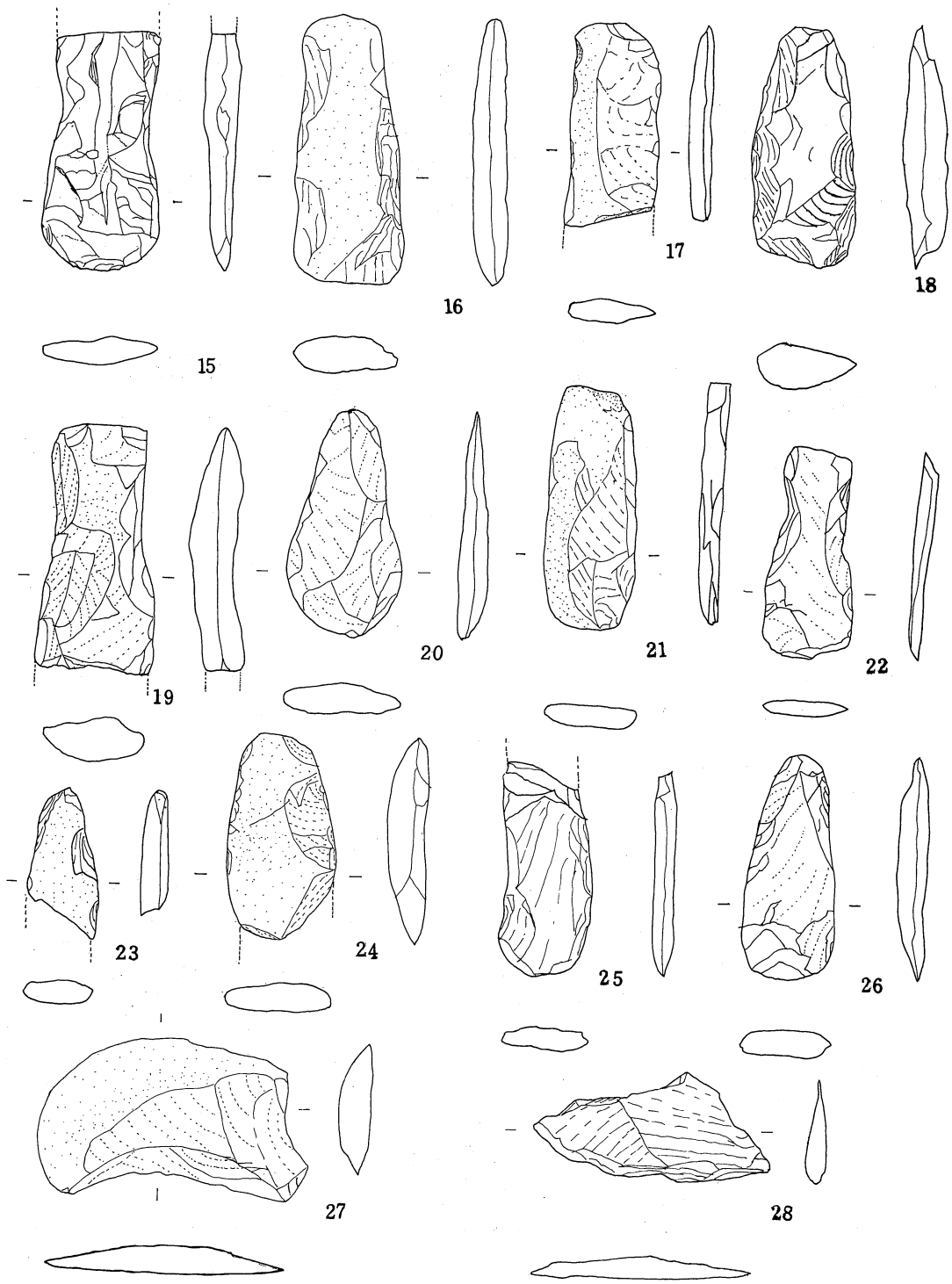
遺物　土器・石器ともに多く出土している。７は埋甕１で埋甕２（８）に壊されていたが、時期的に差がみられない。土器の主体は唐草文土器である。

石器は床面より21点、覆土中より22点計43点と多く出土している。打製石斧は床面で12点、覆土でも11点とほぼ半数を占めている。次に敲打器・削器・掻器が目立つ。

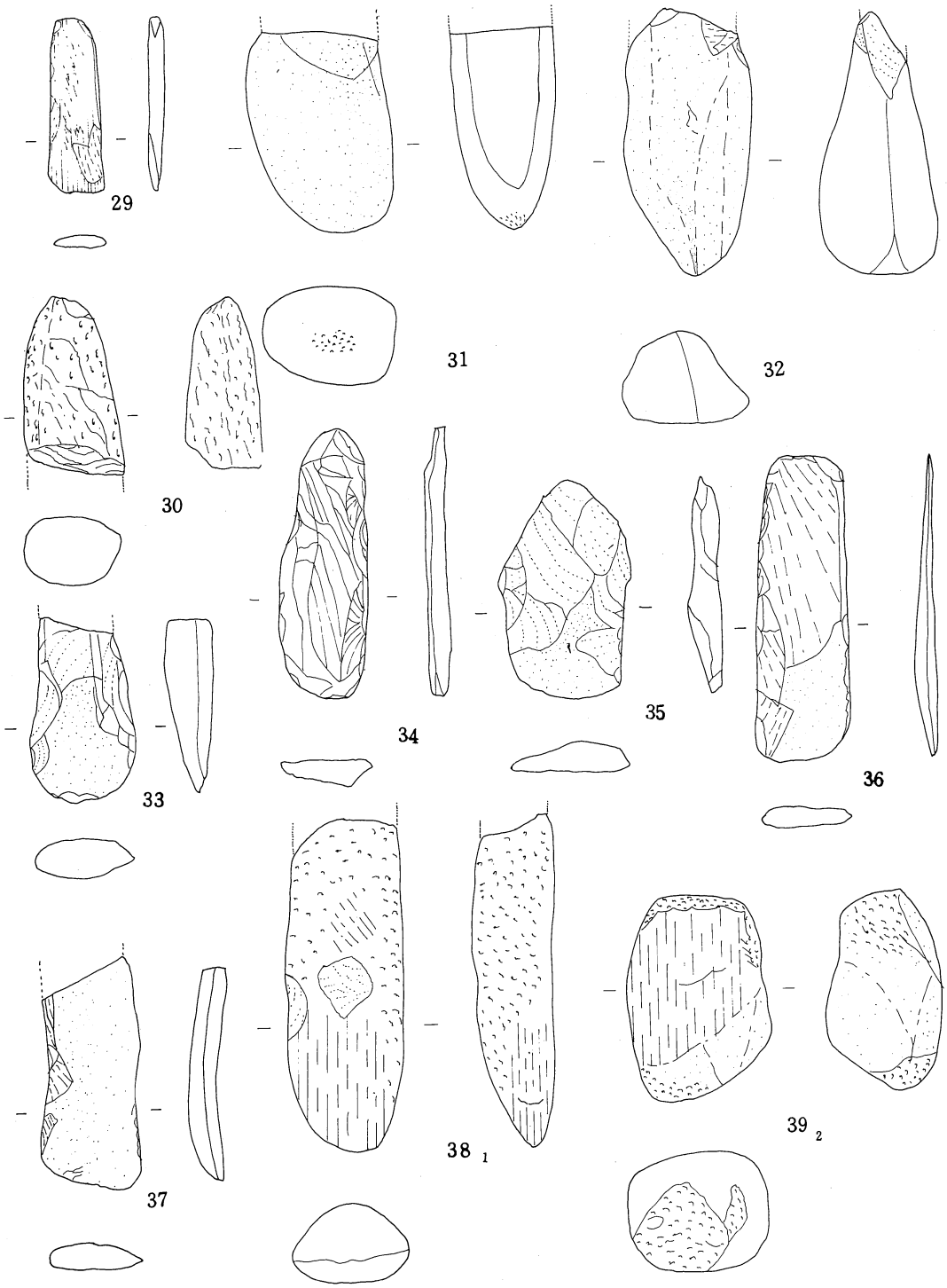
時期は唐草文主体の縄文中期後葉Ⅲ期である。



第10図　第16号住居址出土土器（１～６は覆土・７は埋甕１・８は埋甕２・９は伏甕・10～14は床面、７～９は１/６他は１/３）



第11図　第16号住居址覆土出土石器（1/3）



第12図　第16号住居址出土石器（29～32は覆土・他は床面、1/3）

③ 第19号住居址（第14・15図　図版）

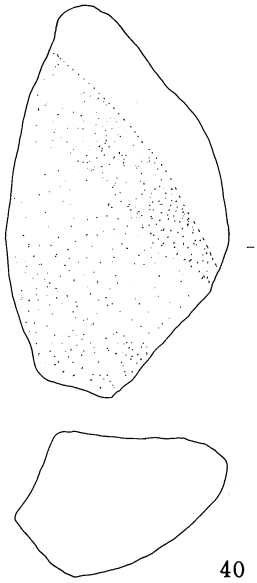
遺構　本址は北側で第16号住居址、西側は第17号住居址、南東部では第18号住居址に切られ、半分ほどを残すのみである。壁高は南西部で10cm前後と浅く北東部では15cmほどである。床面は固くタタかれている。

プランは隅丸長方形を呈すと思われ南北方向で5.3mを測る。炉が検出されていないため主軸方向は不明である。柱穴はP_5・P_7の２本が現存しているがもとは４本と思われる。

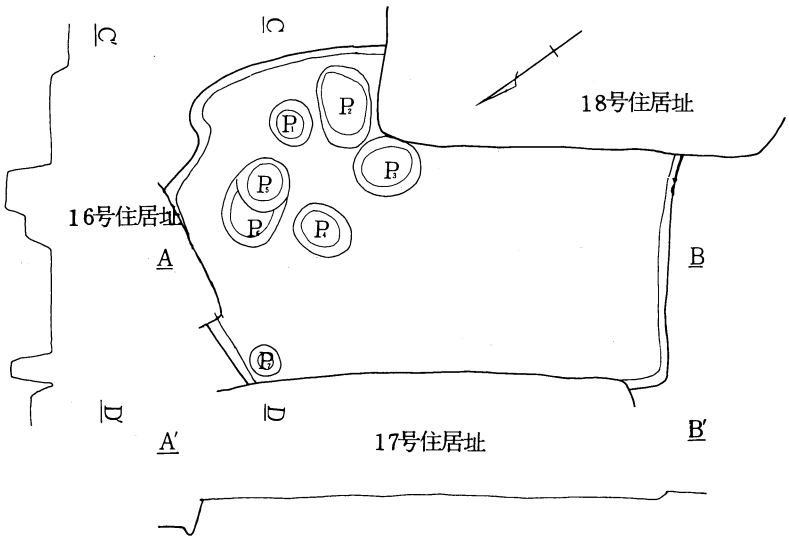
遺物　遺物は少ない。１は唯一器形のわかるものである。口縁部は無文で口唇は内屈する。頸部に横走する二条の隆帯を巡らし、下部は、半裁竹管文が従走する。

石器も土器と同じく少なく床面より打製石斧１点が出土しているのみである。

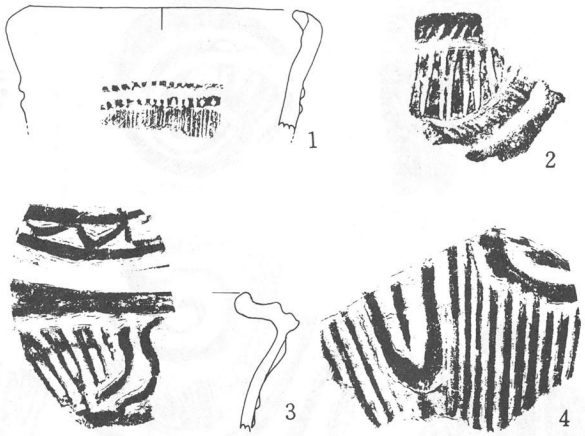
時期は土器が少ないが、中期後葉Ⅰ期である。



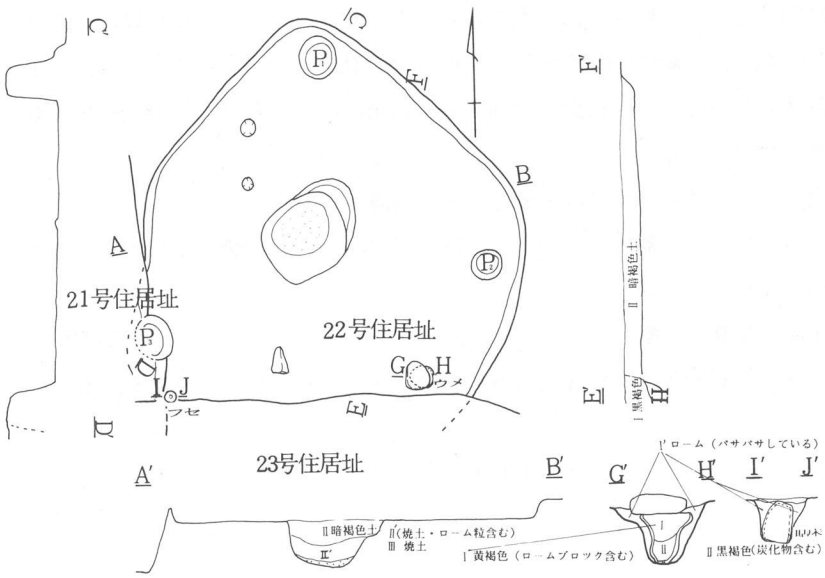
第13図　第16号住居址出土石皿（1/6）



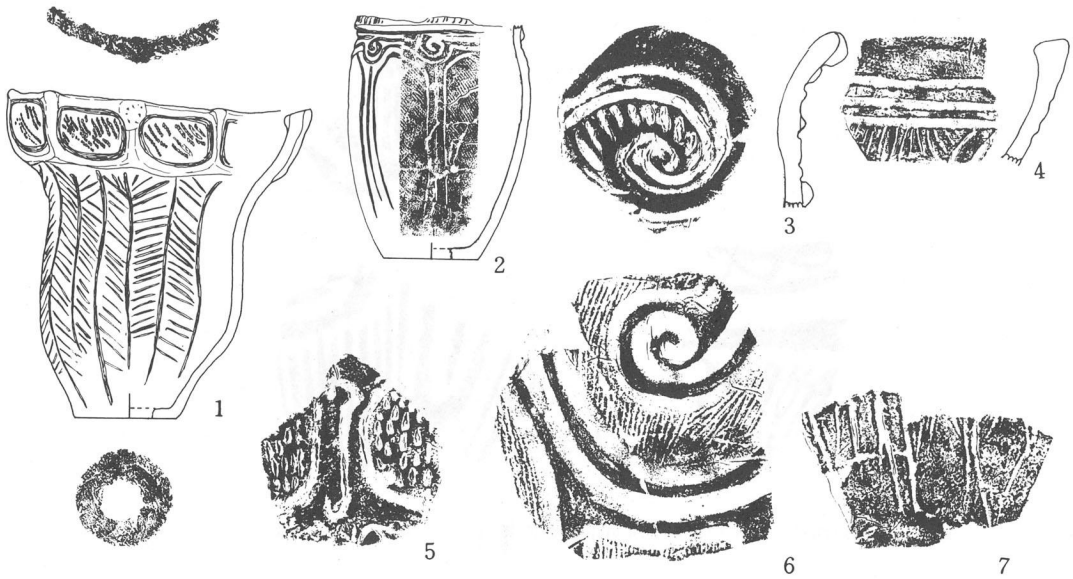
第14図　第19号住居址実測図（S＝1/80）



第15図　第19号住居址床面出土土器（1は1/6他は1/3）



第16図　第22号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）



第17図　第22号住居址床面出土土器（１は埋甕、２は伏甕、１・２は１/６他は１/３）

④　第22号住居址（第16～19図　図版）

遺構　当住居址は段丘端部中央に位置している。北西部は第21号住居址に南西部は第23号住居址に切られている。

プランは隅丸方形を呈すと思われ、主軸方向で4.1mを測る。主軸方向はN－40°－Wである。覆土の堆積は浅く一層である。炉は中央奥寄りにあり掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。

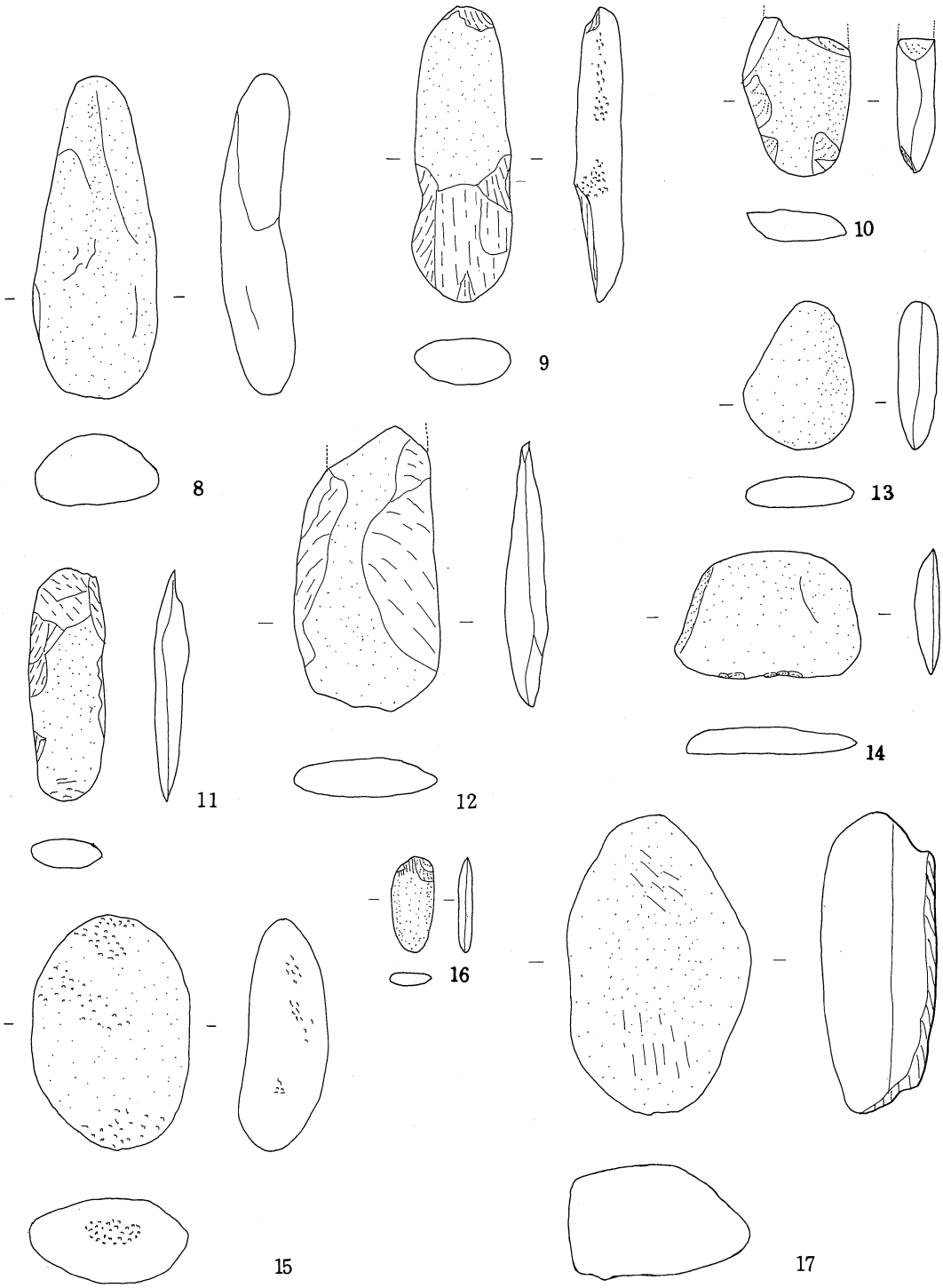
主柱穴は23号住居址に壊された１本を含む４本である。P_3は21号住居址に切られ半分残るだけである。入口部に石を載せた埋甕がさらにP_3の南に伏甕がある。埋甕の内部は上半部にロームブロックが蓋状となっている。伏甕は上部を固く貼床状にしてあり、23号住居址の壁に露出したため確認できた状態である。

床面は南にわずか傾きタタキは顕著でない。周溝もみられない。

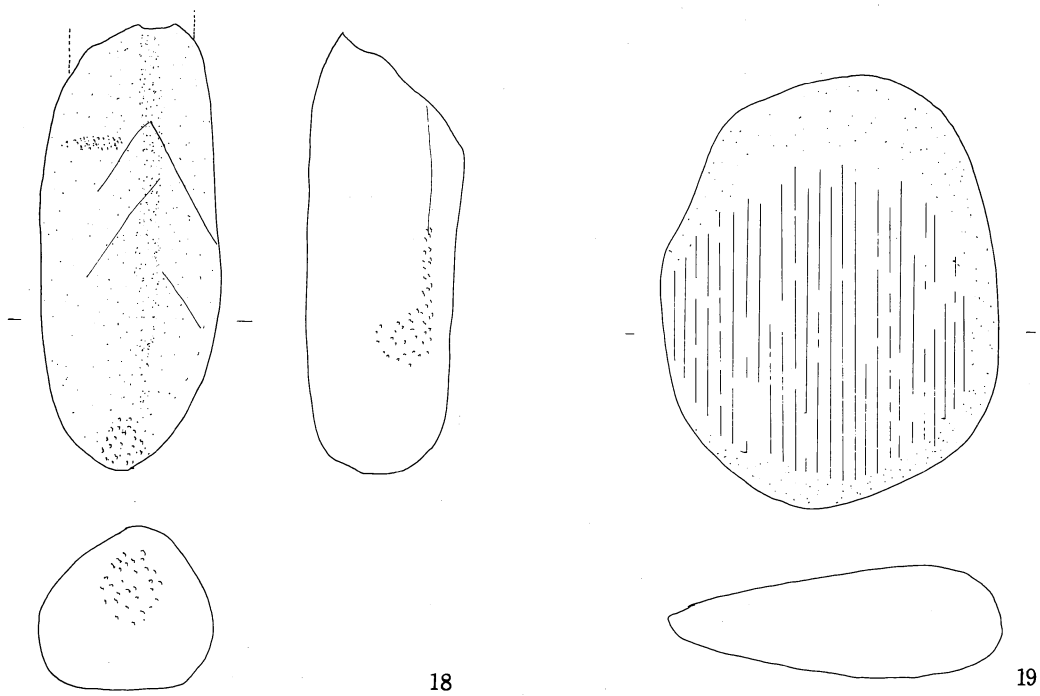
遺物　土器は少ない。器形の分かるものは、埋甕（１）と伏甕（２）のみである。ともに底部中央を円形に穿孔されている。

石器は床面より９点、覆土中より５点の計14点が出土している。内訳は敲打器５、特殊磨石３、打製石斧・横刃形石器各２、特殊敲打器・石礫各１である。19は平盤な石で石皿に近いものであろう。

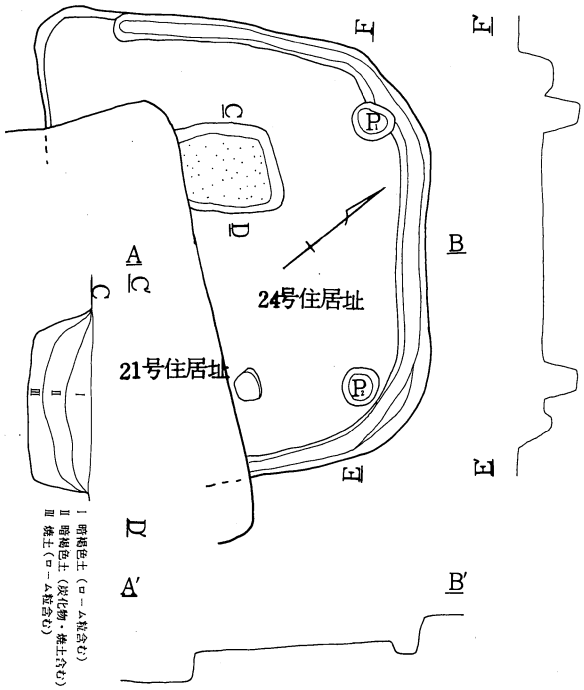
時期は埋設土器からして中期後葉第Ⅱ期である。



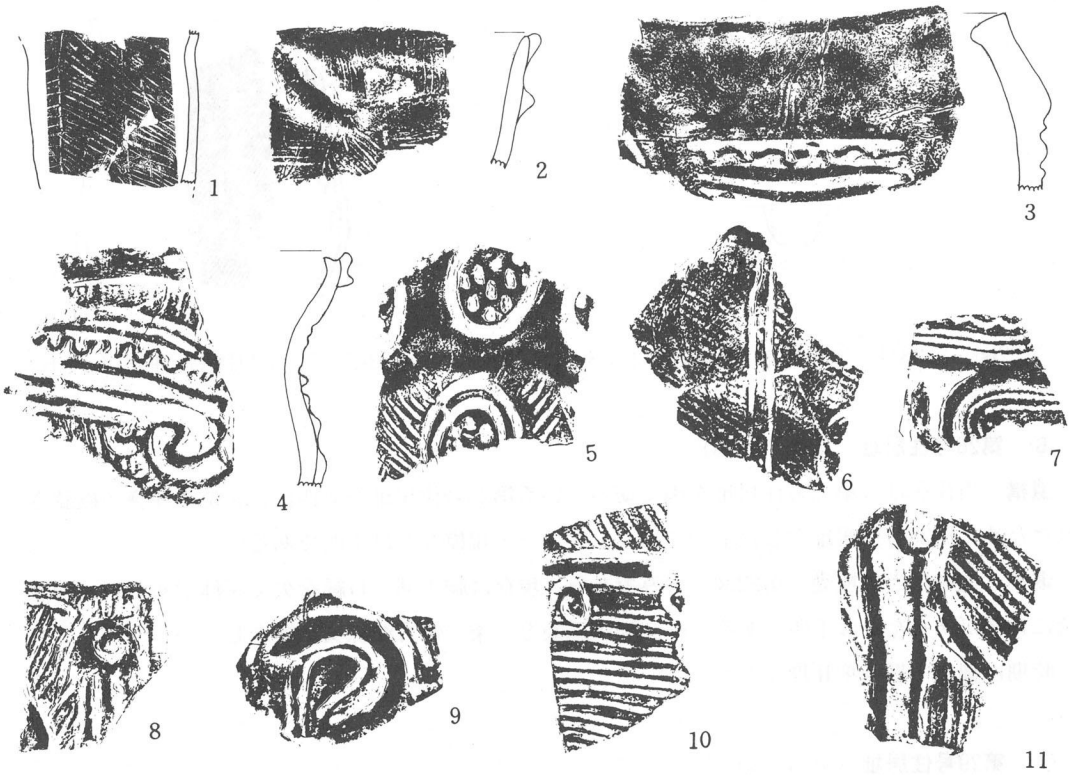
第18図　第22号住居址出土石器（８～13は覆土・他は床面、１/３）



第19図　第22号住居址床面出土石器（18は１/３、19は１/６）



第20図　第24号住居址実測図（Ｓ＝１/80、炉断面図は１/40）



第21図　第24号住居址床面出土土器（1は1/6、他は1/3）

⑤　第24号住居址（第20・21図）

遺構　当住居址は第22号住居址の西にあり南西部と炉の一部は第21号住居址に切られている。

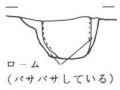
プランは隅丸長方形で規模は推定4.8×4.0mを測ると思われる。床面はやや南西に傾き固くタタかれている。周溝は西側にはみられない。主軸方向はN－52°－Wである。

炉は中央西寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。焼土は厚い堆積をみせている。主柱穴はP_1・P_2の２本が現存しもともとは４本であろう。

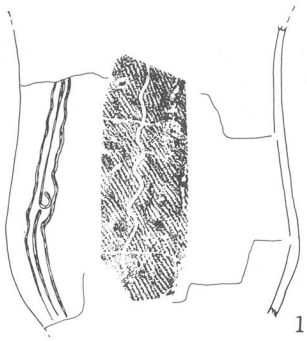
遺物　土器は少ない。主体は唐草文系土器である。１・２はともに浅い細縞文で施文されるものである。

石器は全部で16点内床面よりの出土は４点である。打製石斧が９点と多く、他には、定角と蛤刃の磨製石斧・石錘・敲打器・特殊敲打器・横刃形石器・石礫各１点ずつである。

時期は中期後葉Ⅲ期である。



第22図　第28号住居址埋設土器断面図（S＝1/40）



第23図　第28号住居址埋甕（1/6）

⑥　第28号住居址（第22・23図）

遺構　当住居址は第22号住居址を南で切っている第23号住居址の北西部に正位の埋甕が確認されたため、第28号住居址としたものであり、プラン・規模などは不明である。

遺物　遺物は当然埋甕（第22図）のみである。現存は胴下部と口縁を欠く深鉢であるが、埋設時に口縁があったかは不明である。縄文地に三条と一条の蛇行沈線文が縦走している。

時期は縄文中期後葉Ⅱ期である。

⑦　第29号住居址（第24～29図）

遺構　第22号・24号住居址の南に位置し北側にて第21号住居址と接し、第39号住居址を切っている。南西部は撹乱状態で壁の一部が壊されている。

プランは西側が張り出した五角形に近いもので、4.0×4.4mを測る。壁高は南東部にて60cmと深い。床面は全体に固く堅緻である。浅い周溝が全周する。主軸方向はN－18°－Eである。

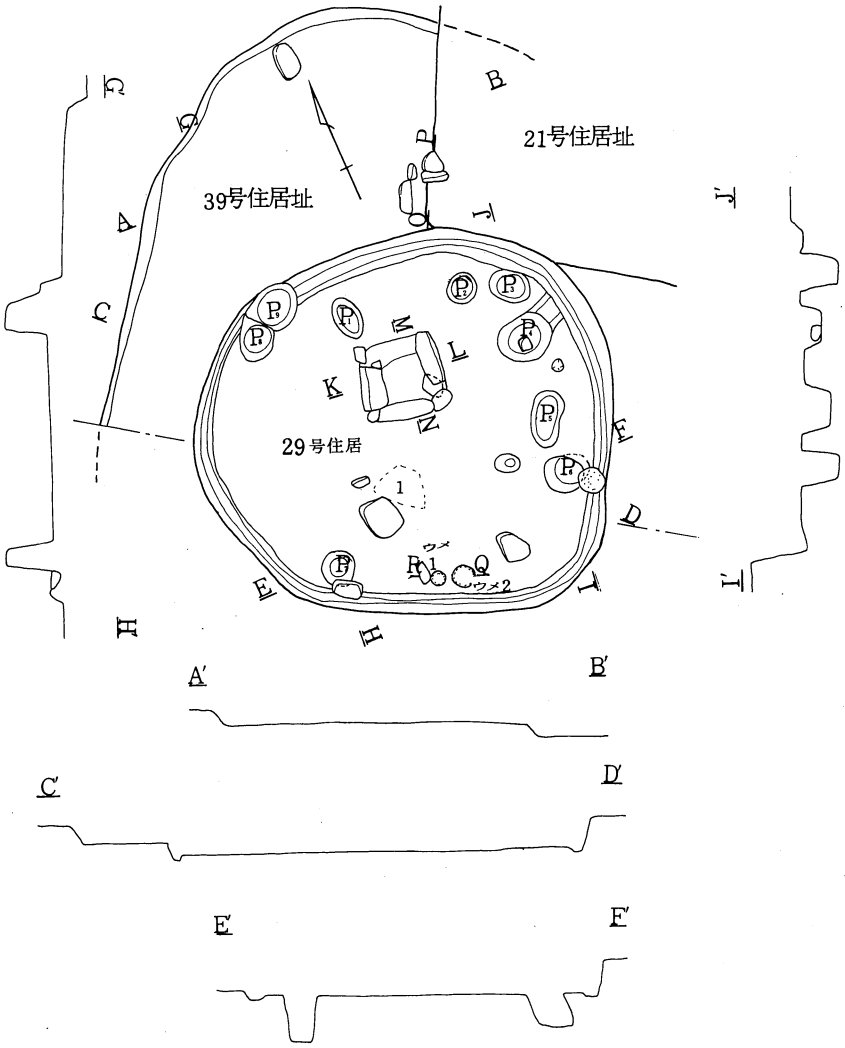
柱穴の在り方からして一回の建替が行われたものであろう。炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で北側の炉石は抜かれている。手前南側の炉石は他と違い横長に石を用いて平らしている。これはこの時期の一つの特徴である。

主柱穴は４本である。P_3・P_4、P_5・P_6、P_8・P_9と３本は動いており一回の建替が行われたことが知られる。P_7の東、南壁ぎわ入口部に正位の埋甕が２個（第26図－１・２）検出されている。埋甕１は底部と口縁を欠いている。埋甕２は完形品で埋甕としては数少ない例である。

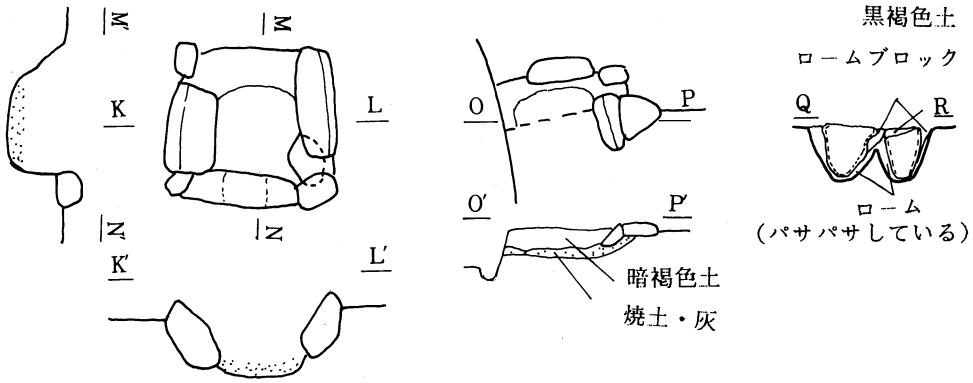
遺物　１は埋甕１で口縁と底部を欠いている。地文は無文で三条一組の竹管文が施される。２は埋甕２でわずかに波状を呈し、底には木葉痕を残す。胴部は縄文に横走する入組文と蛇行懸垂文が施される。３・４は炉の手前床面より５cmほど浮いて一括出土したものである。

石器は床面より11点、覆土中より28点の計39点が出土している。打製石斧が床面より６点、覆土中より17点と卓越している。敲打器４・横刃形石器も５点と多い。

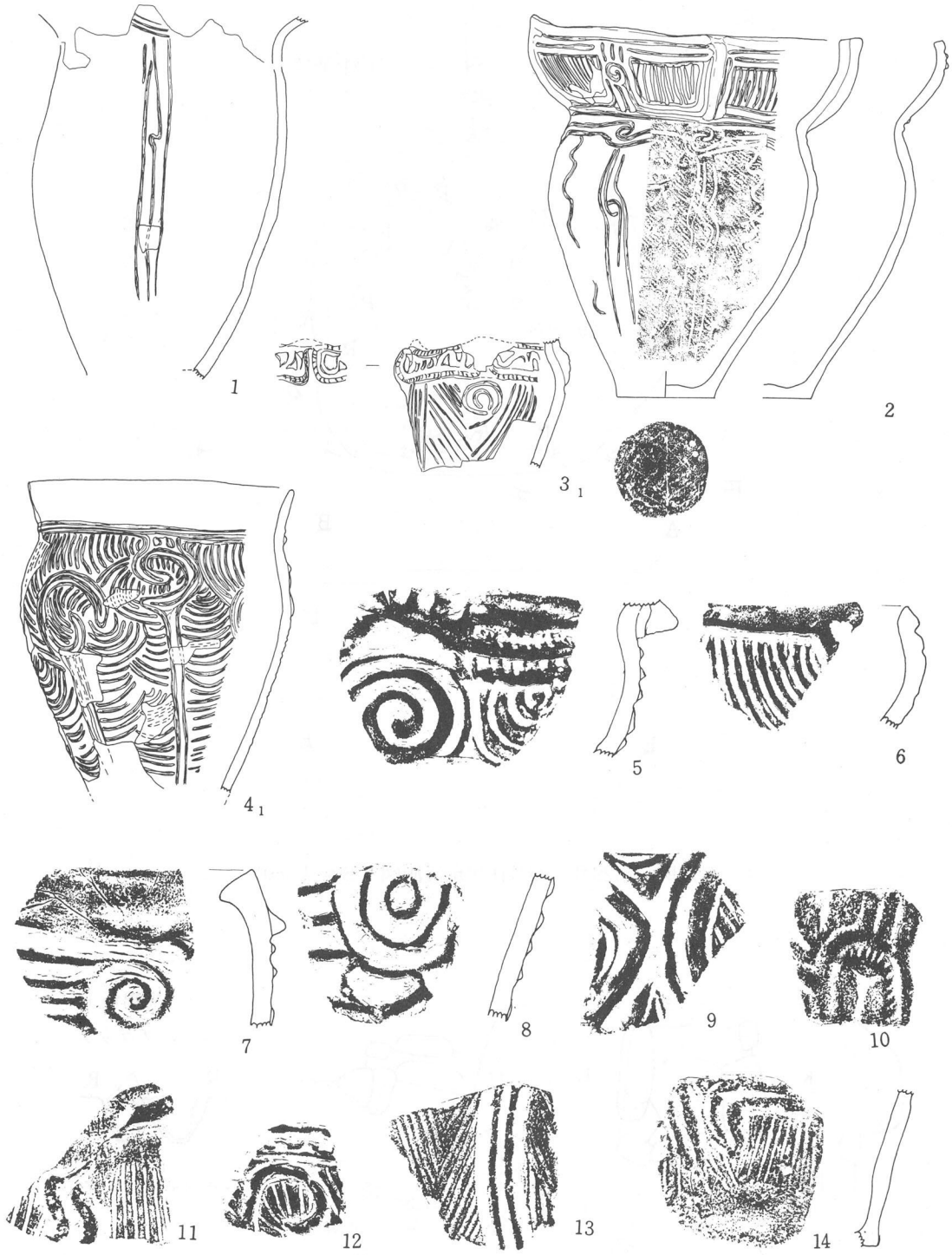
時期は中期後葉Ⅱ期である。



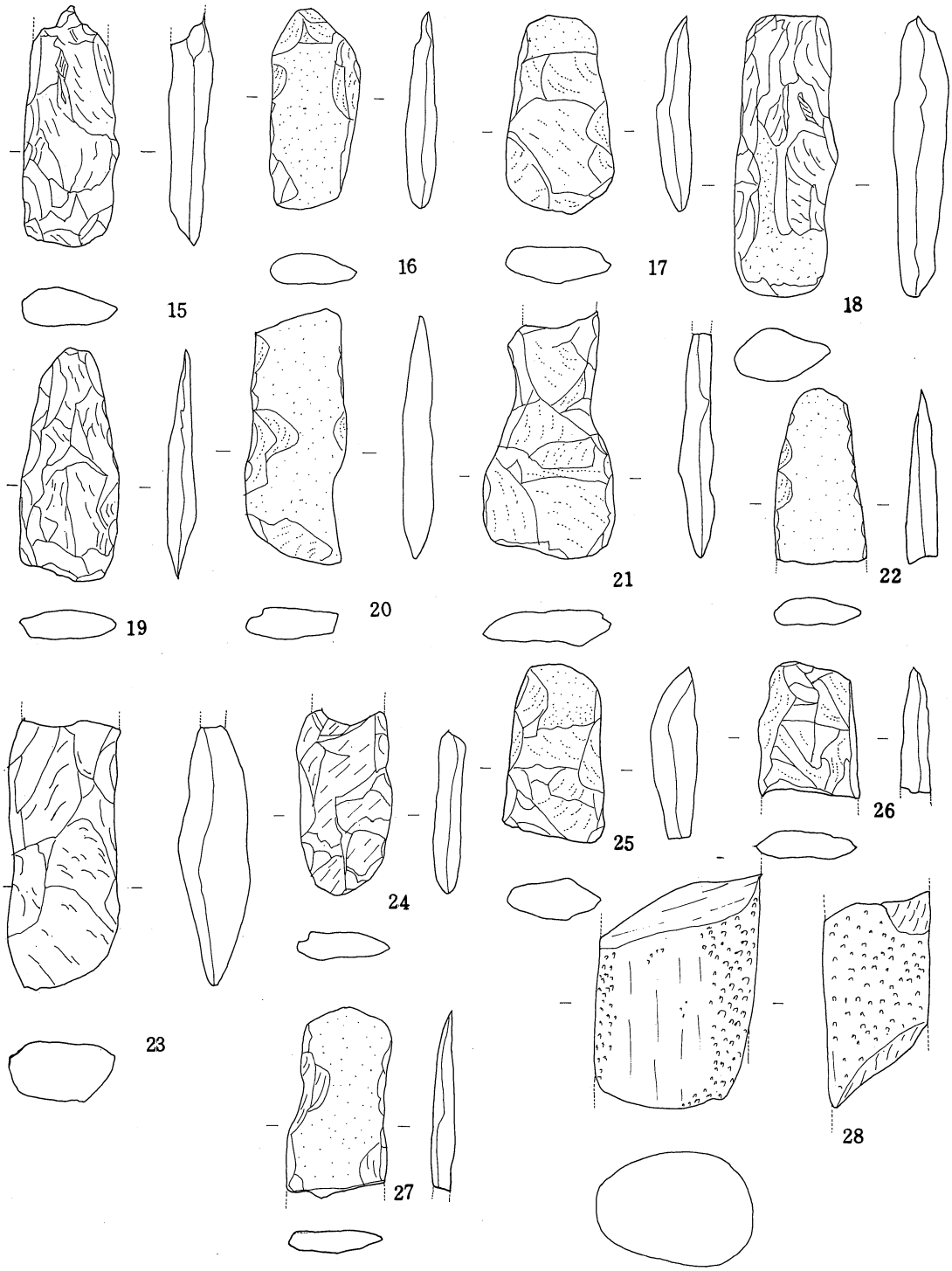
第24図　第29号・39号住居址実測図（S＝1/80）



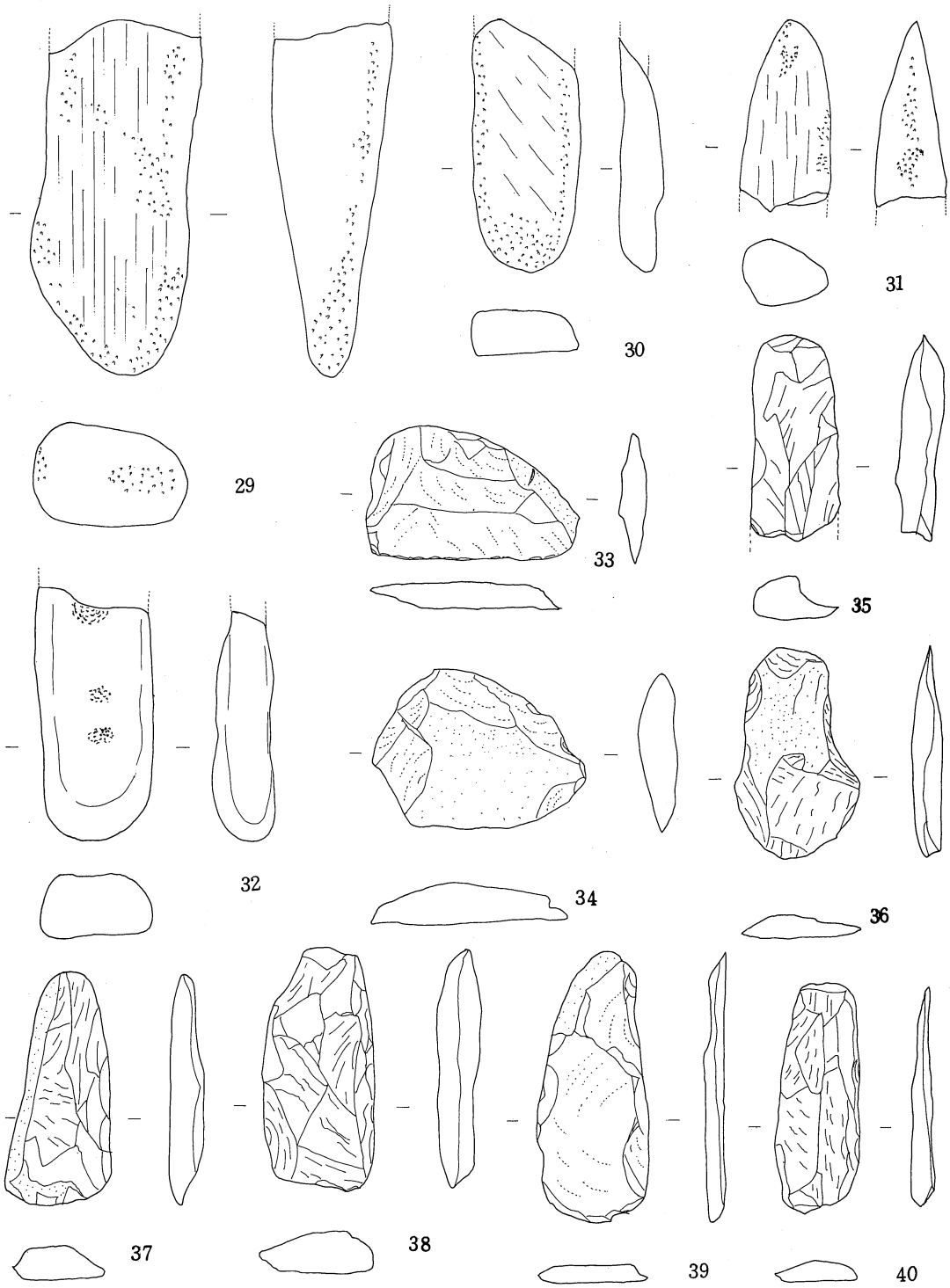
第25図　第29号・39号住居址炉及び第29号住居址埋設土器断面図（S＝1/40）



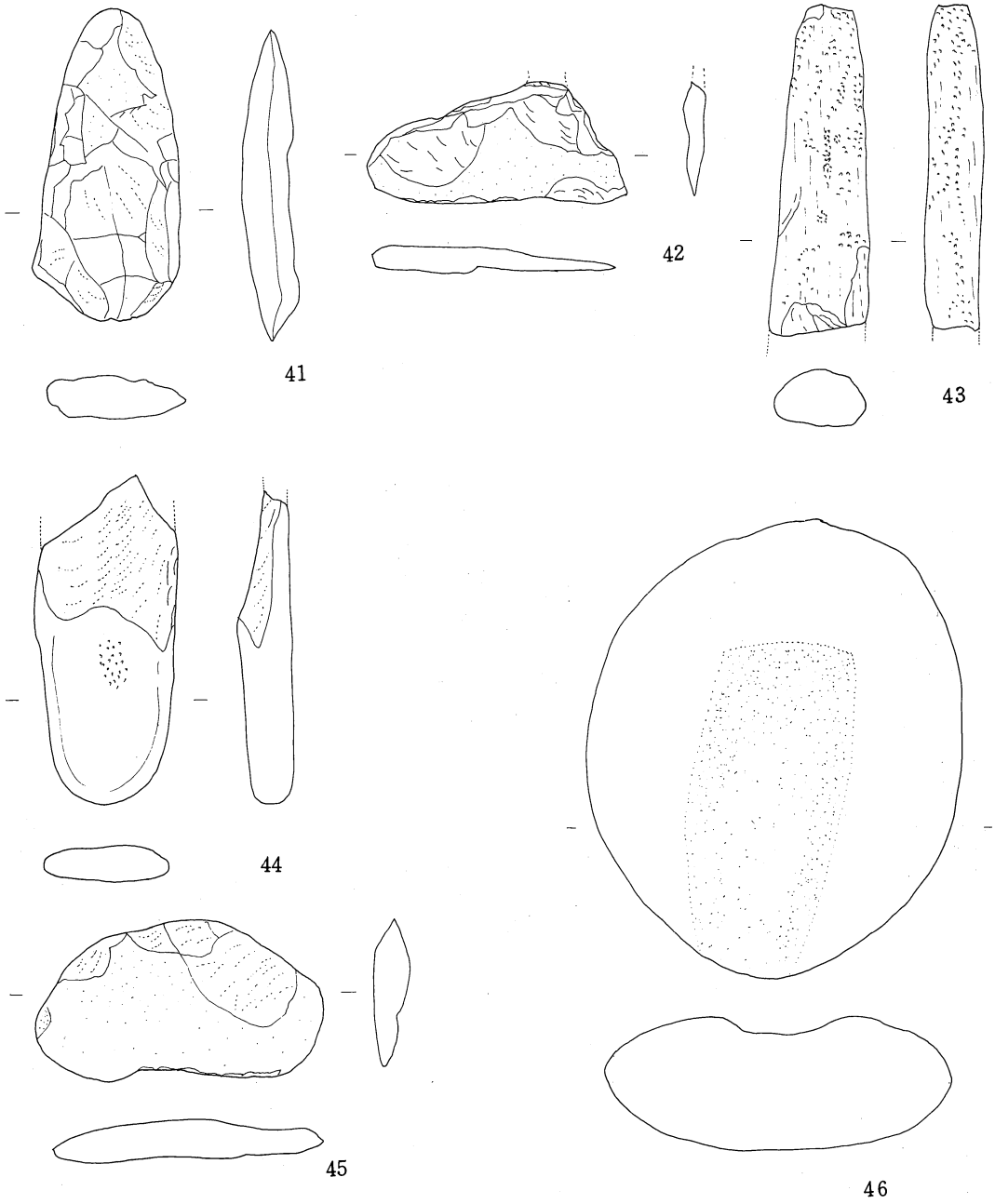
第26図　第29号住居址床面出土器（1は埋甕1・2は埋甕2、1～4は1/6他は1/3）



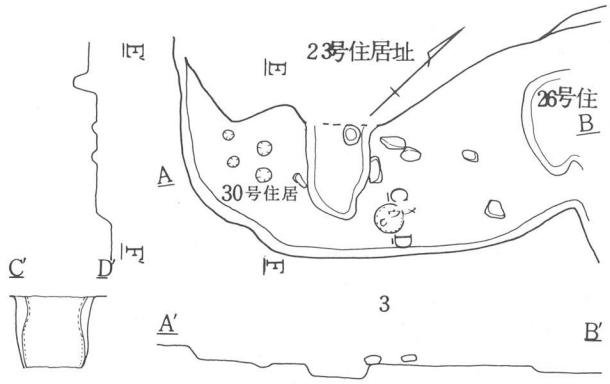
第27図　第29号住居址覆土出土石器（1/3）



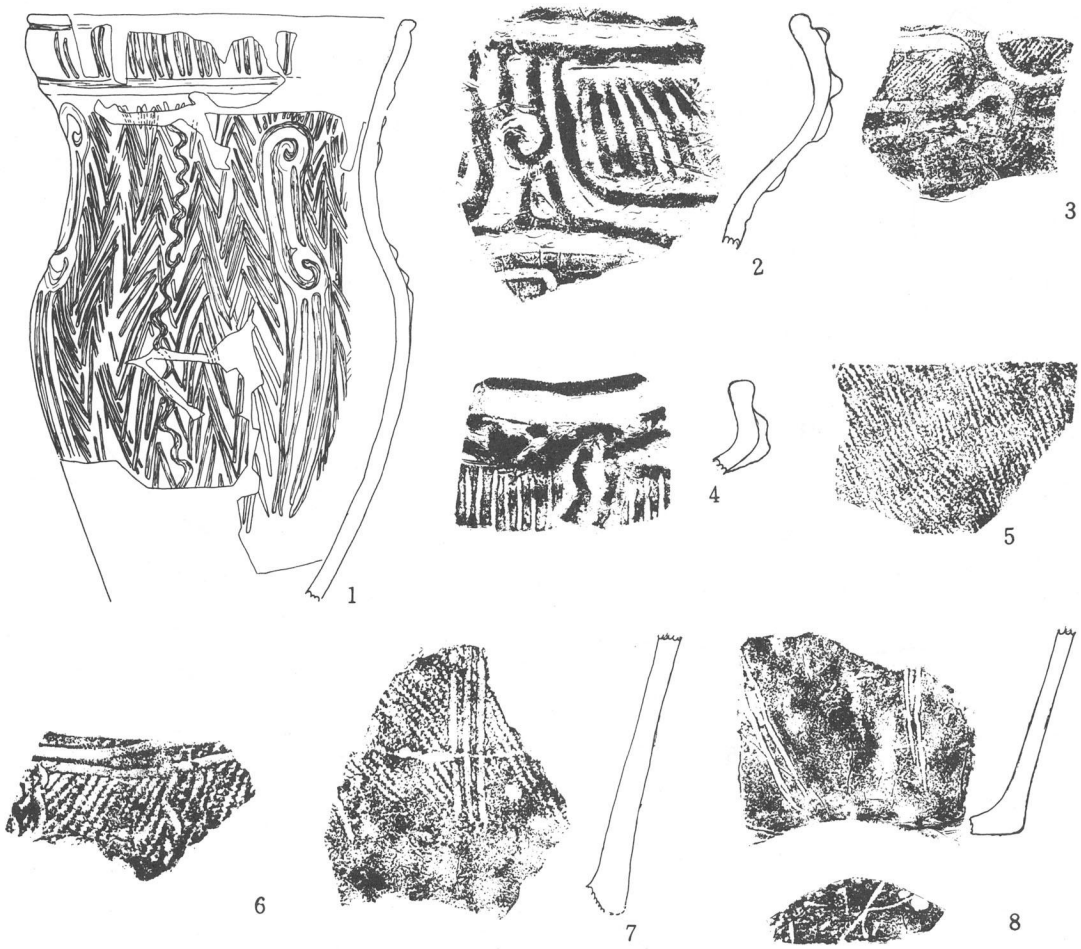
第28図　第29号住居址出土石器（29～34は覆土他は床面、１/３）



第29図　第29号住居址床面出土石器（46は１/６他は１/３）



第30図　第30号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）



第31図　第30号住居址床面出土土器（1は埋甕、1は1/6他は1/3）

⑧　**第30号住居址**（第30・31図）

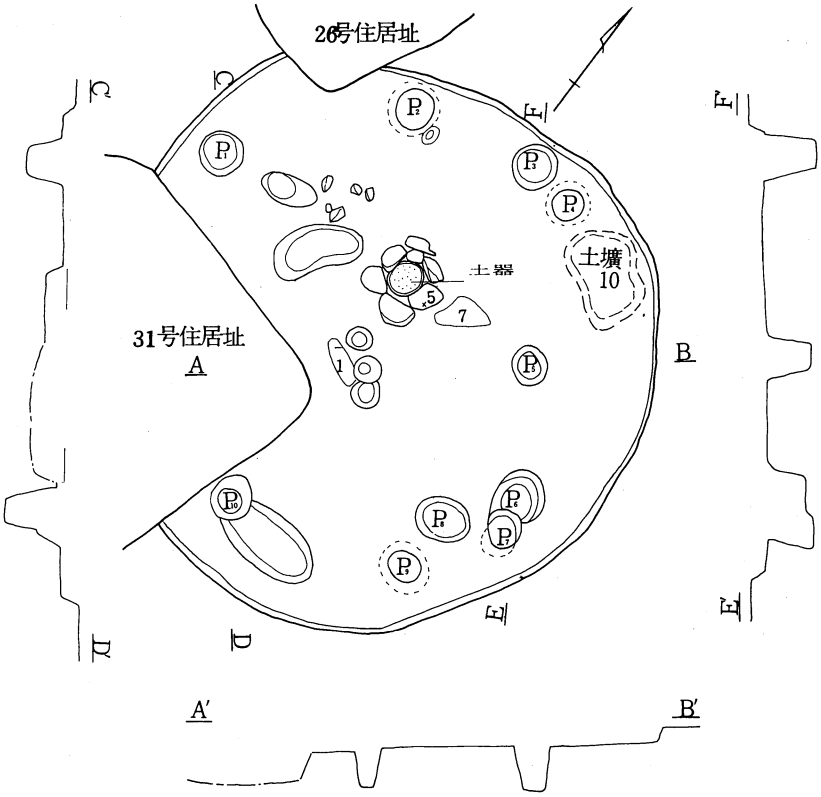
遺構　本住居址は第22号住居址の南にあり大半は第23号住居址に切られ、南側三分の一ほどを残すのみである。また北東部は同一床面にて第26号住居址と重複している。このためプラン・規模等はまったく不明である。床面は中央に向かってややくぼみタタキはあまり顕著でない。

南壁ぎわより正位の埋甕（第31図－１）が検出されている。この位置を入口として推定すれば主軸方向はＮ－29°－Ｗと考えられる。

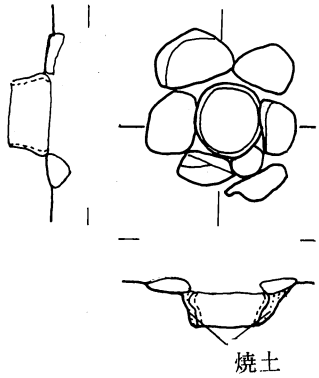
遺物　遺物は当然少なく土器の内器形を知り得るものは１の埋甕のみである。口唇部と胴下部を欠いている。

石器は床面より打製石斧・乳棒状の磨製石斧各１の２点と覆土中より打製石斧２点の計４点が出土するのみである。

時期は埋甕からして、中期後葉Ⅱ期に属する。



第32図　第32号住居址実測図（Ｓ＝１/80）



第33図　第32号住居址炉実測図（S＝1/40）

⑨　第32号住居址（第32～35図）

遺構　本住居址は第22号住居址の東に位置し、南には第38号住居址、東には第39号住居址、北東には第34号住居址がある。南西部は第31号住居址に切られている。

プランは5.9mのほぼ円形を呈すと思われ、大形住居である。主軸方向はN－22°－Wと考えられる。

開田時における削平地点にあたり壁は浅く現存15cm前後である。床面は炉付近がややくぼむが、固く堅緻である。

炉は中央やや北寄りにあり、円形の石組炉で内部に土器の胴部（第34図－1）が埋設されている。炉石は偏平な自然石を横長に用いている。

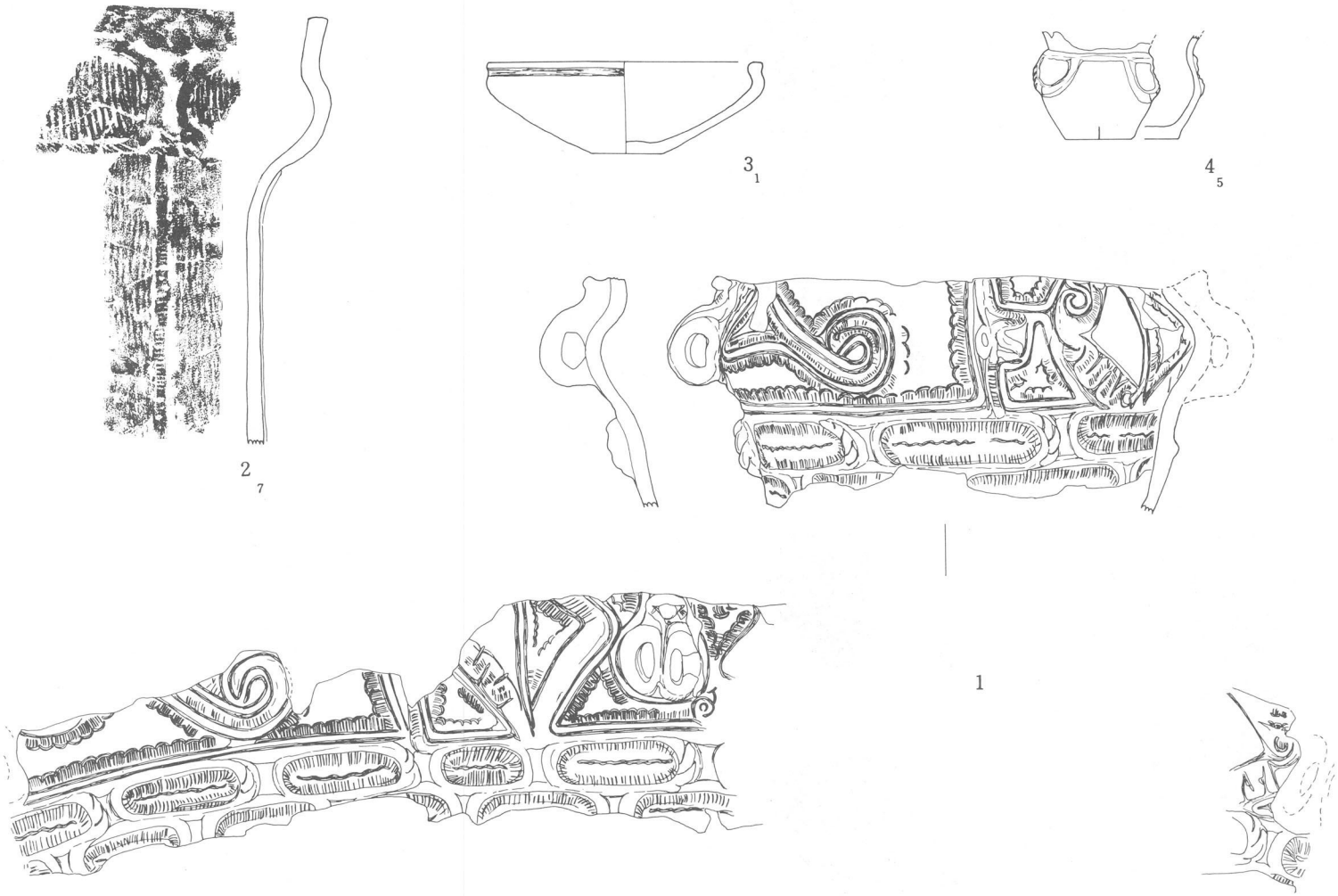
主柱穴は多柱穴で壊された部分まで入れると8本であろうか。炉の東壁ぎわに土壙10がある。

炉を中心にして遺物が出土している。器形を知り得るもの3個体であった。

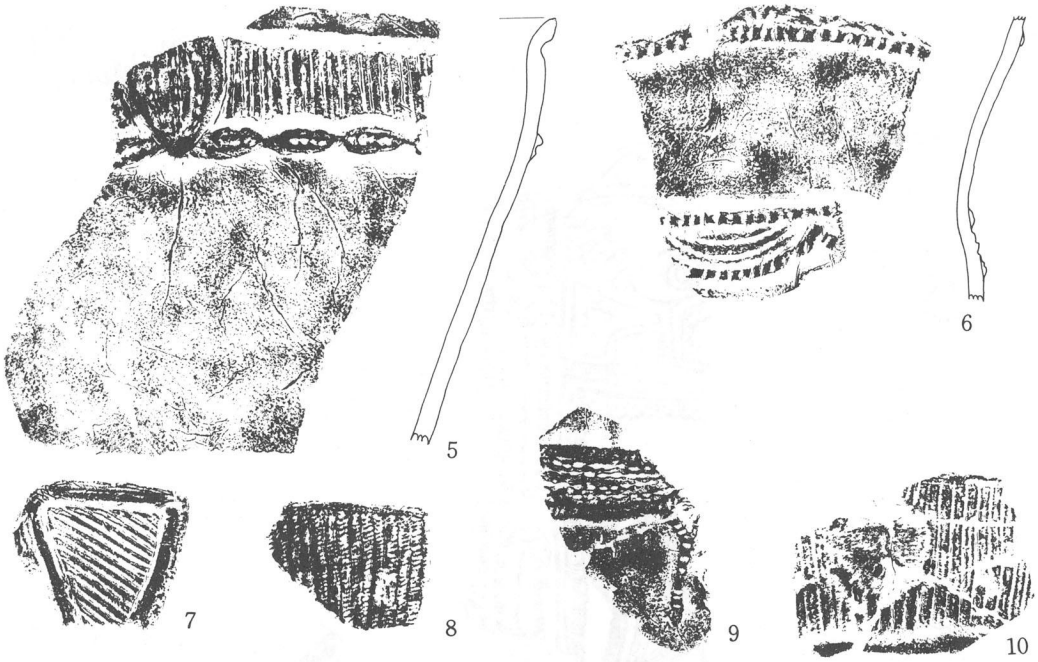
遺物　1は炉内埋設土器で胴上部のみである。みみずく状突起を2個持つ。3は小形の浅鉢形土器である。

石器は床面より10点、覆土中より磨製の定角石斧1点の計11点が出土している。床面の内訳は打製石斧・敲打器が3点ずつで、他は特殊敲打器・凹石・横刃形石器・石礫各1点である。

時期は縄文中期中葉藤内Ⅰ期に属するであろう。



第34図　第32号住居址床面出土土器（1は炉内埋設土器、小数字は出土番号を示す以下同じ　1/6）



第35図　第32号住居址床面出土器（1/3）

⑩　第34号住居址（第36～40図）

遺構　第32号住居址の北東に位置し、東側には第123号住居址がある。北西部は第33号住居址に切られている。

プランは楕円形で5.4×4.8mを測る。現況壁高は南東部が高く20cm、西側は低く10cmである。床面は平坦で固くタタかれている。炉は中央北寄りに位置し、炉石はすべて抜かれているが、もとは円形石組炉と思われる。主軸方向はN－24°－Wである。

主柱穴は6本と考えられ、重複する柱穴から建替の可能性がある。

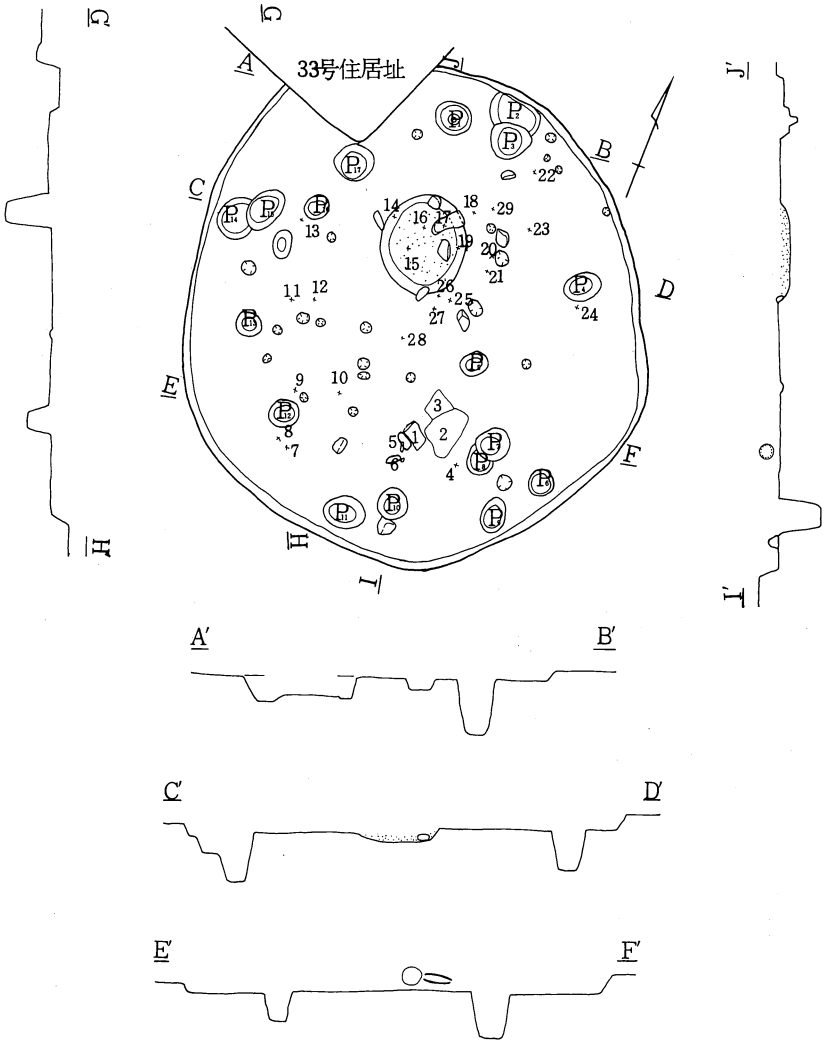
遺物は多く床面ないし5cmほどの間層を持ってほぼ全面にみられる。

遺物　土器は豊富な出土をみせ器形を知り得るものも多い。

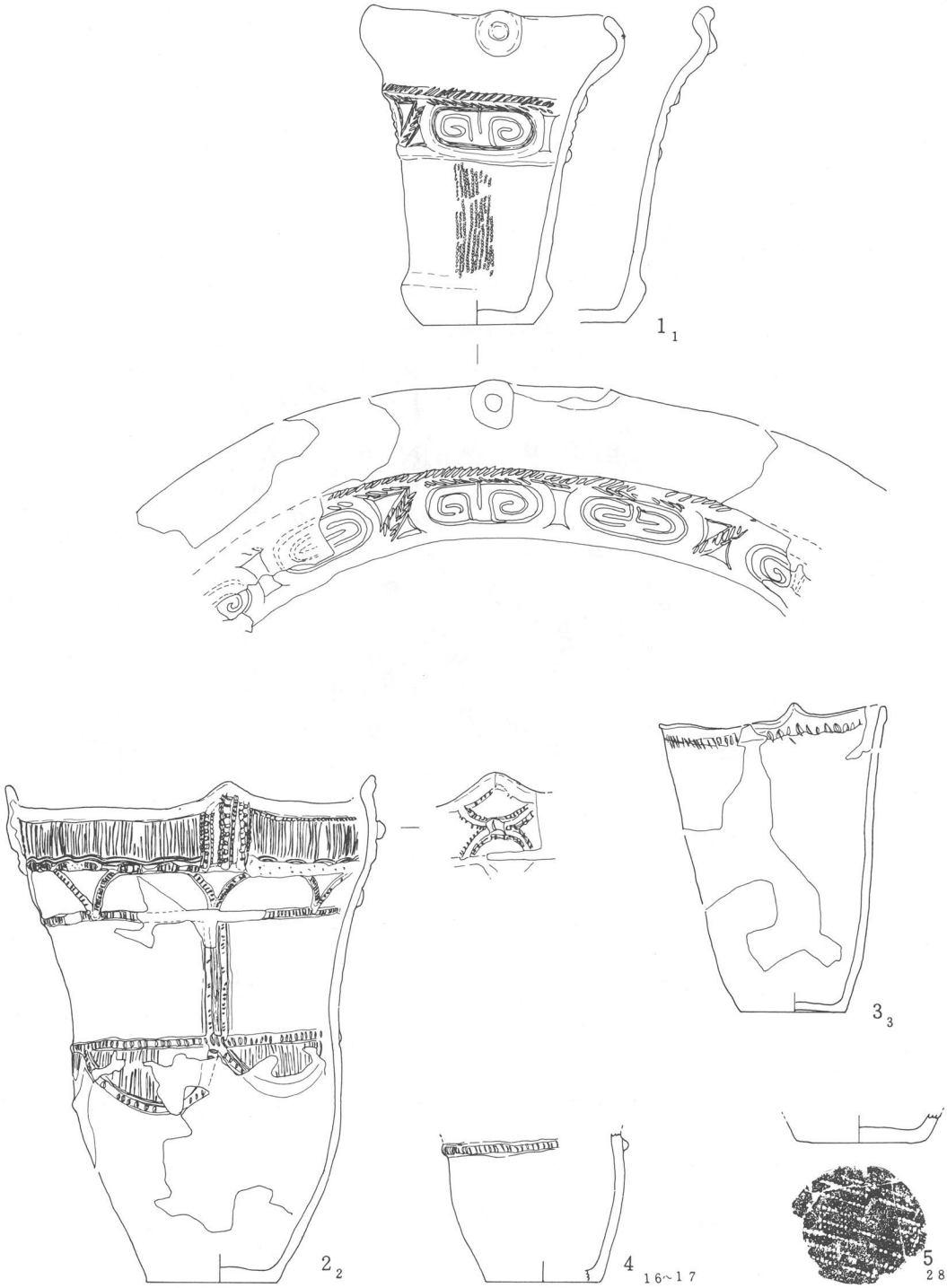
3は薄手の深鉢で複合口縁を呈し口唇下に爪形状の刺突文が一条施される。2・11はともに薄手作りで胴上部を無文帯としており、平出ⅢA系土器の流れを組むものでこの時期の当地方の特色である。

石器は土器に比べて少なく床面より15点出土している。敲打器10点、打製石斧3点、横刃形石器2点と敲打器が卓越している。

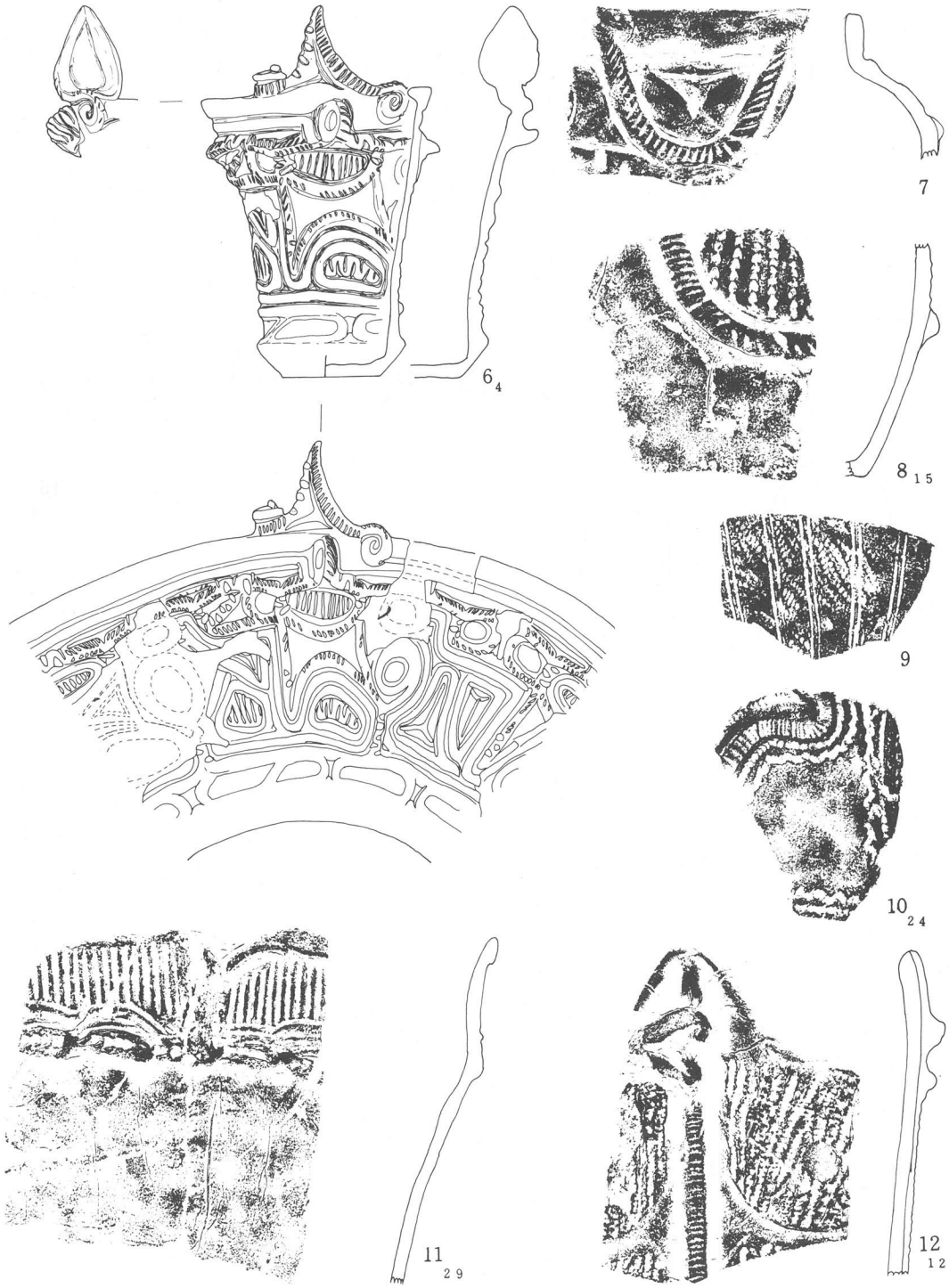
時期は中期中葉藤内Ⅱ期に属する。



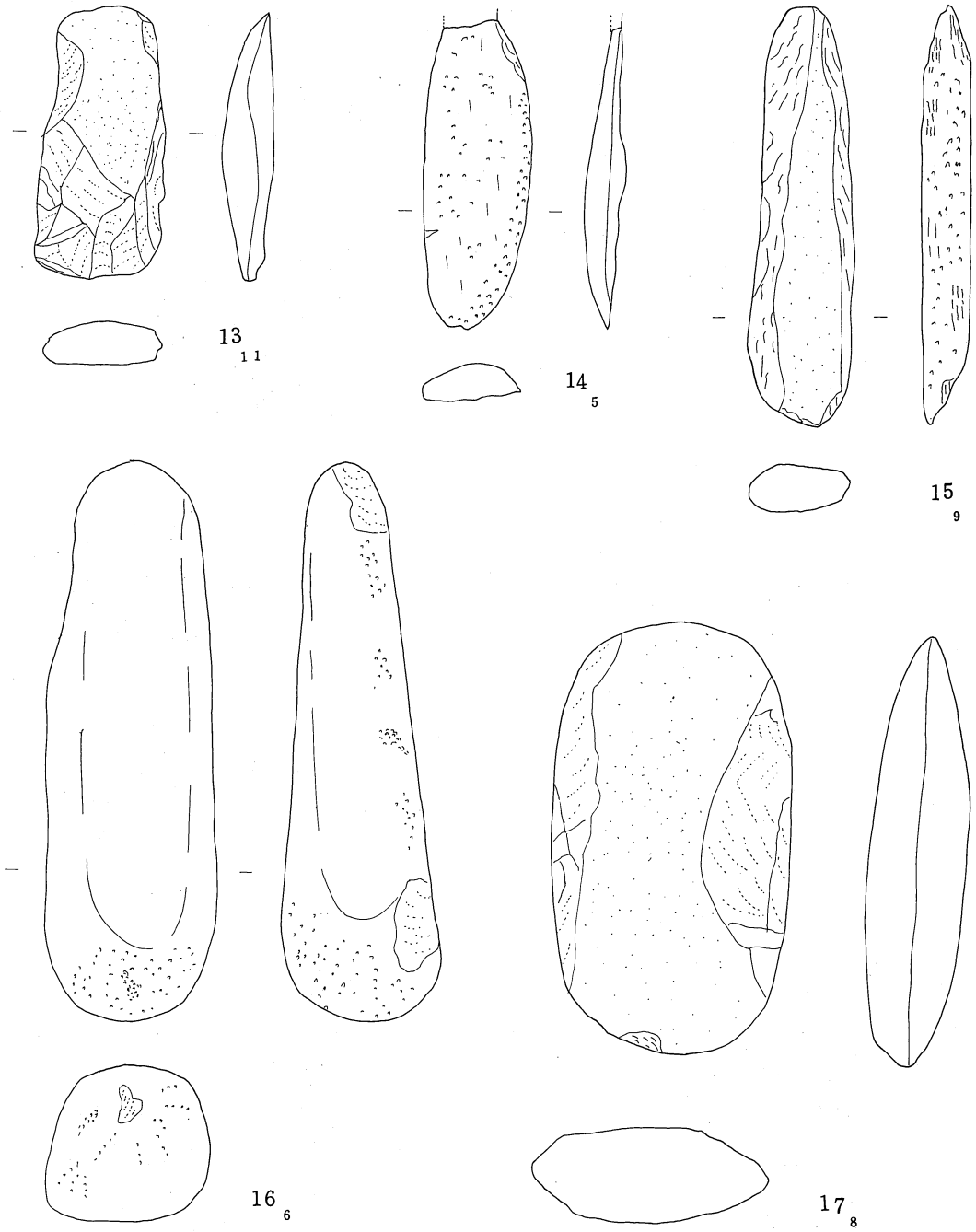
第36図　第34号住居址実測図（S＝1/80）



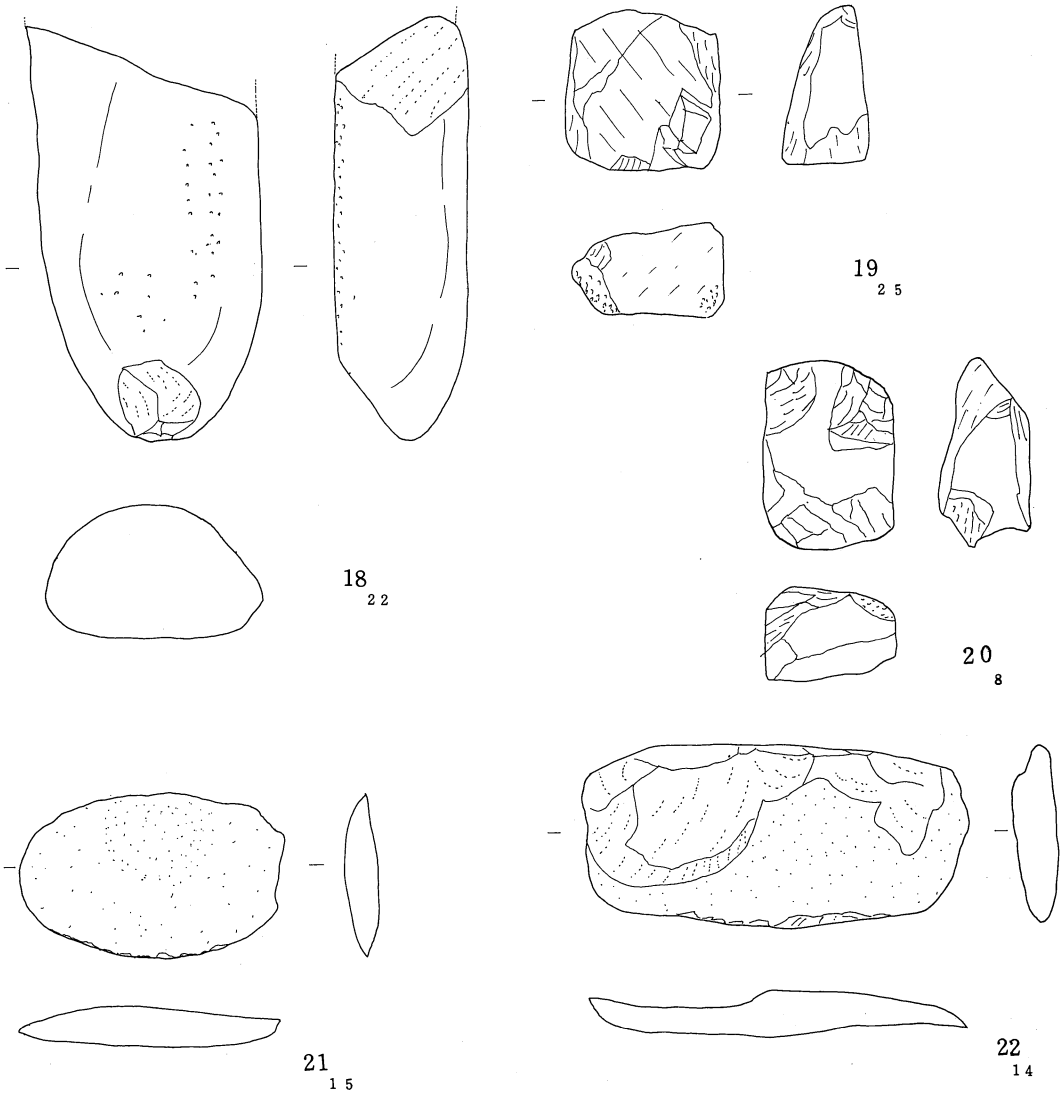
第37図　第34号住居址床面出土土器（1/6）



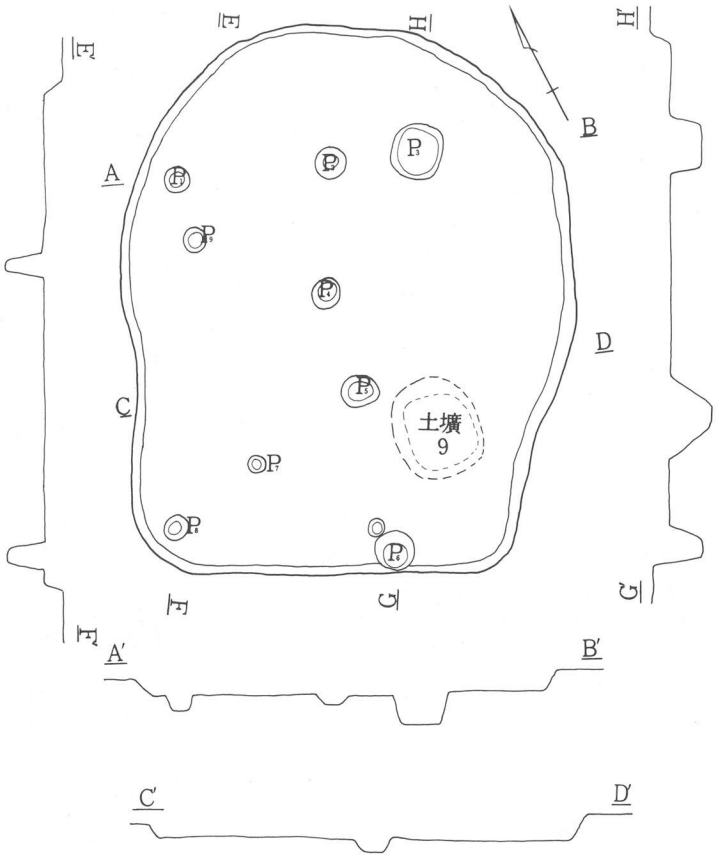
第38図　第34号住居址床面出土土器（6は1/6他は1/3）



第39図　第34号住居址床面出土石器（1/3）



第40図　第34号住居址床面出土石器（1/3）



第41図　第37号住居址実測図（S＝1/80）

⑪　**第37号住居址**（第41・42図）

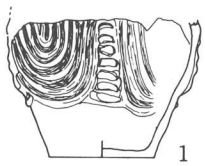
遺構　本址は第32号・38号住居址の東にあり、北には第34号住居址、東はやや距離をおいて第116号・117号住居址がある。

暗褐色土が不鮮明な落ち込みをみせ、床面も一部にタタキがみられるだけである。炉らしき焼土も検出できず住居址とするには若干問題がある。

プランは北壁が丸味を持った隅丸長方形を呈し、南北方向5.9m、東西方向4.5mを測る。柱穴は３・６・８・９の４本と考えられる。

南側には土壙９がある。

遺物　遺物は少ない。土器は１の小形深鉢土器と小破片のみである。みみずばれ状の流水文を持つ。



第42図　第37号住居址床面出土土器（1/6）

石器も少なく５点のみである。すべて床面よりの出土で内訳は打製石斧３、敲打器１、横刃形石器１点である。

時期は土器が少なく決め難いが中期後葉Ⅰ期に属する。

⑫　第38号住居址（第43・44図）

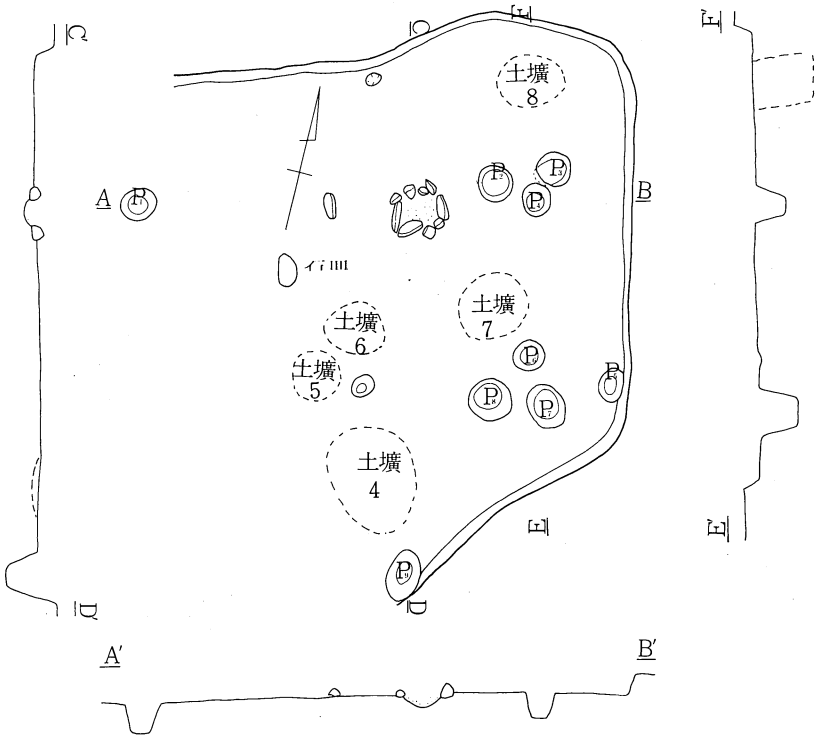
遺構　当住居址は第37号住居址の西にある。西側は撹乱を受け壁が不明である。プランは隅丸方形に近いものと考えられるが定かでない。壁高は20cm前後で床面はタタキがあまり顕著でない。

炉は北寄りに位置し方形の石組炉で東と西に細長い自然石をすえ、北と南は小礫を用いている。

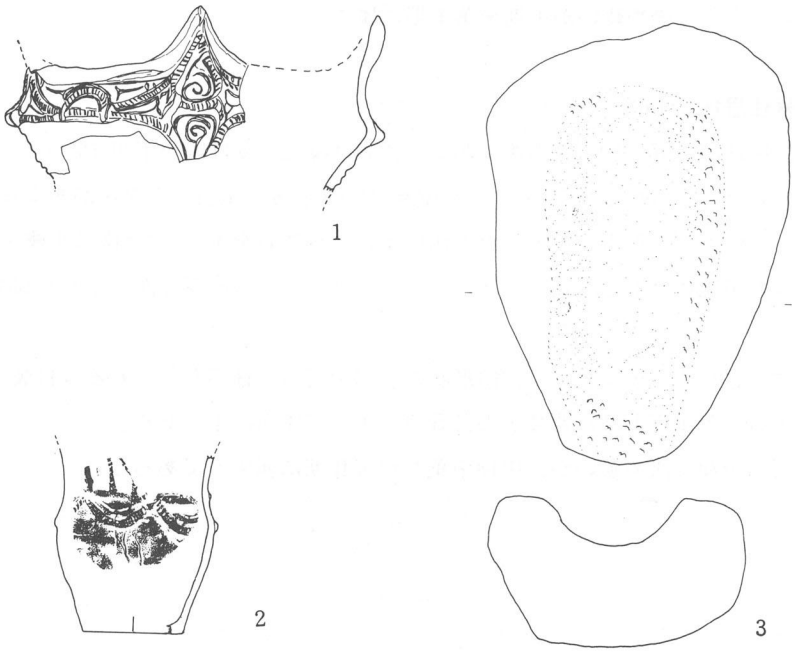
主柱穴は３本が現存しもとは４本であったと思われる。炉の南西床面上より石皿が出土している。

遺物　遺物はきわめて少ない。１は山形状の突起を持つ深鉢である。石器は打製石斧・磨製の乳棒状石斧・石皿各１点と敲打器２点の計５点ですべて床面出土である。

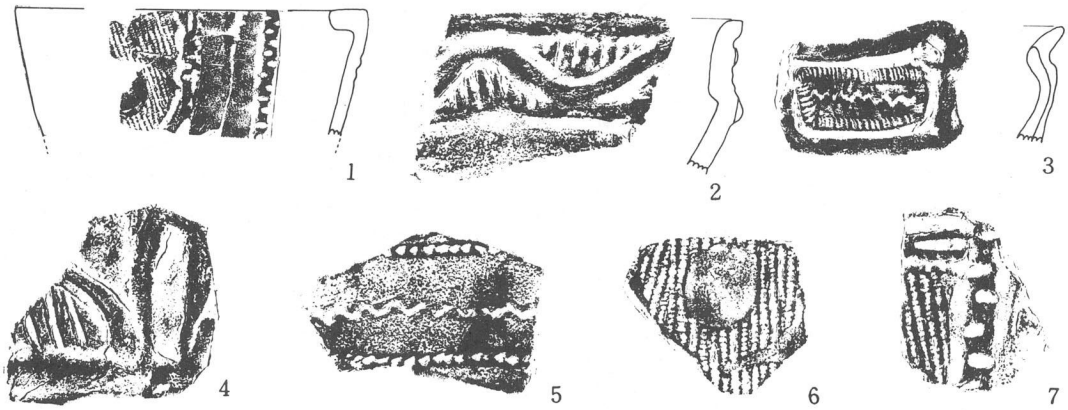
時期は土器が少なく決め難いが、中期中葉井戸尻Ⅱ期に属するであろう。



第43図　第38号住居址実測図（S＝1/80）



第44図　第38号住居址出土遺物（1/6）



第45図　第39号住居址床面出土土器（1は1/6・他は1/3）

⑬　第39号住居址（第24・25・45図）

遺構　本住居址は南東部を第29号住居址に切られ、さらに東側を第21号住居址に切られ、北西部一部を残すのみである。また南西部は撹乱を受けている。

プランは円形を呈したものと考えられる。壁高は20cmを測る。床面は固くタタかれている。

炉は東半部を第21号住居址によって壊されている。方形の石組炉であったと考えられる。柱穴は検出されていない。

遺物　土器は少ない。１は図上復元によるもので口唇を直角に内屈させている。

石器は床面より10点が出土している。内訳は打製石斧と敲打器各３点、石礫２点と磨製の定角石斧と横刃形石器１点ずつである。

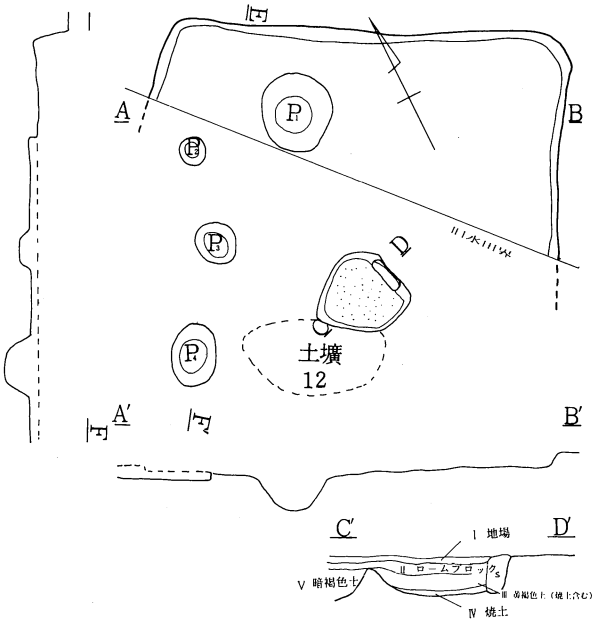
時期は中期中葉藤内期である。

⑭　第40号住居址（第46図）

遺構　当址は43号住居址の西にあり南半部は開田時に削られている。プランは北壁からすると隅丸長方形と考えられる。壁高は北西部は30cm、東では15cmほどである。残存床面は固くタタかれている。

炉は炬燵状石囲炉で北側に炉石を残すのみである。北側の炉石を残し炉の上にはロームブロックを敷きしめその上に水田の地場を作っている。北側の石が残されていることを考えると、炉石は開田時に抜き取られたとするよりも、もともと抜き取られたとするのが妥当であろう。

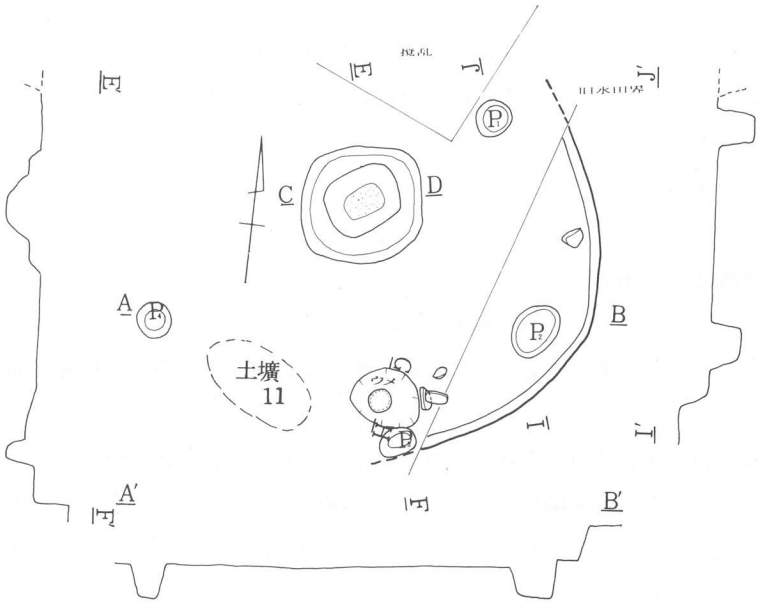
主柱穴はP_1・P_4の２本のみで東側には検出されていない。



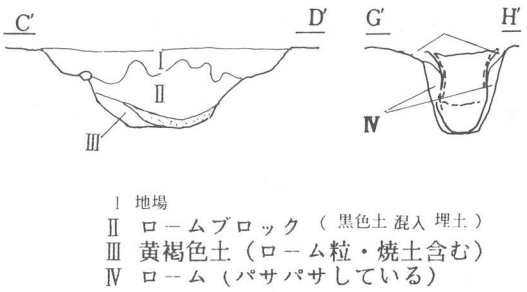
第46図　第40号住居址実測図（Ｓ＝１/80、炉断面図は１/40）

遺物　遺物は当然少ない。土器の小片と打製石斧１点のみである。

時期は炉の形態から中期後葉Ⅱ期以降と考えられる。

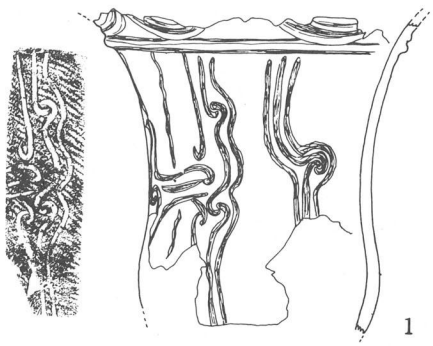


第47図　第43号住居址実測図（S＝1/80）



第48図　第43号住居址炉及び埋設土器断面図

（S＝1/40）



第49図　第43号住居址埋甕（1/6）

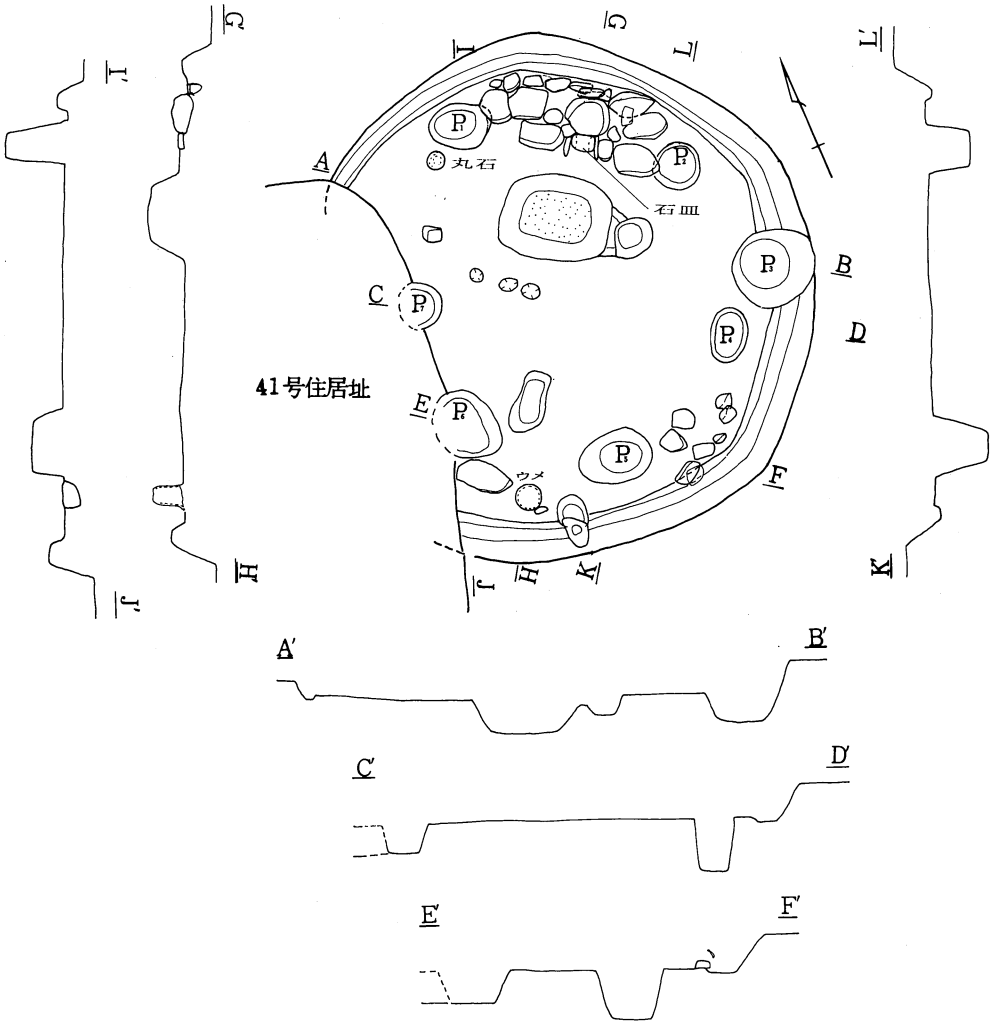
⑮　**第43号住居址**（第47～49図）

遺構　本址は第40号住居址の東にあり、開田時に大半が削られている。東壁からすると隅丸形を呈すものであろう。壁高は35cm前後を測る。

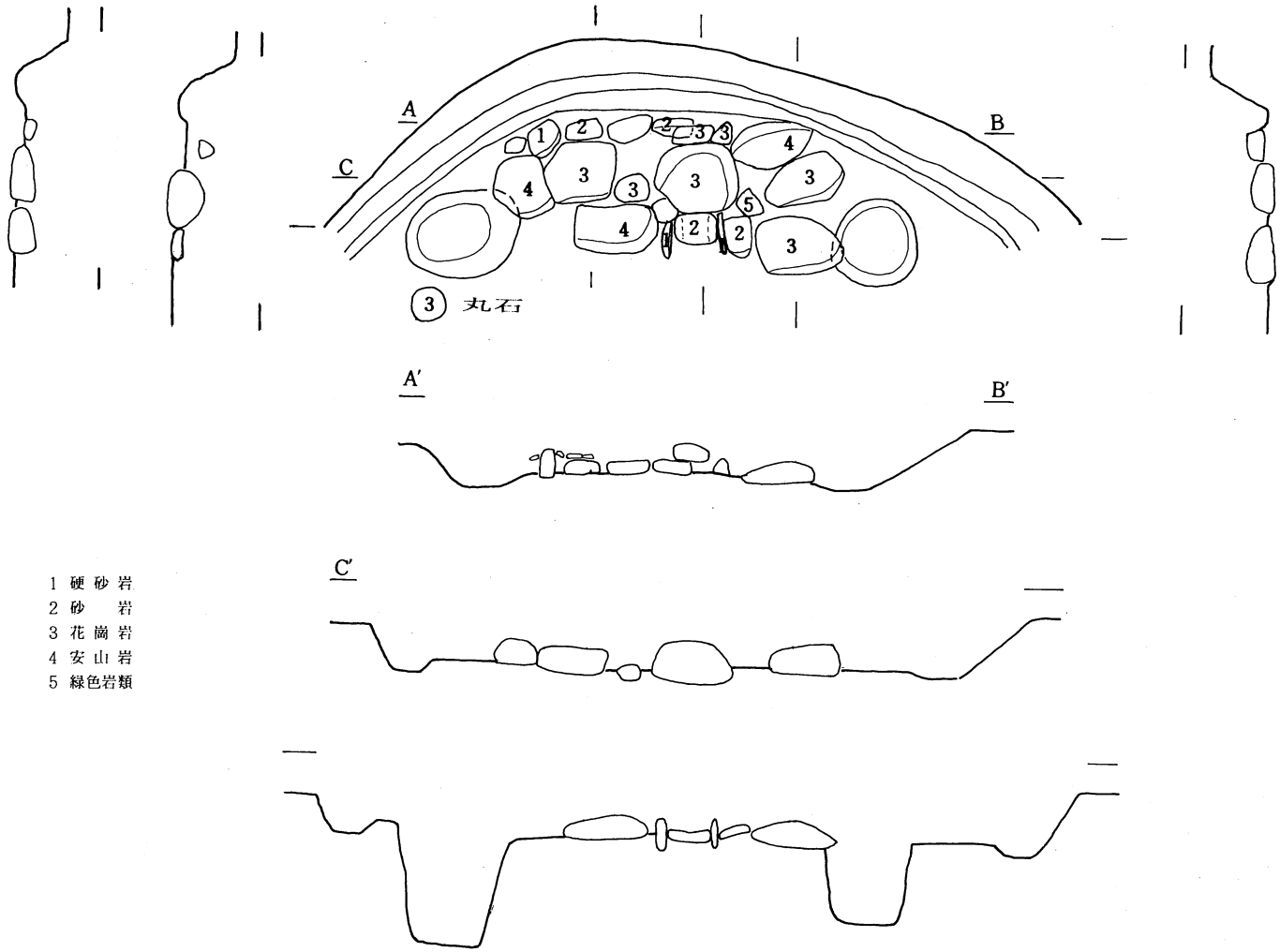
炉は掘炬燵状石囲炉で炉石はまったくみられない。抜き取られたものか開田時の仕業かは不明である。南壁ぎわより正位の埋甕が検出された。口縁部は削りとられたものであろう。埋甕の位置からすると主軸方向はN－8°－Wである。

遺物　当然遺物は少なく土器は埋甕（第49図）のみである。石器は大形粗製石匙と凹石各１点が出土している。

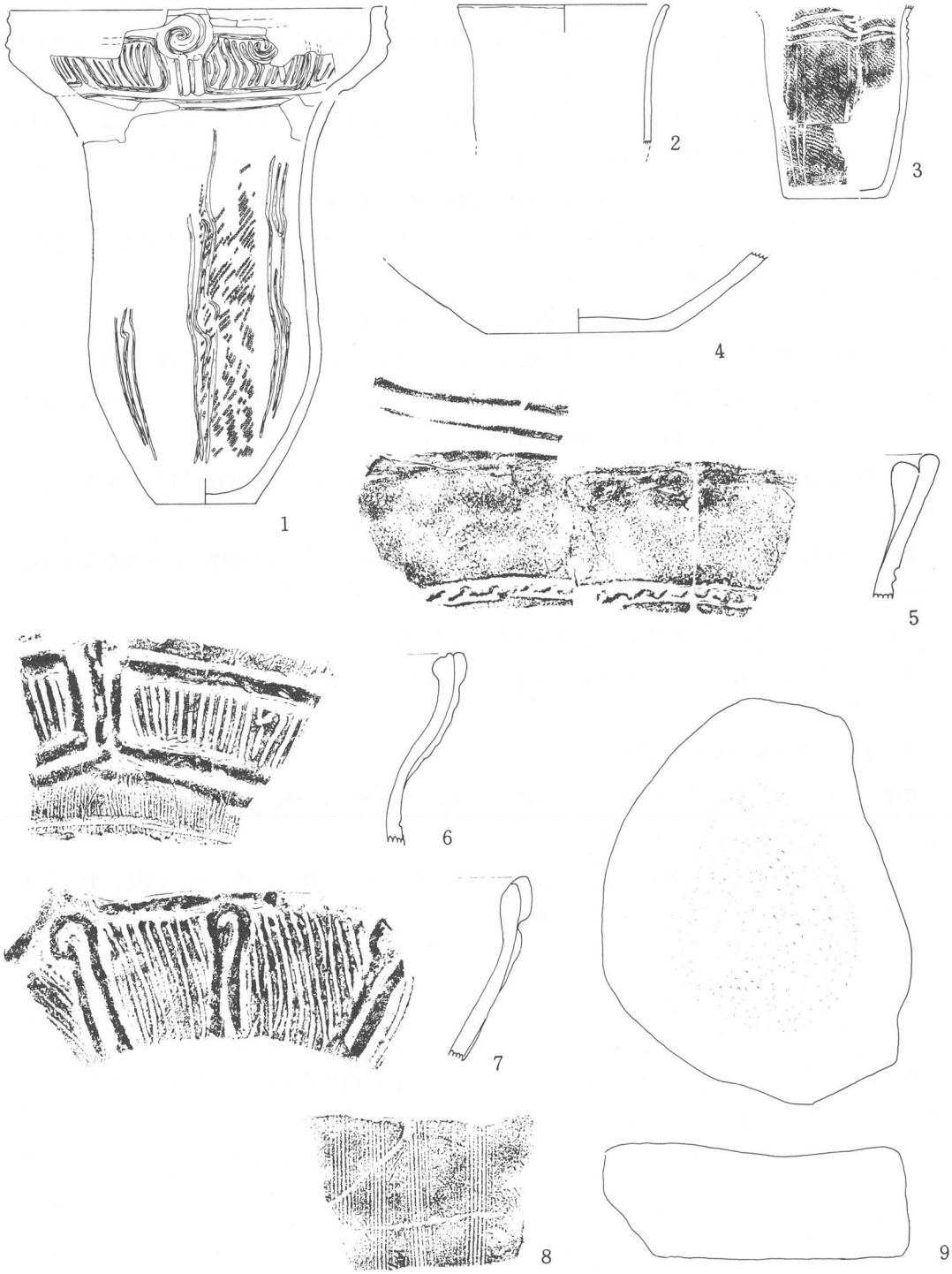
時期は埋甕から中期後葉Ⅱ期に属する。



第50図　第46号住居址実測図（S＝1/80）



第51図　第46号住居址石壇実測図（S＝1/40）



第52図　第46号住居址出土遺物（1は埋甕、1～4・10は1/6・他は1/3）

⑯　第46号住居址（第50～52図）

遺構　本住居址は第47号・48号住居址の北にあり、西側は第41号住居に切られている。

西側が不明であるが、プランは六角形を呈すと思われる。規模は南北5.6m、東西推定5.4mを測るであろう。周溝が全周する。

床面は固くタタかれ堅緻で南にやや傾斜する。壁高は35cm前後、北西部では25cmを測る。炉は中央北に寄ってあり掘炬燵状石囲炉で、炉石はすべて抜かれている。主柱穴は１・２・４・５・６・７の６本が考えられ、６・７は半分が第41号住居址に切られている。

P_5とP_6の中間壁ぎわに正位の埋甕（第52図－１）があり、西横には平盤な石がある。また壁ぎわにはピットがあり入口施設と考えられる。

炉の奥P_1とP_2にはさまれて見事な石壇があり、P_1の南床面上には丸石がすえられている。石壇は幅210cm、奥行70cmで、前列２列は平盤な自然石をすえ、中央は石皿（第52図－10）を配し、その両わきに細長い石を縦長に用いて区画を作っている。壁ぎわは小さな礫を用いて周溝に沿わせている。石壇の上には土器がつぶれて出土している。

石の種類は花崗岩（７）、砂岩（３）、硬砂岩（３）、安山岩（３）、緑色岩（１）である。屋内祭祀として注目したい。

遺物　大形破片がある割りには、器形を知り得るものは少ない。１は埋甕で口縁部が部分的に欠けている。２は小形の深鉢で無文である。４は浅鉢である。

石器は床面から５点、覆土中より１点の計６点と少ない。

時期は中期後葉のⅡ期でも古い段階に属するであろう。

⑰　第47号住居址（第53～56図）

遺構　当住居址は第43号住居址の北に位置し、東には第48号住居址、北には第46号住居址がある。

プランは円形で4.5mを測る。主軸方向はN－4°－Eである。壁高は西に行くに従い低くなり一部ない。床面は固く堅緻である。炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で四隅に小さな礫を詰め込んでいる。

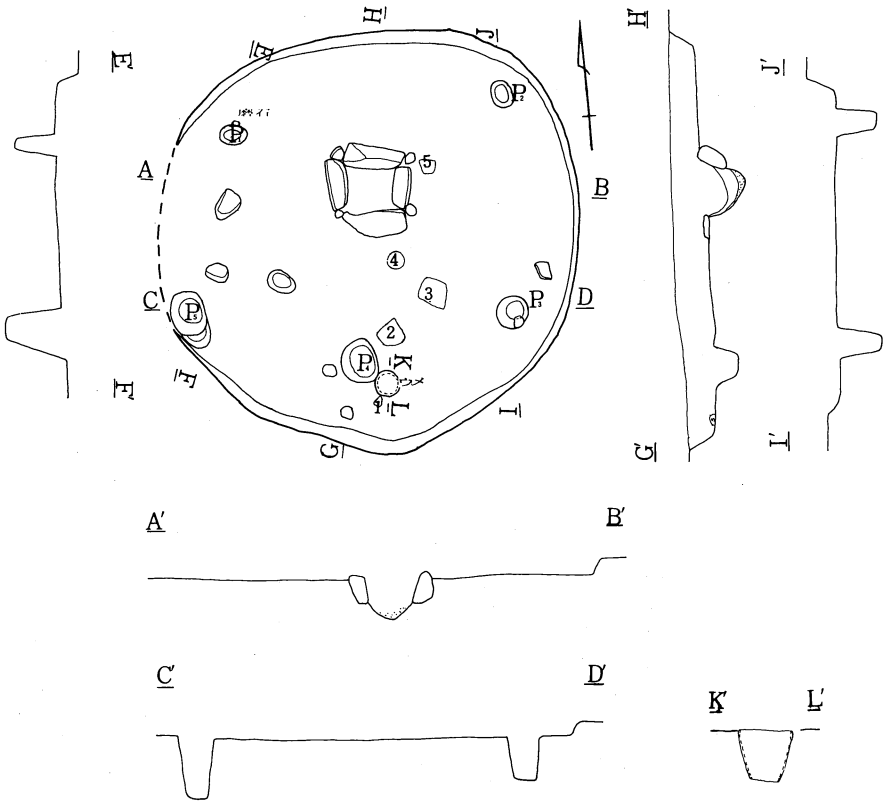
主柱は５本である。P_4の南東わき入口部に正位の埋甕（第54図－１）が検出されている。

炉の手前に床面よりやや浮いて土器がまとまって出土し、P_1のわきには磨石が出土している。

遺物　土器は多い。１は埋甕で胴下部を欠いている。６は円形文を配し、内部を円形刺突文で埋めるものである。唐草文土器が主体である。

石器は床面より13点、覆土中より13点計26点が出土している。打製石斧が10点、敲打器が９点と多く卓越している。

時期は中期後葉Ⅲ期に属する。



第53図　第47号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）

⑱　第48号住居址（第57～64図）

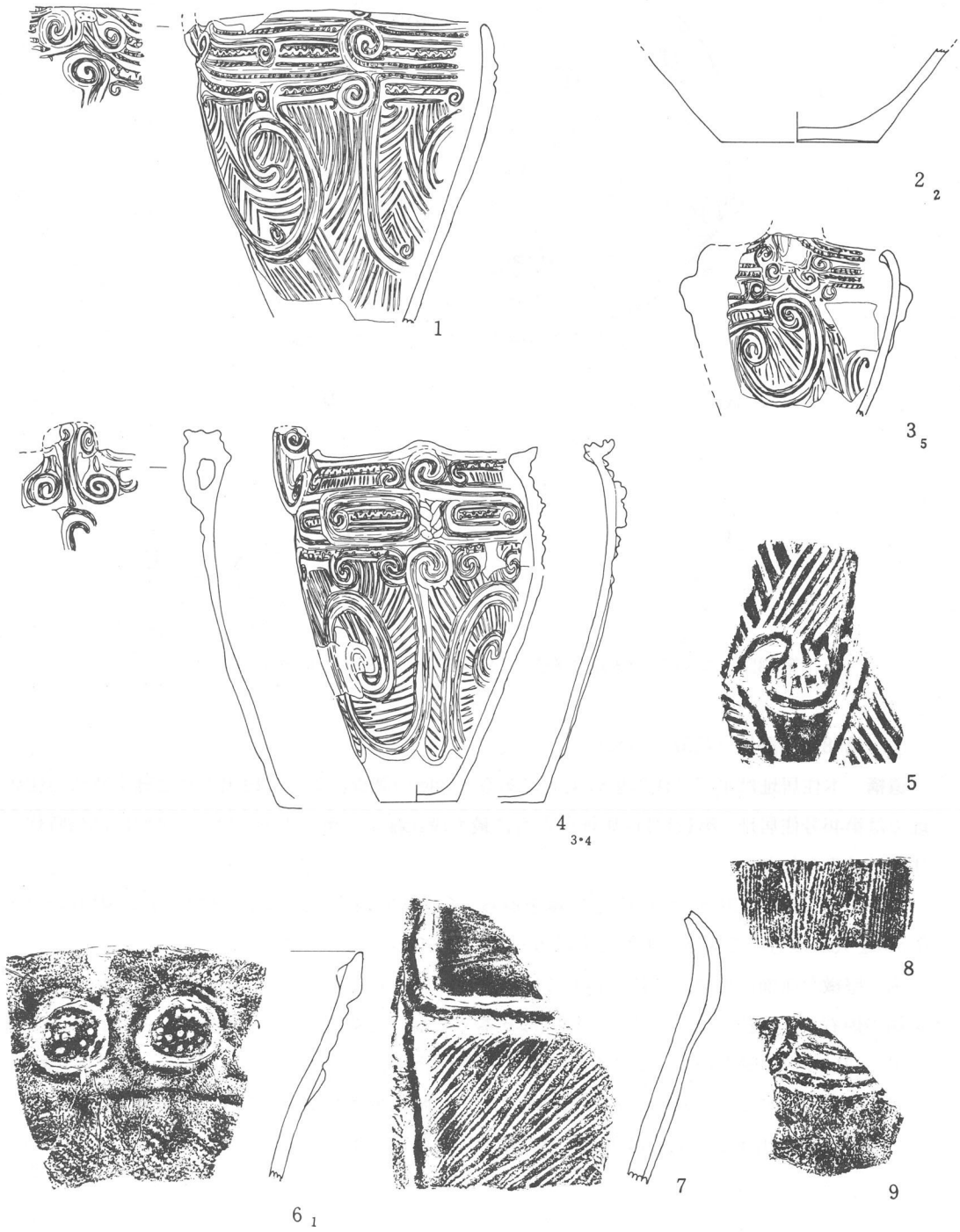
遺構　本住居址は第47号住居址の東側にある。今回の調査によって検出された縄文時代の住居址では第46号住居址、第121号住居址とともに最も段丘縁より奥、外縁となり、東側には当時代の住居址はみられない。

プランは西側は丸味を持つが、他は稜を持ち、くずれているが五角形と考えたい。規模は6.1×6.5mと大形のものである。主軸方向はN－39°－Eである。

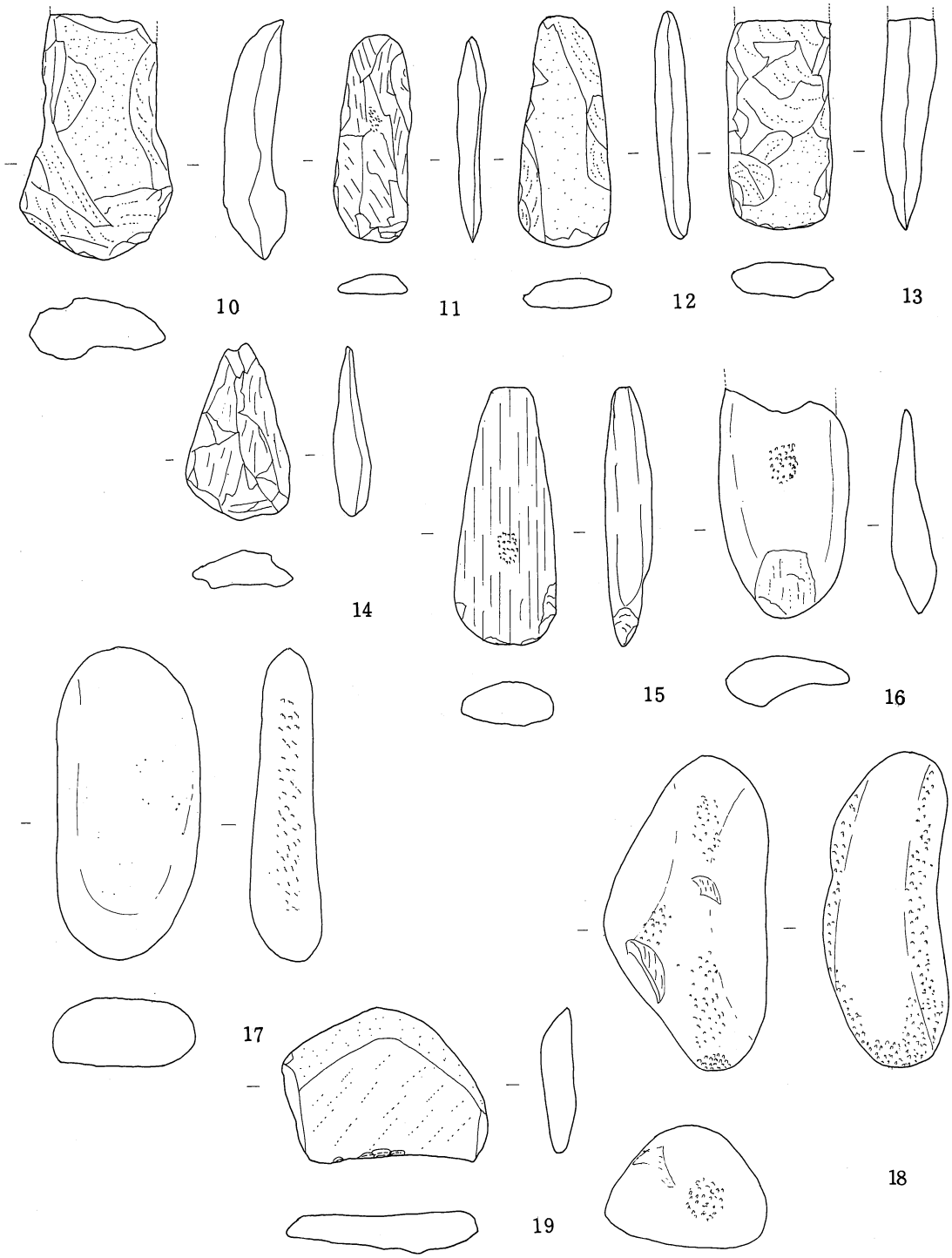
固く堅緻な床面は南東方向に傾斜している。炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉である。東側の炉石が一部抜かれている。主柱穴は6本である。周溝は南東部一部を除きみられる。

P_5・P_7の中間壁ぎわより上に石をのせた埋甕（第58図－1）が検出されている。完形品である。

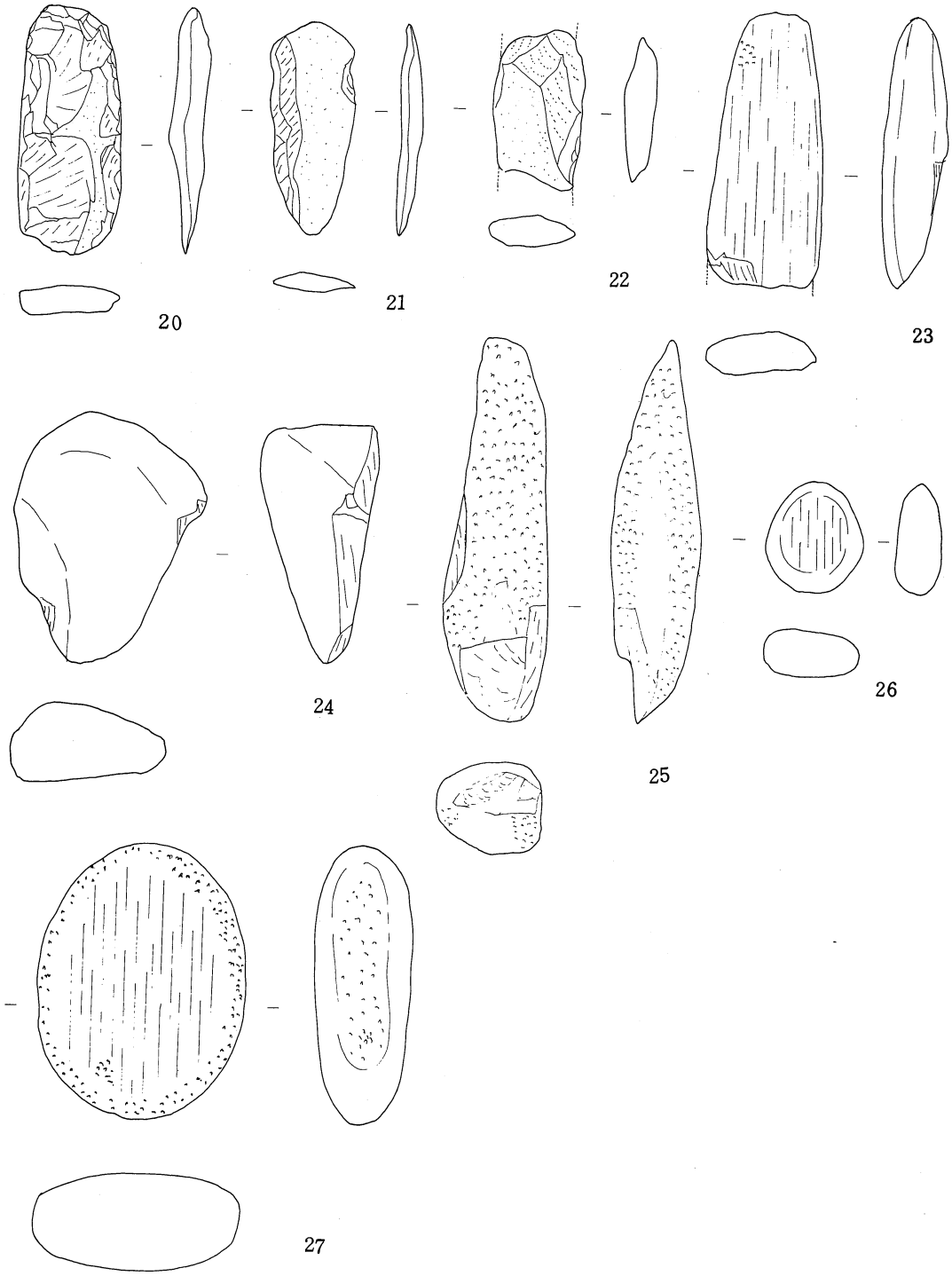
覆土は壁ぎわにローム粒を含んだ黄褐色土ないし暗褐色土が堆積した後、黒褐色土が厚く覆っている。多量に出土した遺物は床面よりやや浮いた状態でⅠ層の黒褐色土中より出土している。



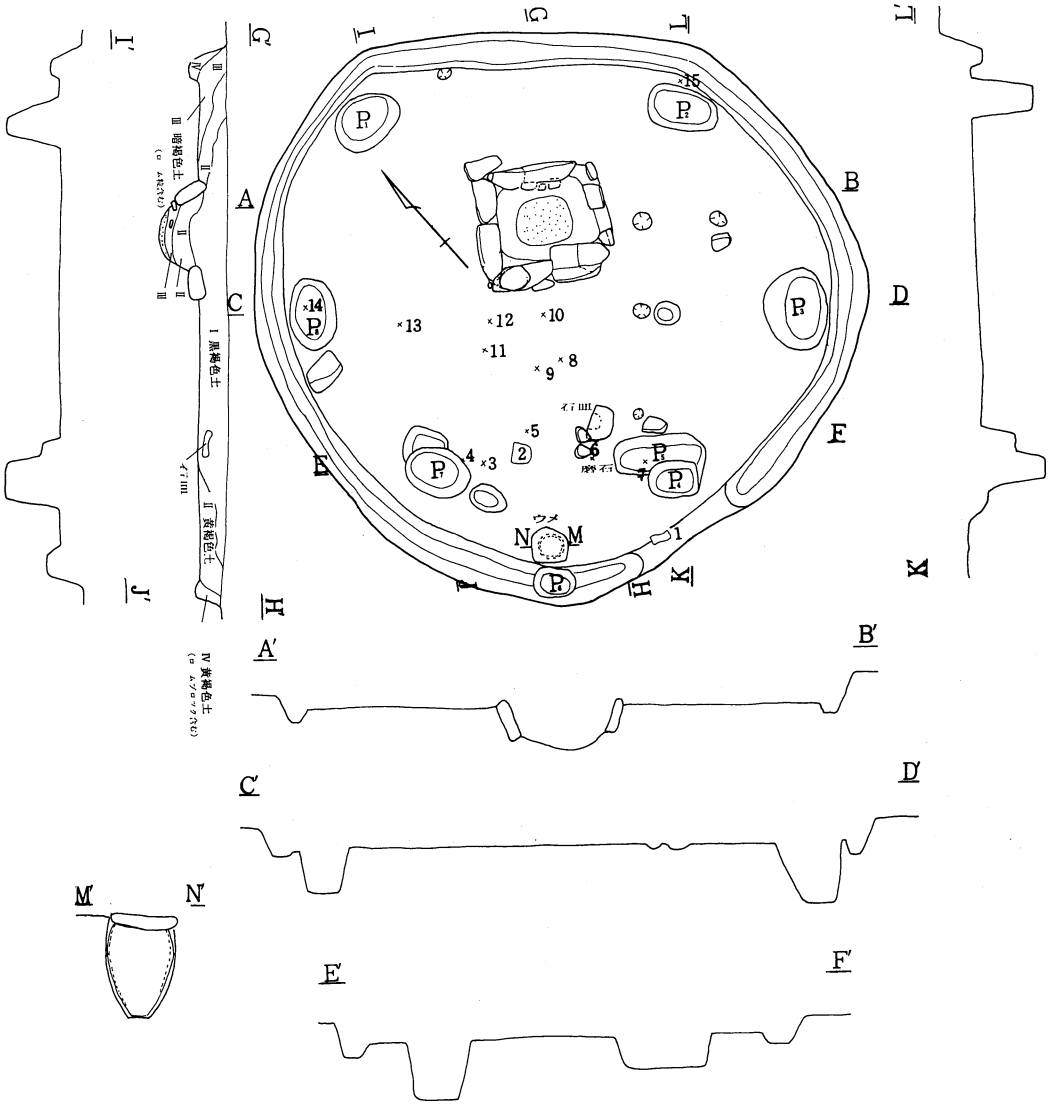
第54図　第47号住居址床面出土土器（1は埋甕、1～4は1/6他は1/3）



第55図　第47号住居址覆土出土石器（1/3）



第56図　第47号住居址床面出土石器（1/3）

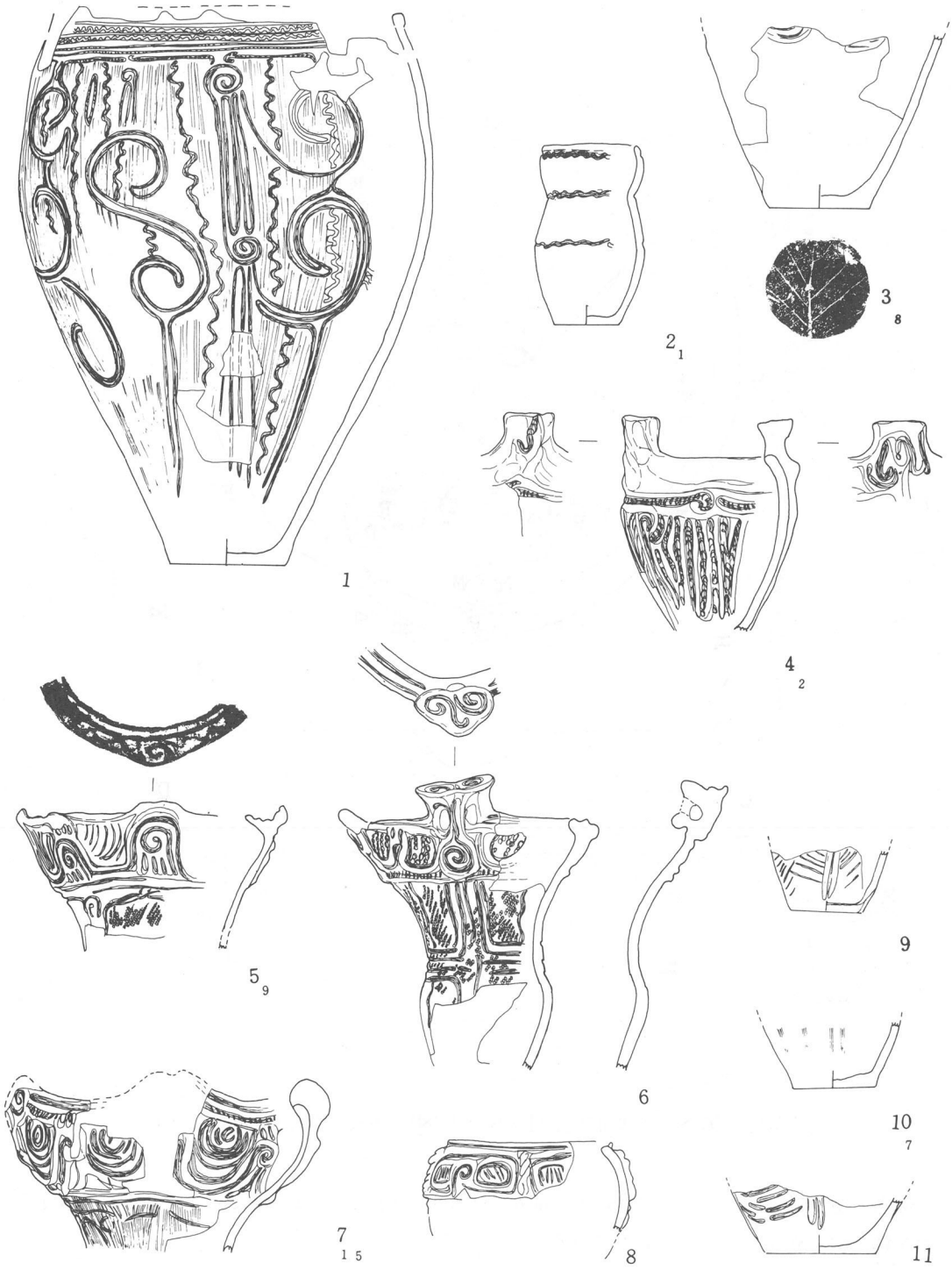


第57図　第48号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）

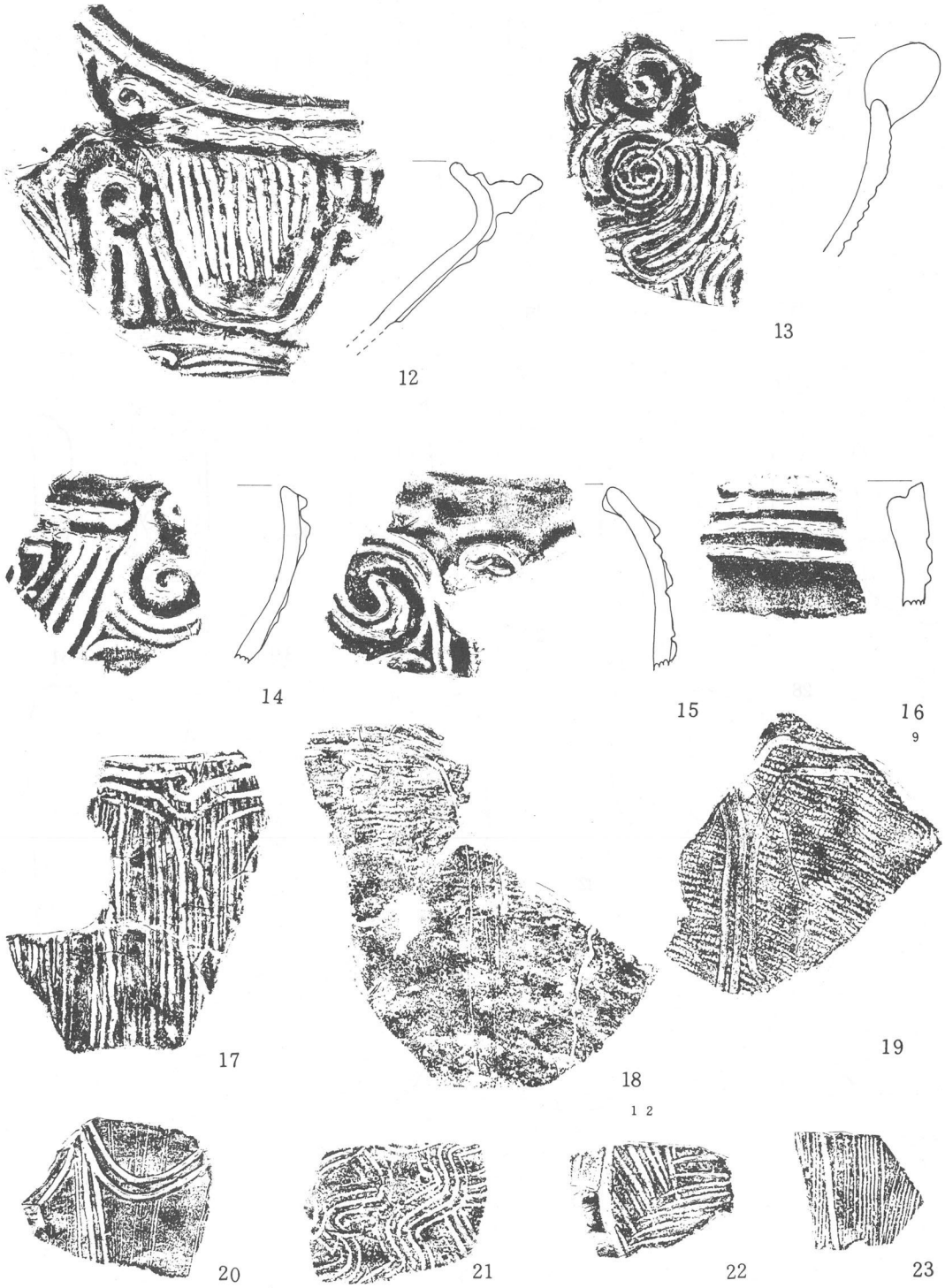
遺物　遺物は多い。ほとんどが炉の手前から出土している。1は埋甕で完形である。2は小形の深鉢で器形施文とも珍しいものである。

石器は床面より35点、覆土中より30点の計65点と多く出土している。打製石斧が22点と多く次いで敲打器13点、横刃形石器10点で、磨石も6点出土している。

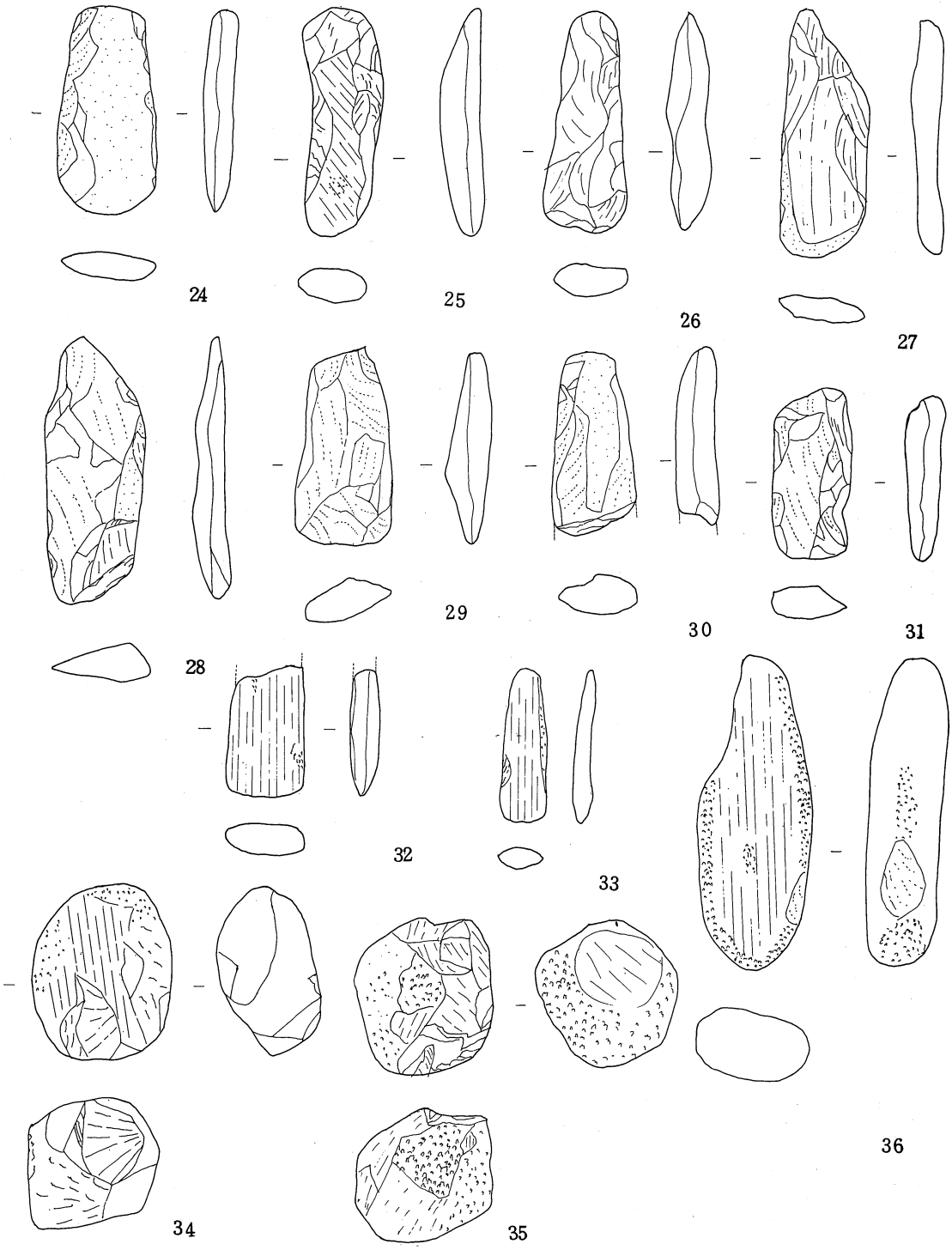
時期は中期後葉Ⅱ期でも古い段階に属する。



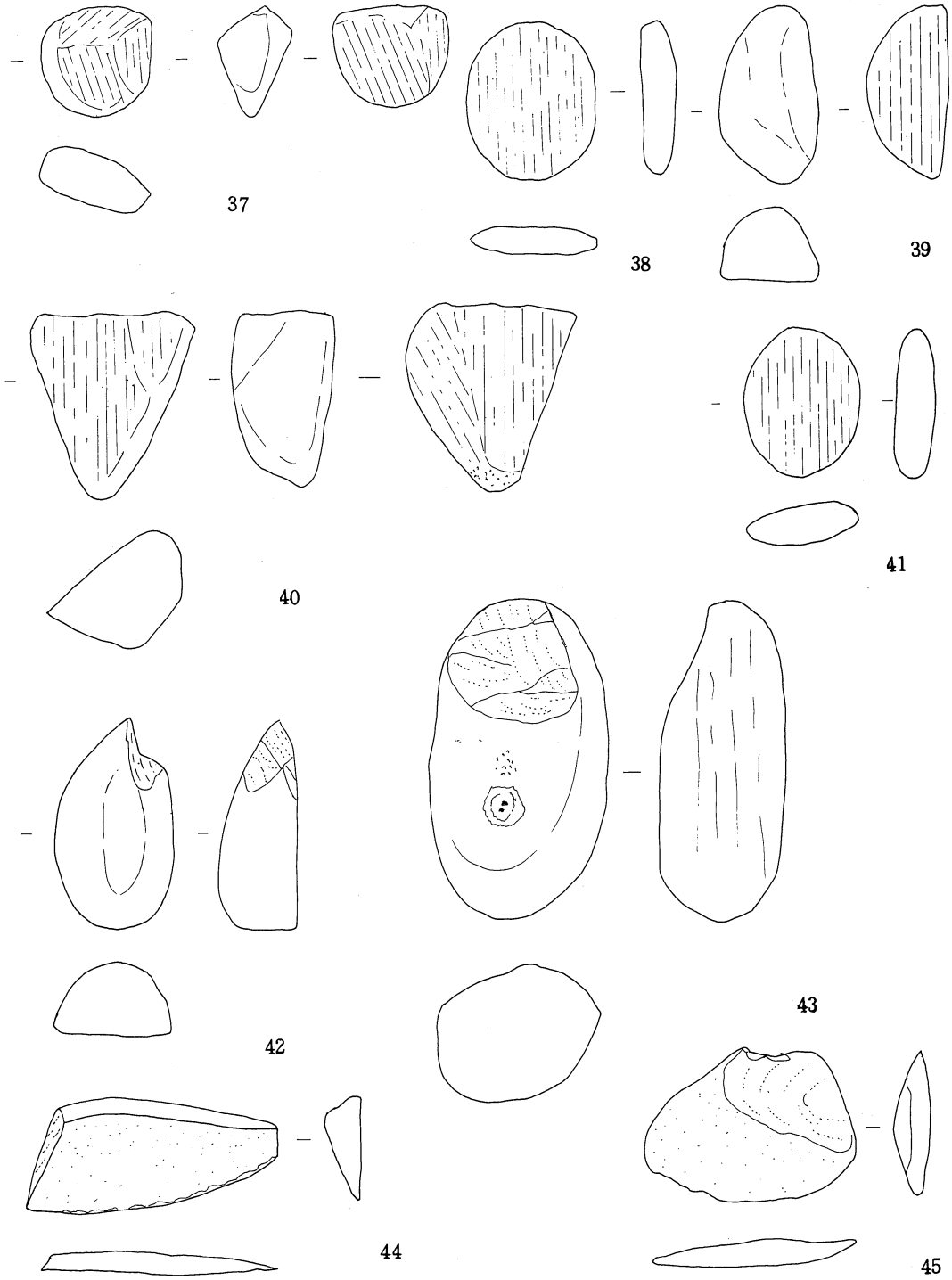
第58図　第48号住居址床面出土土器（1は埋甕、1/6）



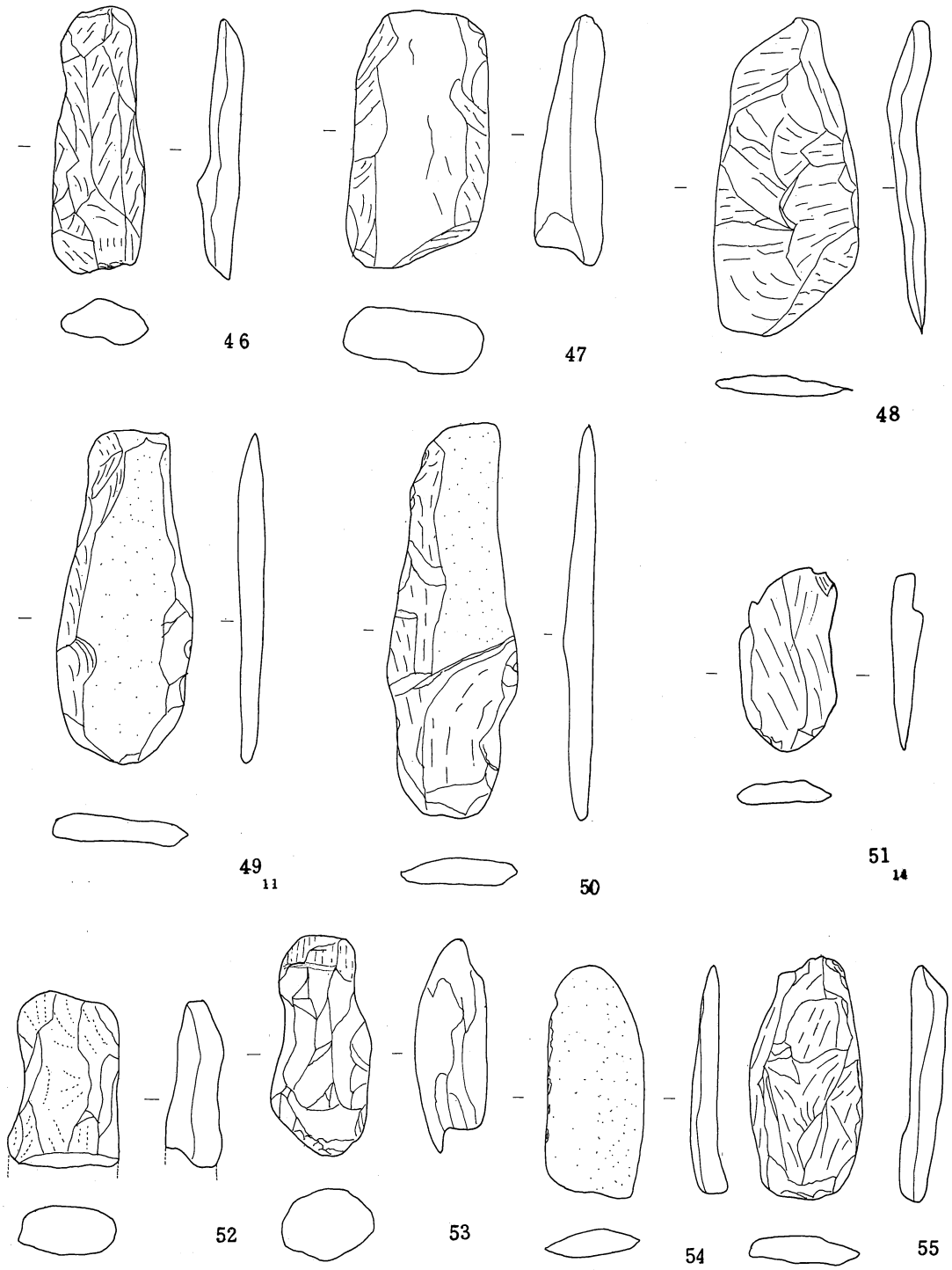
第59図　第48号住居址床面出土土器（1/3）



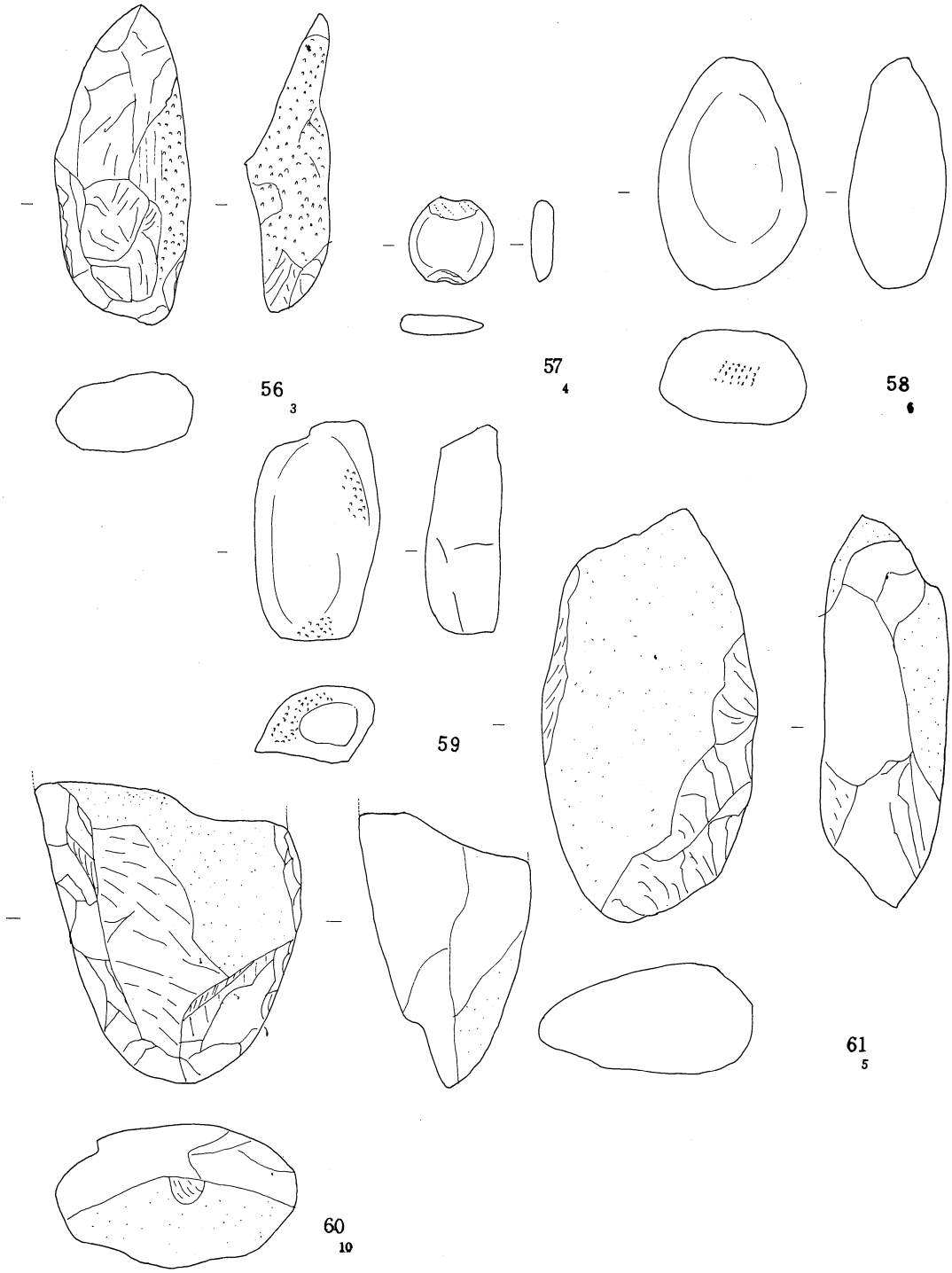
第60図　第48号住居址覆土出土石器（1/3）



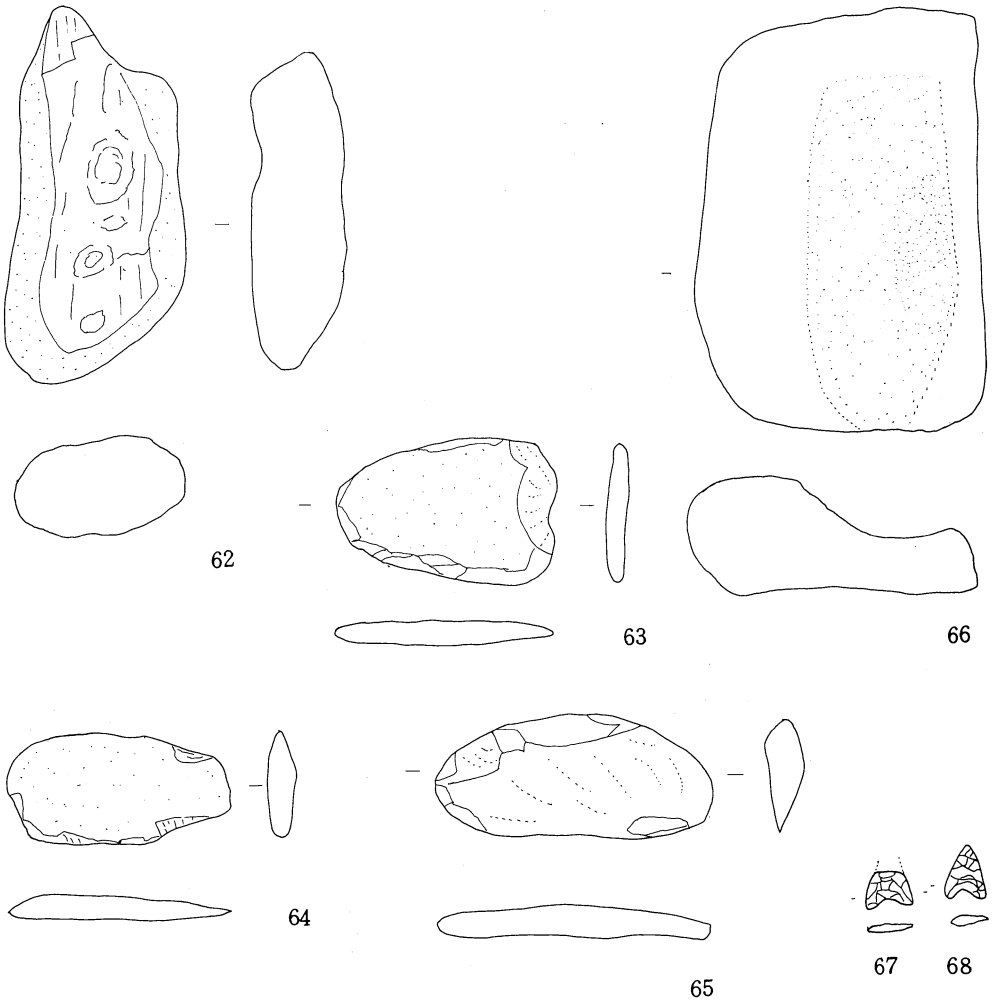
第61図　第48号住居址覆土出土石器（1/3）



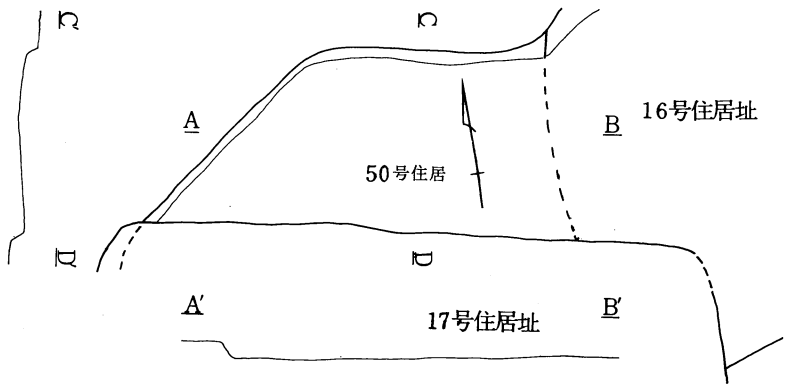
第62図　第48号住居址床面出土石器（1/3）



第63図　第48号住居址床面出土石器（1/3）



第64図　第48号住居址床面出土石器（66は１/６他は１/３）



第65図　第50号住居址実測図（S＝1/80）

⑲　**第50号住居址**（第65図）

遺構　本住居址は第16号住居址の西に同一床面にて重複するもので、南側大半は第17号住居址に切られている。プラン・主軸方向はまったく不明である。

床面は固く堅緻である。主柱穴、炉はみられない。

遺物　遺物は少なく中期後葉の小破片がわずかに出土するのみである。

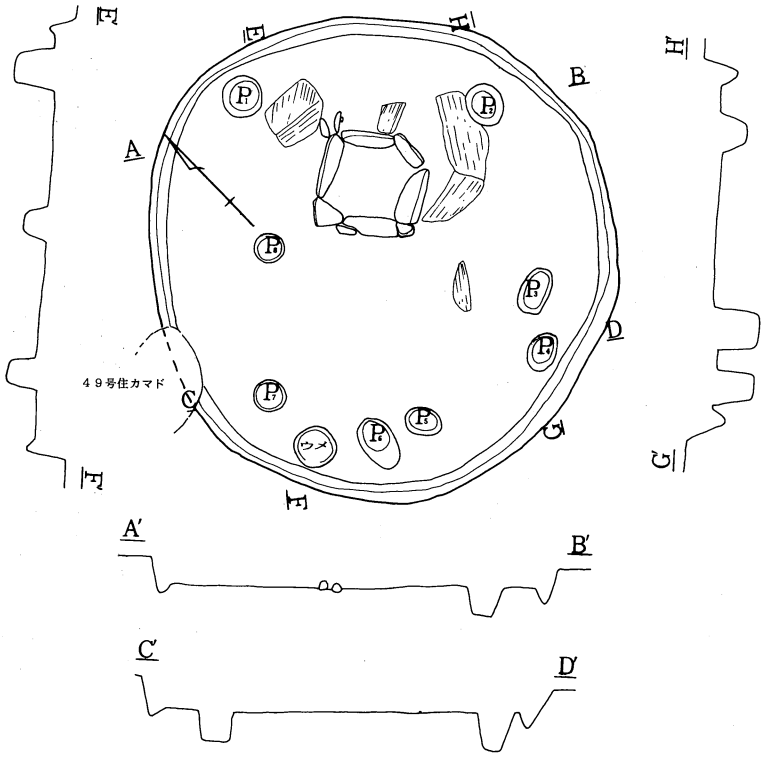
⑳　**第51号住居址**（第66～69図）

遺構　本住居址は第16号住居址の西に位置し、北西には第52号住居址がある。西壁は一部壊され第49号住居址のカマドが造られている。

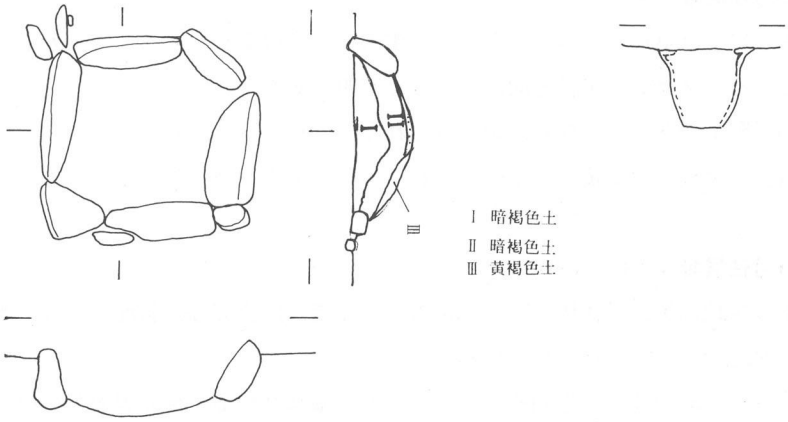
プランは円形で5.1×5.0mを測ることができる。壁高は30cm前後で周溝が一周する。床面は固くタタかれているが南西壁ぎわと北東壁ぎわがやや低くなる。主軸方向はN－50°－Eである。

炉は中央北東壁ぎわに寄ってあり、掘り込みは浅いが掘炬燵状石囲炉で、手前の炉石は横長にすえられ、平坦となっている。

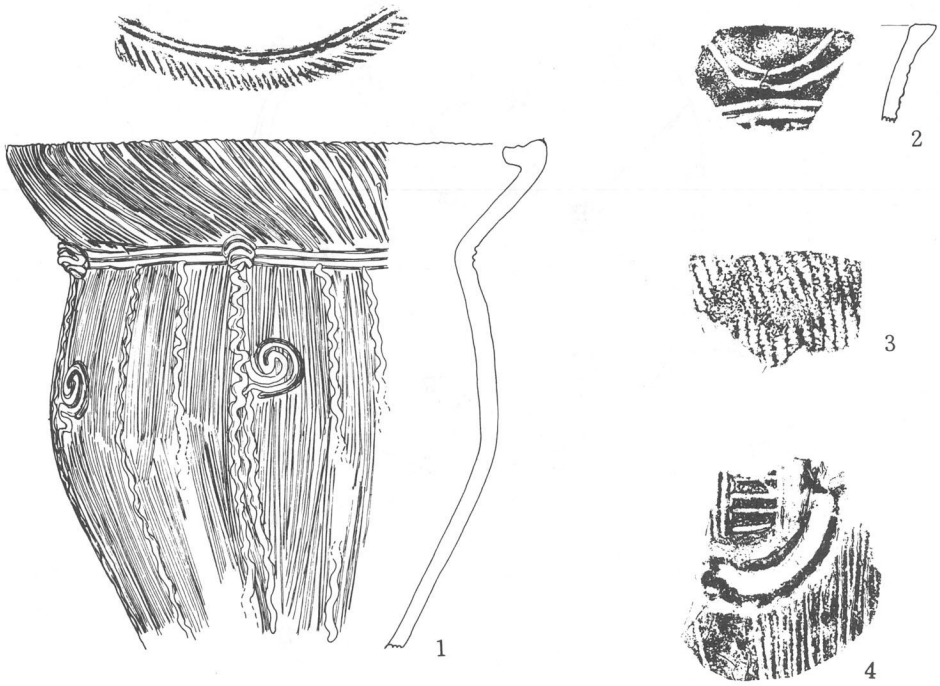
主柱穴は１・２・３・５・７の５本であろう。P_7の南東壁ぎわに正位の埋甕（第68図－１）が検出されている。炉の周囲よりは炭化材が床面上より検出されたが焼土ははっきりとしなかった。



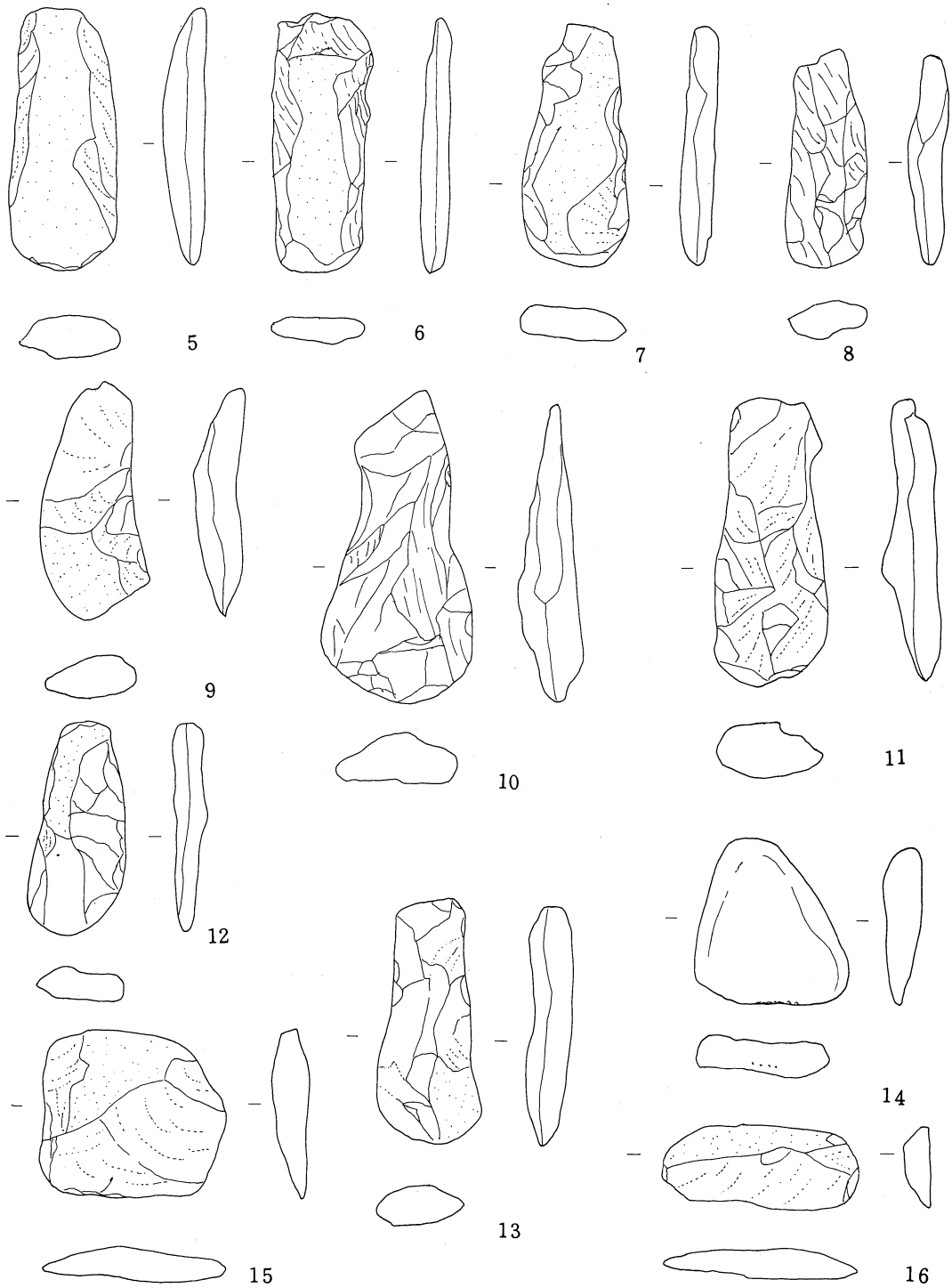
第66図　第51号住居址実測図（S＝1/80）



第67図　第51号住居址炉及び埋設土器断面図（S＝1/40）



第68図　第51号住居址床面出土土器（1は埋甕1/6他は1/3）

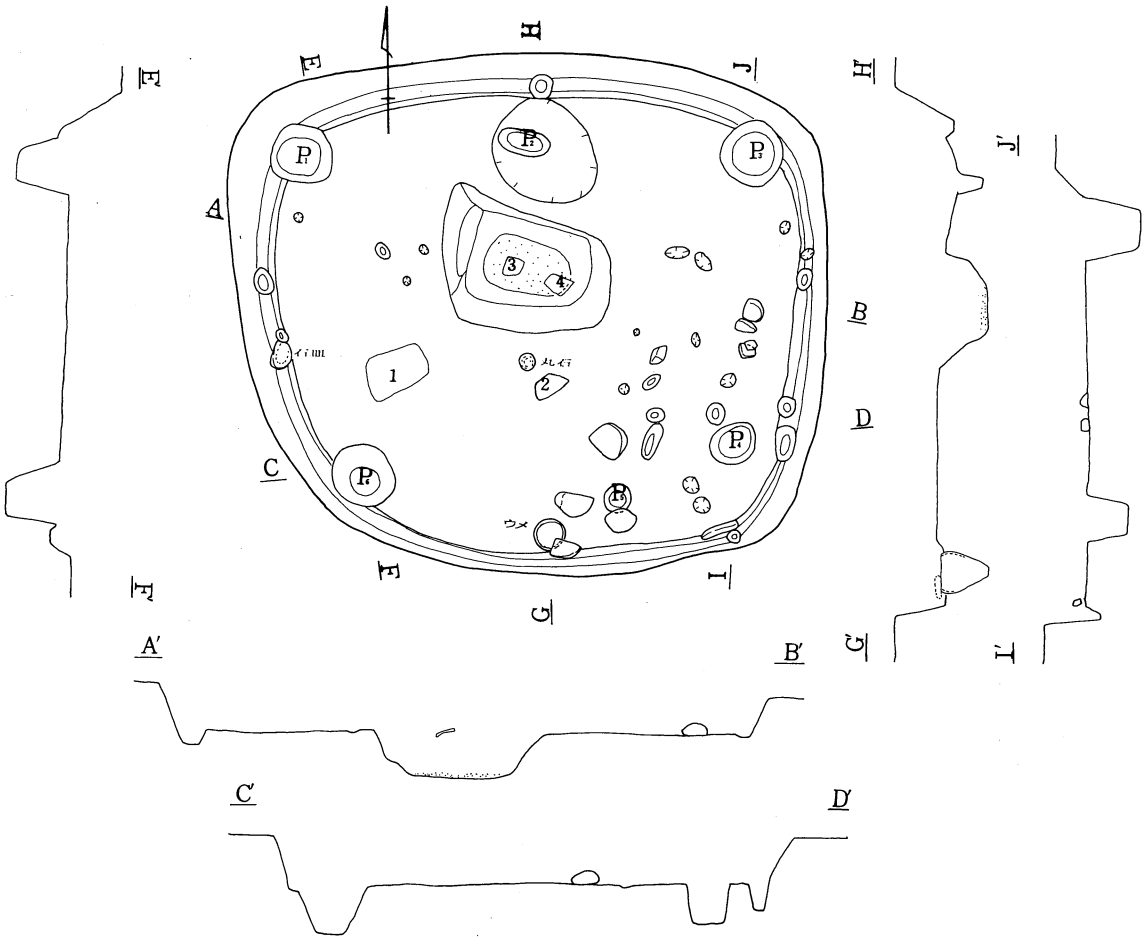


第69図　第51号住居址出土石器（1は覆土他は床面、1/3）

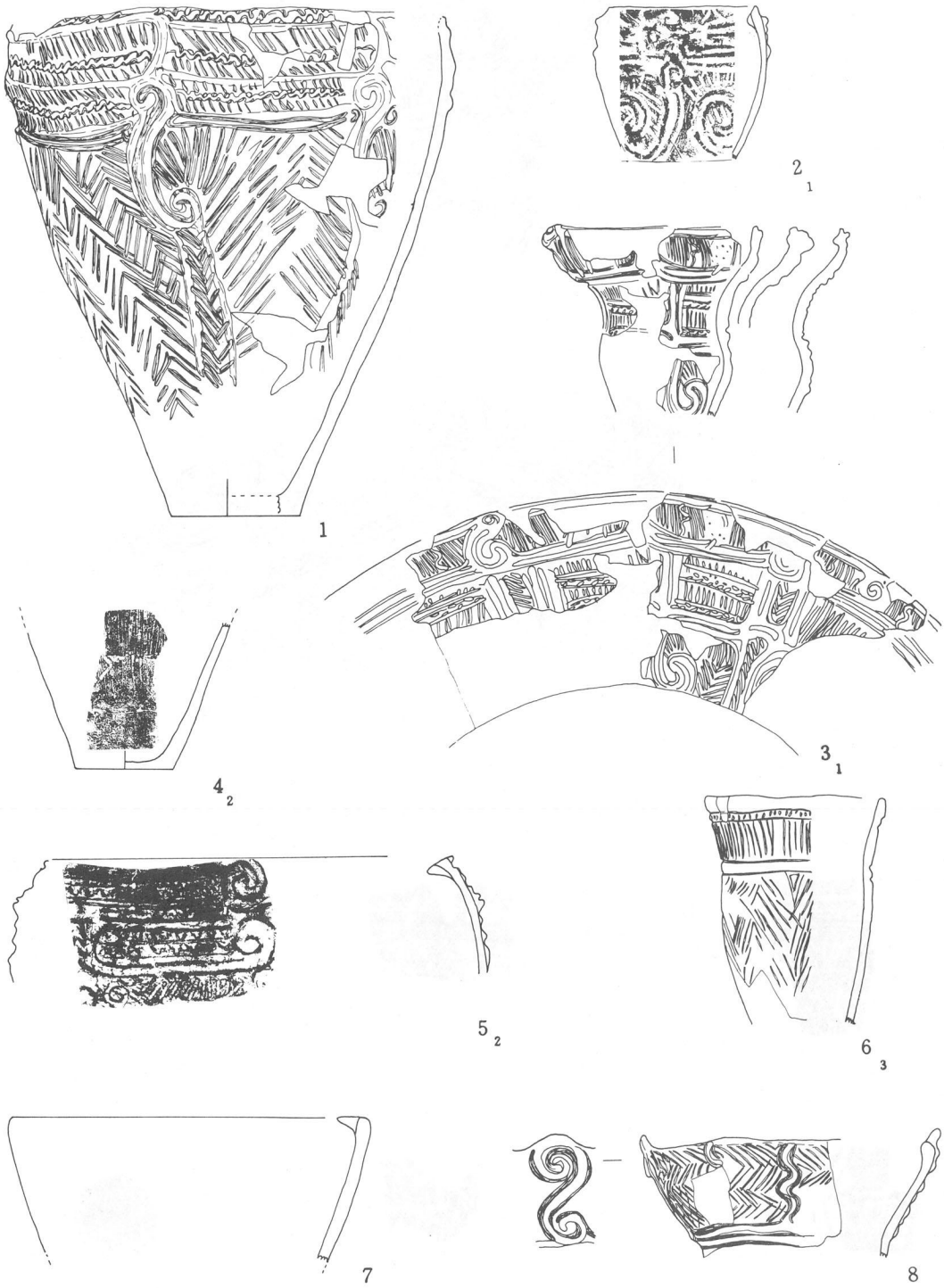
遺物　土器は少ない。１は埋甕で胴下部を欠いている。口縁は強く内屈している。他はすべて少破片である。

石器は16点出土し内１点が覆土中のものである。打製石斧が12点と卓越している。

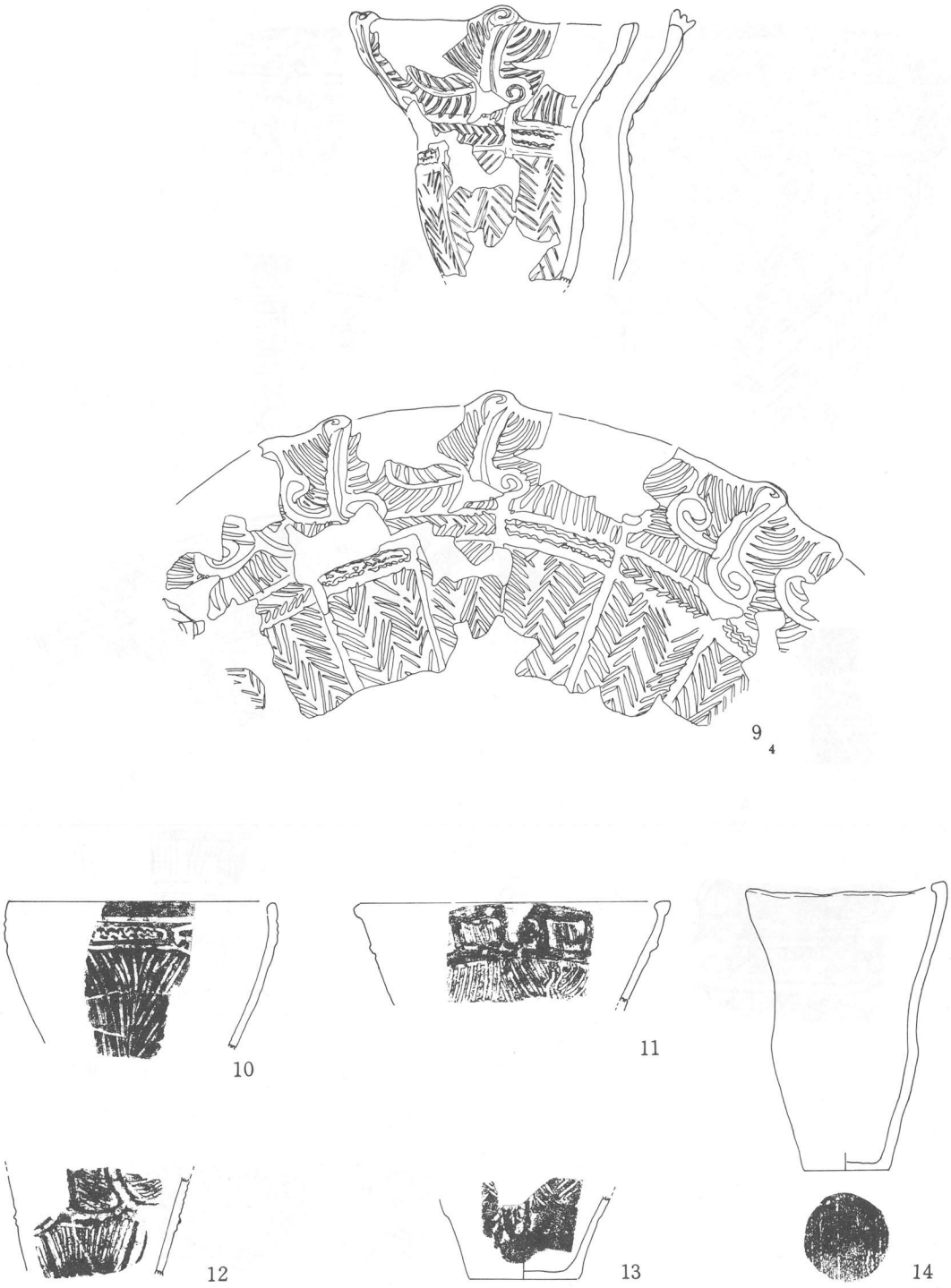
時期は埋甕からすると中期後葉Ⅱ期も古い段階に属するであろう。



第70図　第52号住居址実測図（S＝1/80）

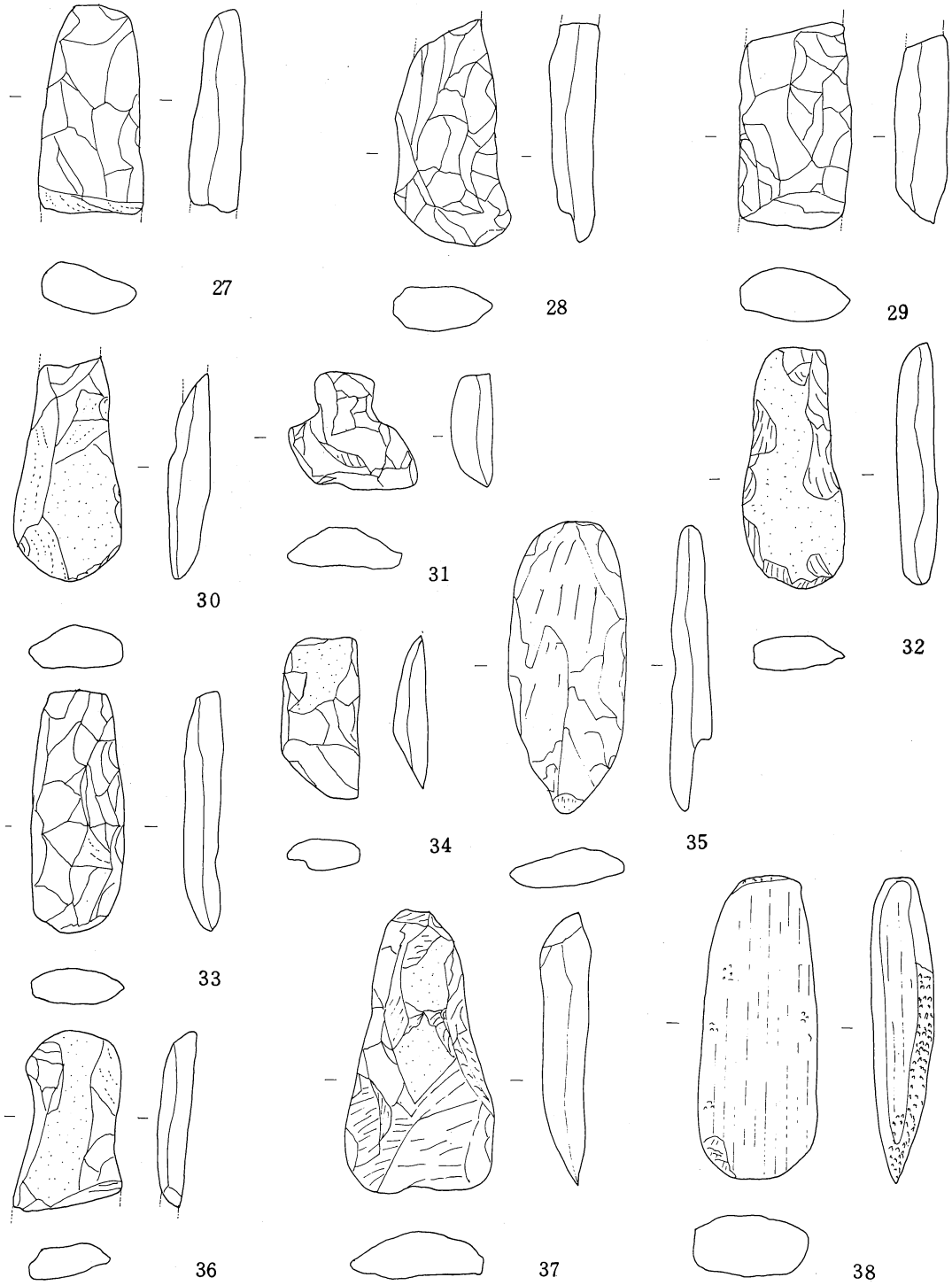


第71図　第52号住居址床面出土土器（1は埋甕、1/6）

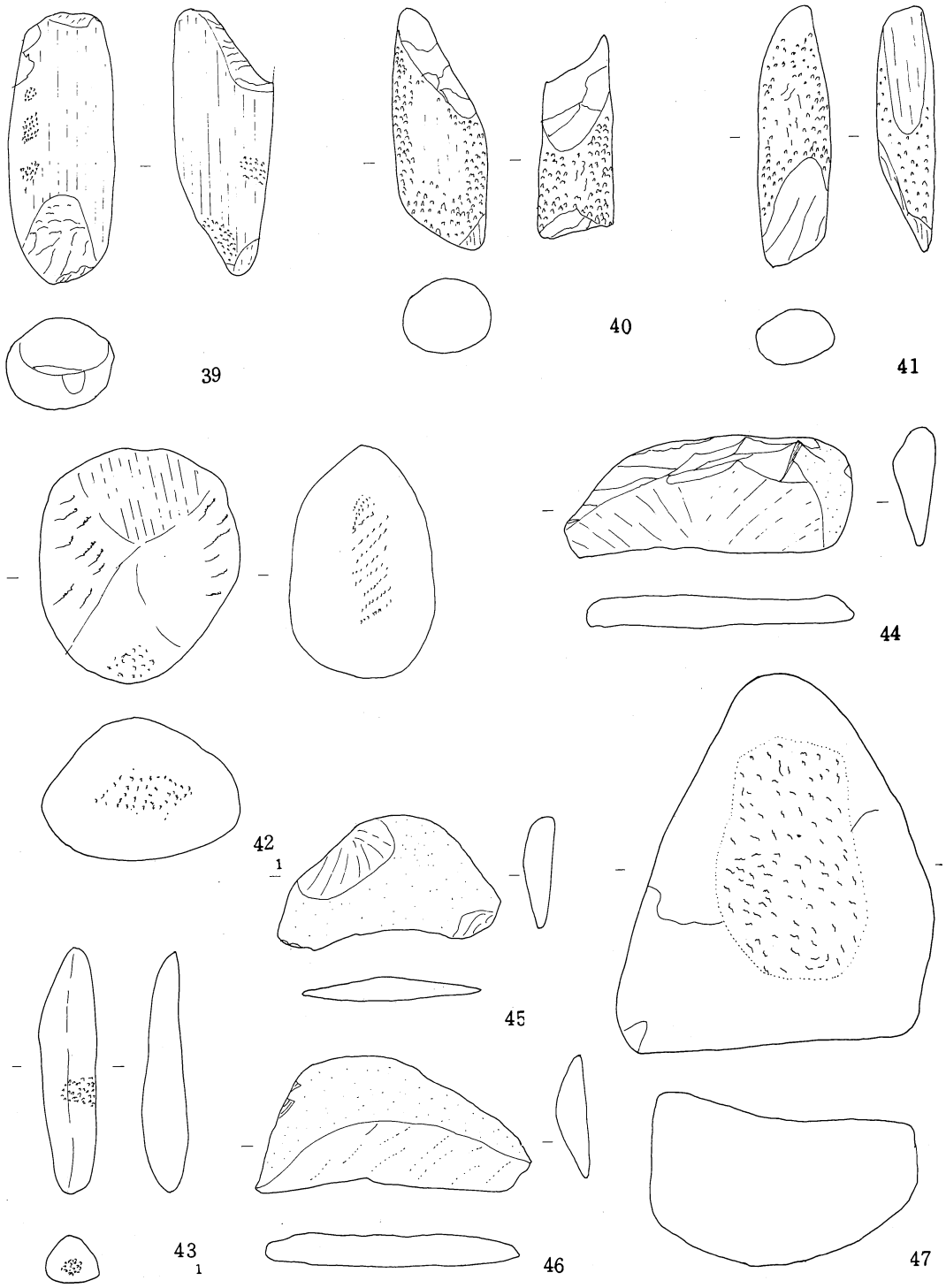


第72図　第52号住居址床面出土土器（1/6）

第73図　第52号住居址床面出土土器（1/3）



第74図　第52号住居址出土石器（27～31は覆土・他は床面、１/３）



第75図　第52号住居址床面出土石器（43は１/６、他は１/３）

㉑　第52号住居址（第70～75図）

遺構　第51号住居址の北西にあり、北西には第66号住居址が接している。

プランは隅丸長方形で5.5×6.2mを測る。主軸方向はN－4°－Wである。壁高は45cm前後と深い。周溝は一周し内部の所々にピットを持つ。

床面は炉の周辺を中心に固くタタかれ堅緻である。炉は中央北寄りにあり炉石はすべて抜かれているが、掘炬燵状石囲炉である。主柱穴は１・３・４・６の４本で２と５は補助柱であろう。

P_4とP_6の中間壁ぎわ入口部に正位の埋甕（第71図－１）が検出されている。南東部には平盤な石がのっている。炉の手前床面上に丸石が北東床面上には自然石がみられる。また西壁ぎわより石皿が出土している。炉の手前と炉の内部よりまとまって土器が出土している。

遺物　遺物とりわけ土器は豊富で器形を知り得るものも多い。１は埋甕で底部を打ち欠いている。前期の影響を受けた小形の３・６・８・９・11・12とともに唐草文が混在してみられ、当期の特徴を良くあらわしている。

石器は床面より21点、覆土中より８点の29点が出土している。打製石斧が10点と多いが、横刃形石器７点と磨製石斧６点と多く注目される。磨製石斧は定角・蛤刃・乳棒状それぞれ２点ずつである。

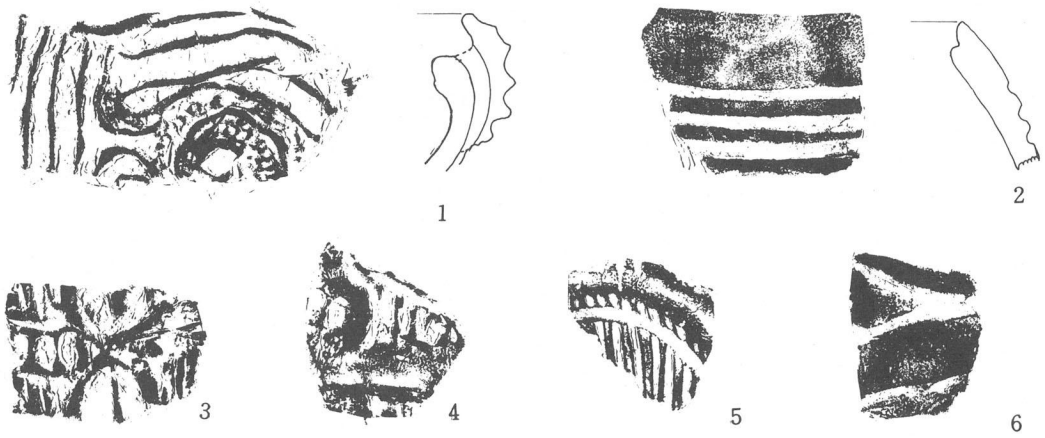
時期は中期後葉Ⅱ期後半に属する。

㉒　第57号住居址（第76図）

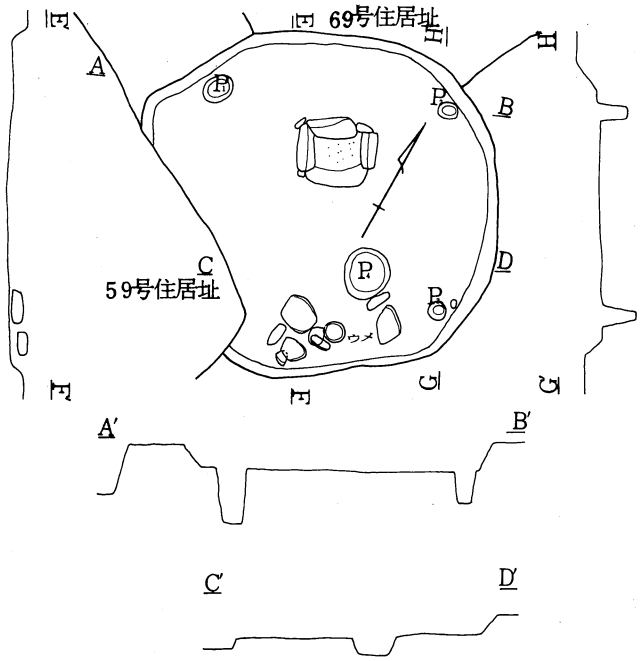
遺構　本址は第16号・50号住居址・第51号住居址・第49号住居址の間に検出されたもので、これらによってすべて切られ、床面をわずかに残すものである。プラン・規模は不明で炉も発見されていない。床面は固く堅緻である。

遺物　土器は少なく器形を図示でき得るものはない。石器は打製石斧３点、磨製の乳棒状石斧・大形粗製石匙・特殊敲打器各１の６点が出土している。

時期は２を除けば中期後葉Ⅰ期に属するであろう。



第76図　第57号住居址床面出土土器（1/3）



第77図　第60号住居址実測図（S＝1/80）

㉓　第60号住居址（第77～81図）

遺構　本住居址は第61号・65号住の西にあり、61号住居址を切っている。北西部では第69号住居址を切り、南西部は第59号住居址に切られている。

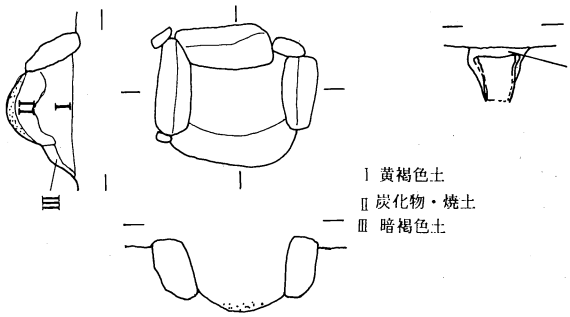
プランは円形を呈し、3.6×3.8mを測ることができる。壁高は30cm前後で周溝はみられない。主軸方向はN－30°－Wである。

床面はやや南に傾き、固くタタかれ堅緻である。

炉は中央北寄りに位置し、掘炬燵状石囲炉で南側の炉石は抜かれている。

主柱穴は1・2・3の3本があり、本来は4本であろう。

南壁入口部に正位の埋甕（第79図－1）が検出されている。埋甕の西には床面より浮いて集石があり、東側床面には自然石2個がある。



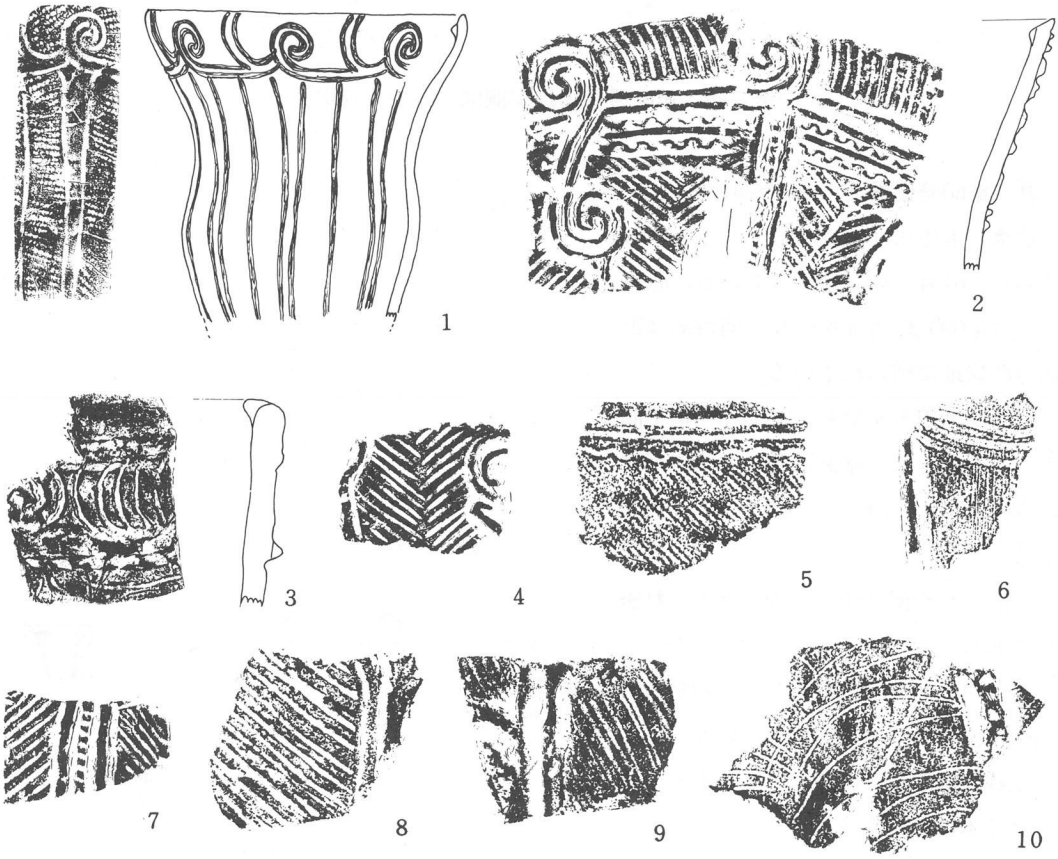
第78図　第60号住居址床面出土土器
（1は埋甕1/6、他は1/3）

第69号住居址と時間差はみられず同時期の切り合いである。

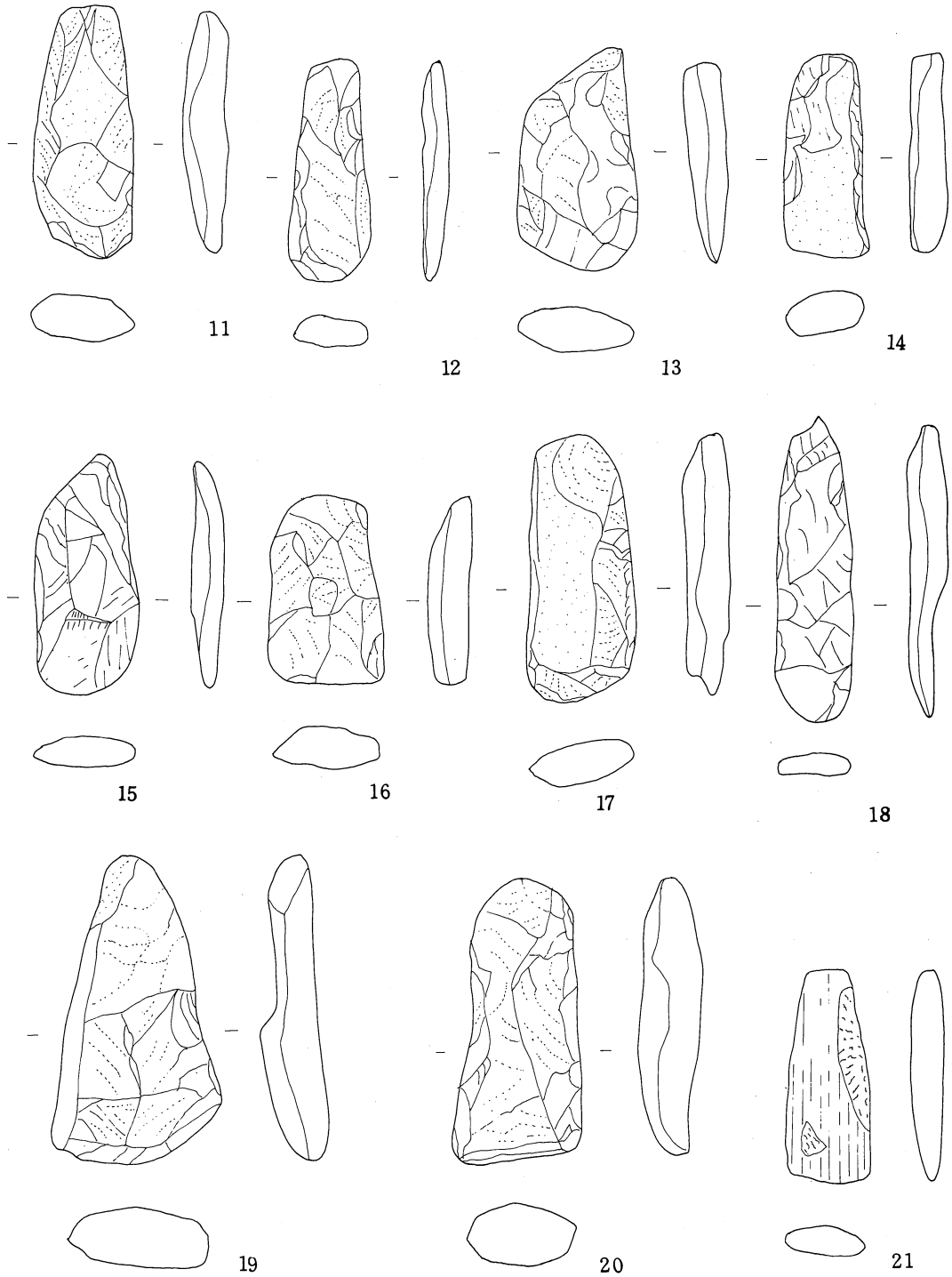
遺物　土器はあまり多くない。１は埋甕で胴下部を欠く。地文の縄文が口縁から施文される。

石器は21点出土しているが、床面からは打製石斧１点と敲打器２点の３点のみである。覆土18点の内、13点が打製石斧で、大形粗製石匙と敲打器が２点ずつ、磨製の定角石斧が１点出土している。

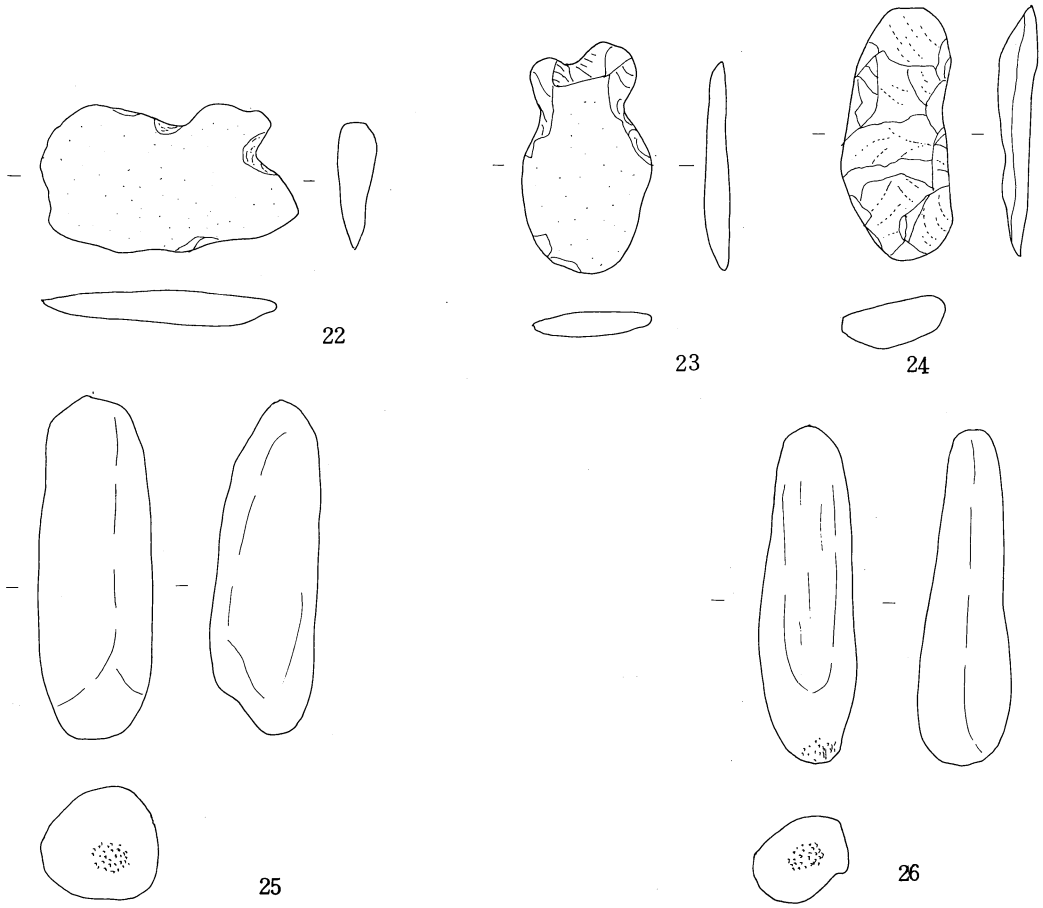
時期は中期後葉Ⅱ期に属する。



第79図　第60号住居址床面出土土器（１は埋甕１/６、他は１/３）



第80図　第60号住居址覆土出土石器（1/3）



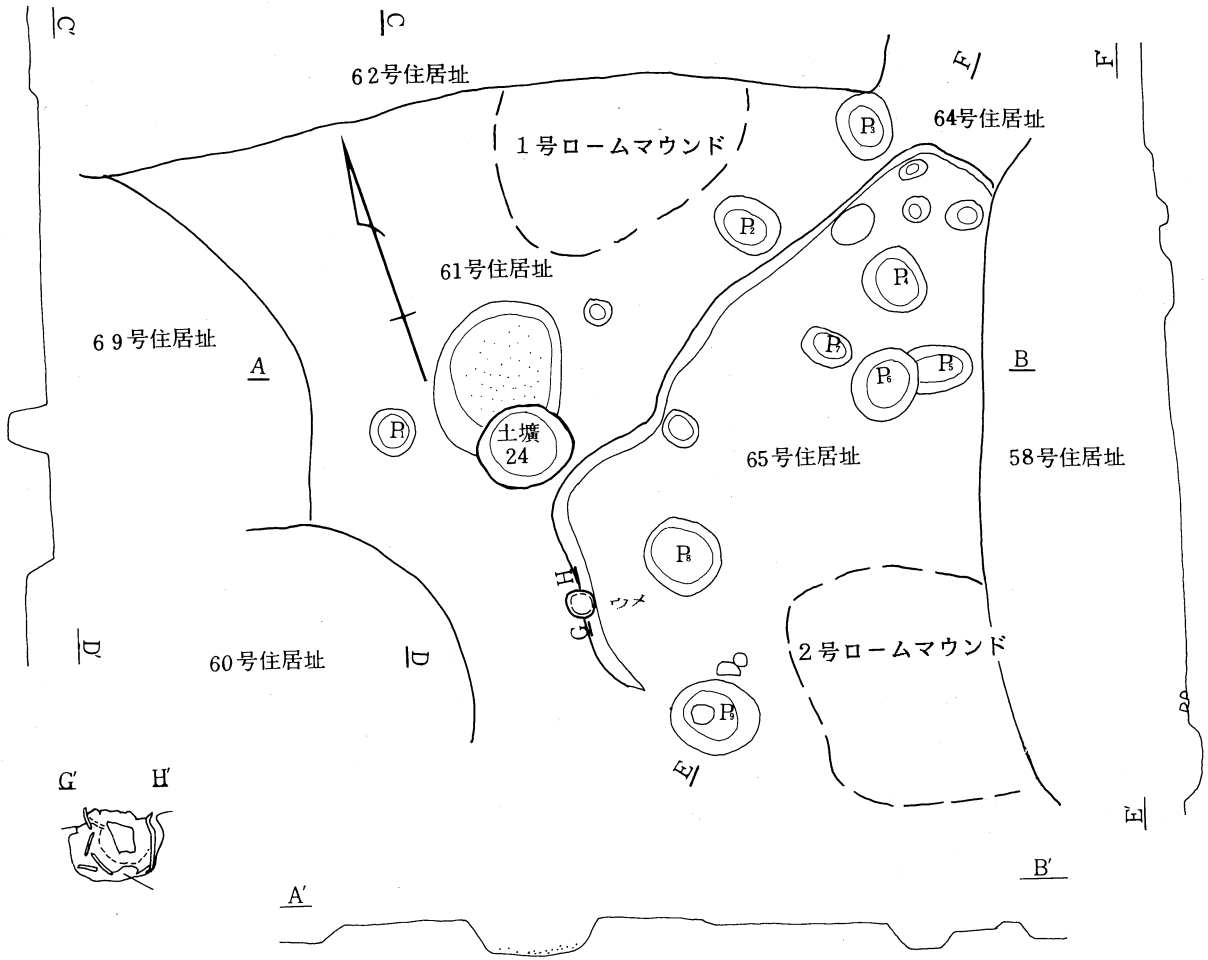
第81図　第60号住居址出土石器（22・23は覆土、他は床面、１/３）

㉔　第61号住居址（第82・83図）

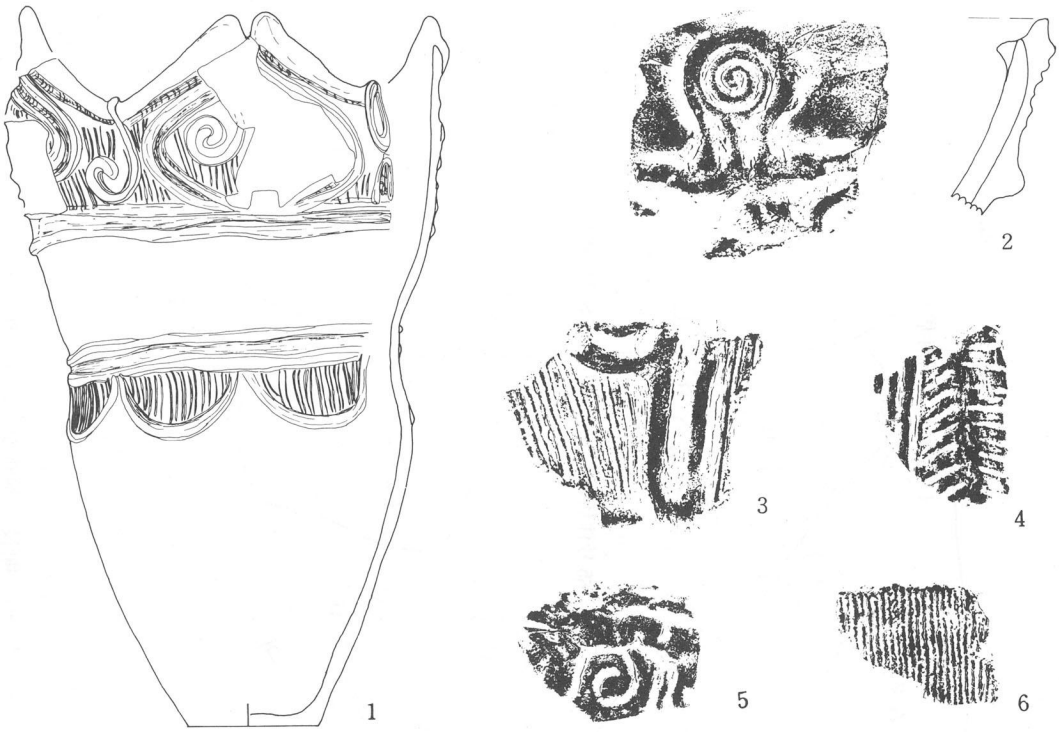
遺構　本住居址は第60号・69号住居址に西側を切られ、北側は第62号住居址に切られている。東側は第65号住居址に切られた状態となっている。第65号住居址の時期の方が古い様相をみせており、貼床のあった可能性が強い。この一帯は住居址が密集し、さらに桑畑のため撹乱がひどいことを考慮したい。

このようなことからプラン・規模はまったく不明である。床面は炉を中心に固くタタかれている。炉は炉石が抜かれている。掘り込みは浅い方で石組炉の可能性が強い。炉の南は土壙24が切っている。

主柱穴はP_1・P_2が考えられるが定かでない。炉の南第65号住居址壁ぎわに正位の埋甕（第83図－１）が検出されている。内側につぶれ込んだ状態を示している。



第82図　第61号・65号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）



第83図　第61号住居址床面出土土器（1は埋甕1/6、他は1/3）

遺物　土器は少なく埋甕（1）以外はすべて破片である。山形状の突起を4箇所に持ち、胴央部には櫛形文が施文される。

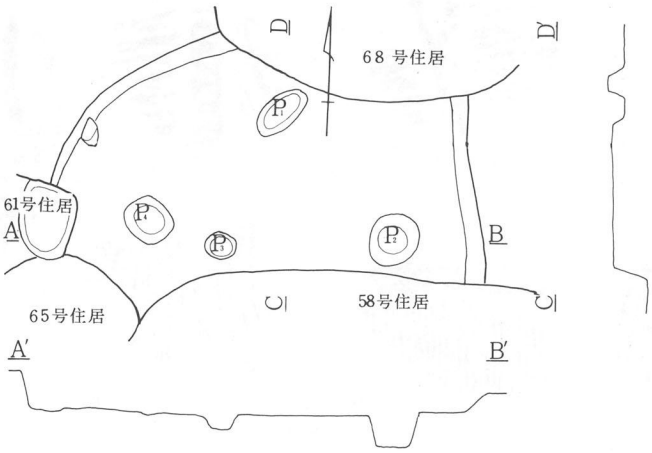
石器は土器に比べて多く21点出土している。内訳は床面より7点、覆土中より14点である。打製石斧が11点、敲打器5点と卓越している。

㉕　第64号住居址（第84・85図）

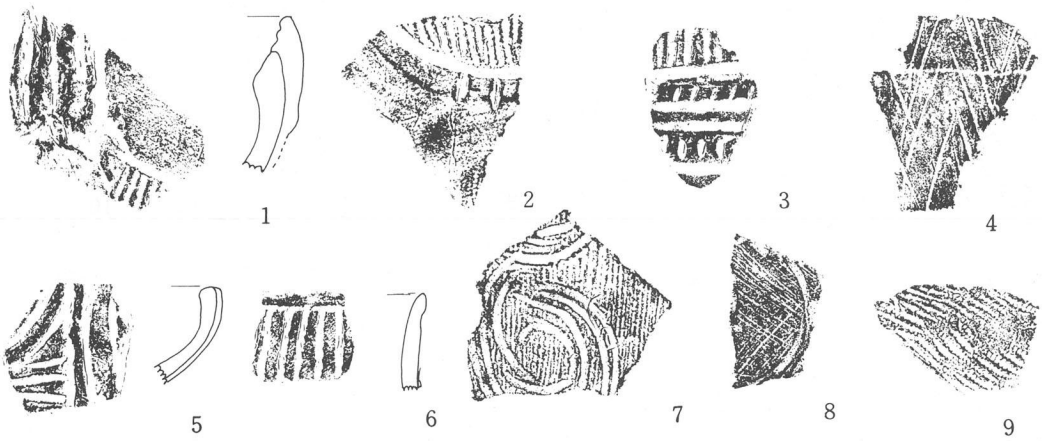
遺構　当住居址は第61号住居址の北東に接してあり南半は第58号住居址に切られ、北東部は第68号住居址に切られている。また南西部は第65号住に切られた状態で検出されたが、本址の土器に混在がみられ時期を決め難く両者の重複関係ははっきりしない。

このように床面を部分的にのみ残すため、プランははっきりしないが円形であろうか。規模は東西4.5mを現況部で測ることができる。主軸方向は不明である。

炉は検出されていない。柱穴は1・2が考えられる。床面は南に傾き固くタタかれている。壁高は西で40cm前後、東で20cm前後である。



第84図　第64号住居址実測図（S＝1/80）

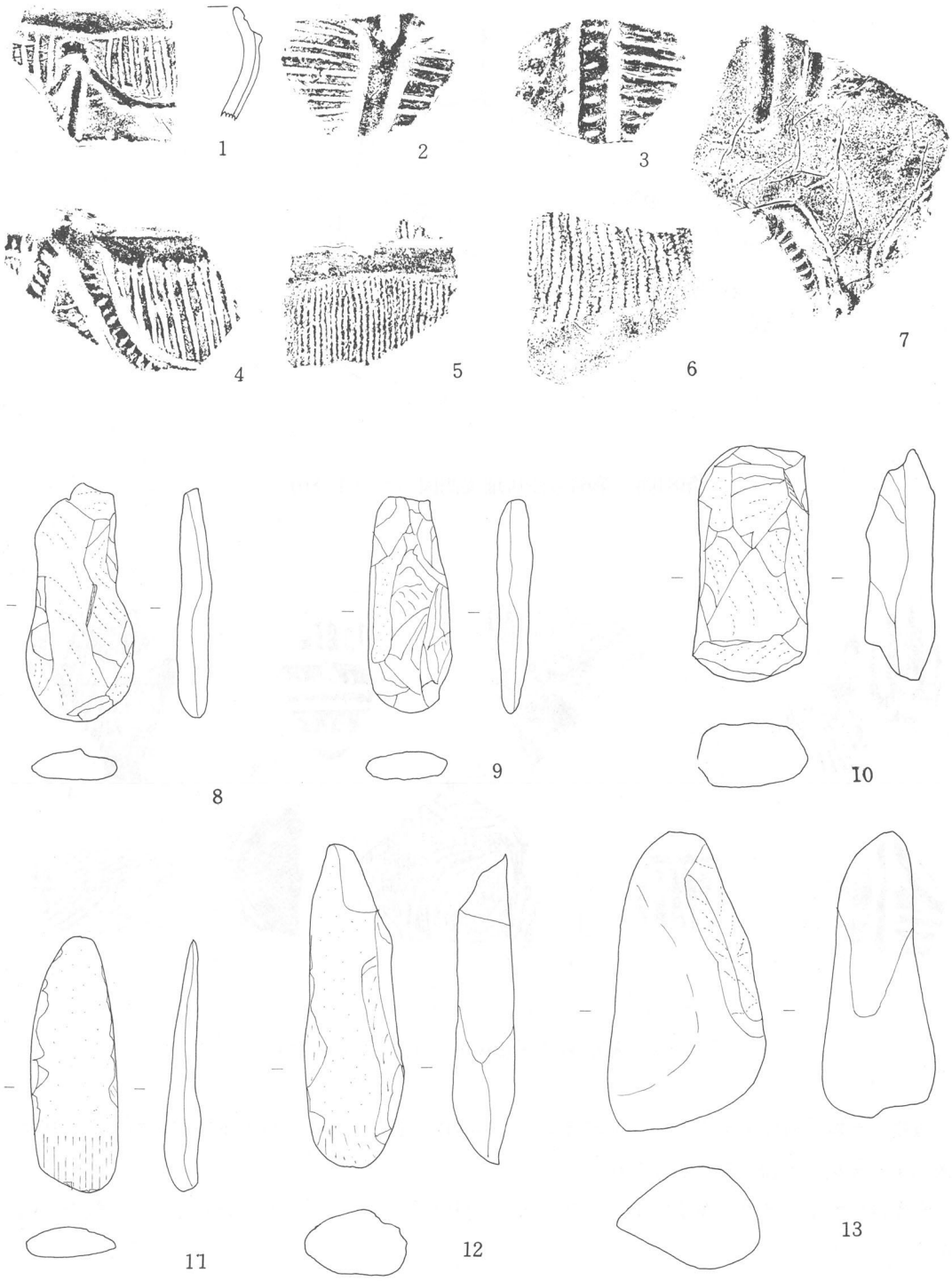


第85図　第64号住居址床面出土土器（1/3）

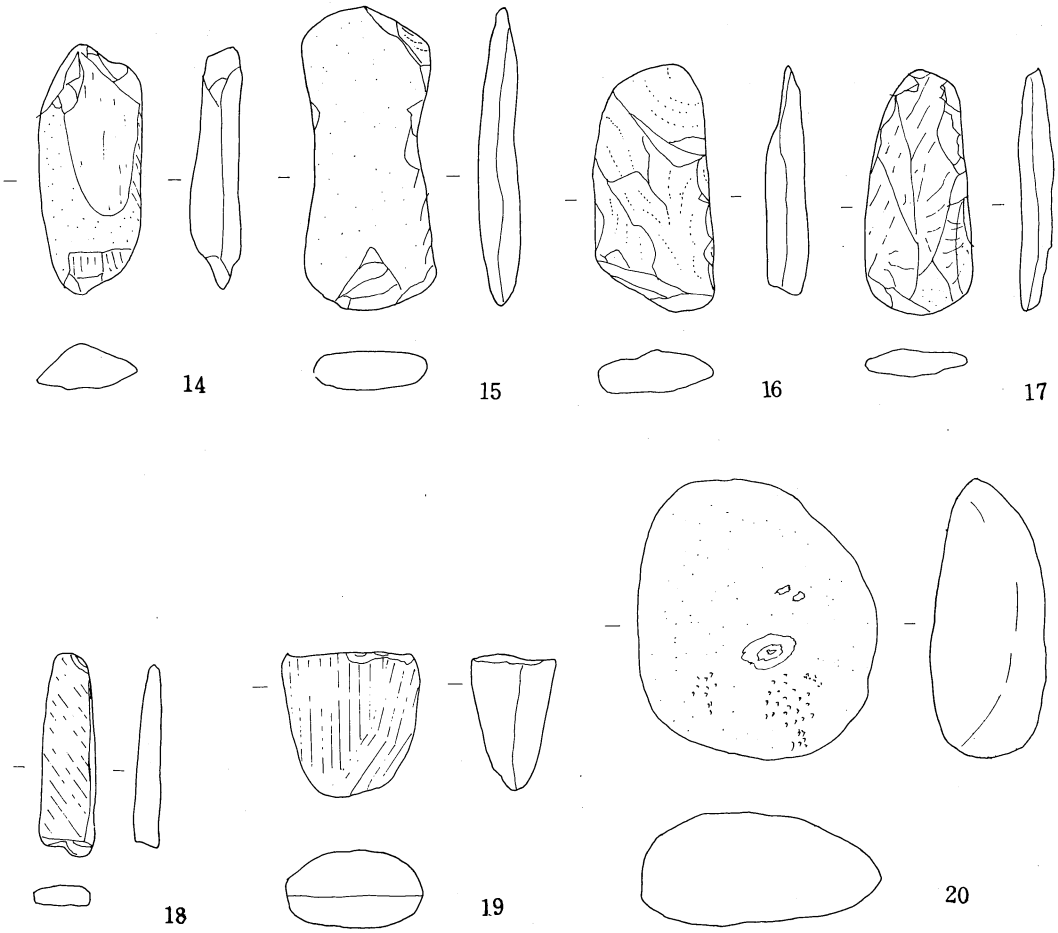
遺物　土器・石器とも少ない。土器はすべて小破片である。1～3は中葉井戸尻期、7～9は後出する後葉の土器で混在がみられる。

石器は床面より3点、覆土中より2点の計5点が出土している。打製石斧4点、大形粗製石匙が1点である。

時期はすでに述べたように混在しており決め難い。第68号住居址に切られていることからして中期後葉Ⅱ期以前であることは間違いない。



第86図　第65号住居址出土遺物（1～7は床面・8～13は覆土、1/3）



第87図　第65号住居址床面出土石器（1/3）

㉖　第65号住居址（第82・86・87図）

遺構　本址は第61号住居址の東にあって当住居址を切った状態で検出されたが、先にふれたとおり、第61号住居址が貼床した可能性が強い。東側は第58号住居に切られている。南側には第２号ロームマウンドがある。さらに北東部で重複する第64号住居址との重複関係ははっきりしない。

プランは隅丸形を呈すと思われ、東西方向6.3mを測ることができる。壁高は西側で現況５～10cmでなだらかである。床面は固く堅緻である。炉は検出されていない。

遺物　土器は少なく器形を知る得るものはない。

石器は床面より10点、覆土中より８点の計18点が出土している。内訳は打製石斧が13点と多く磨製石斧、敲打器各２点、凹石１点である。

時期は中期中葉井戸尻期に属する。

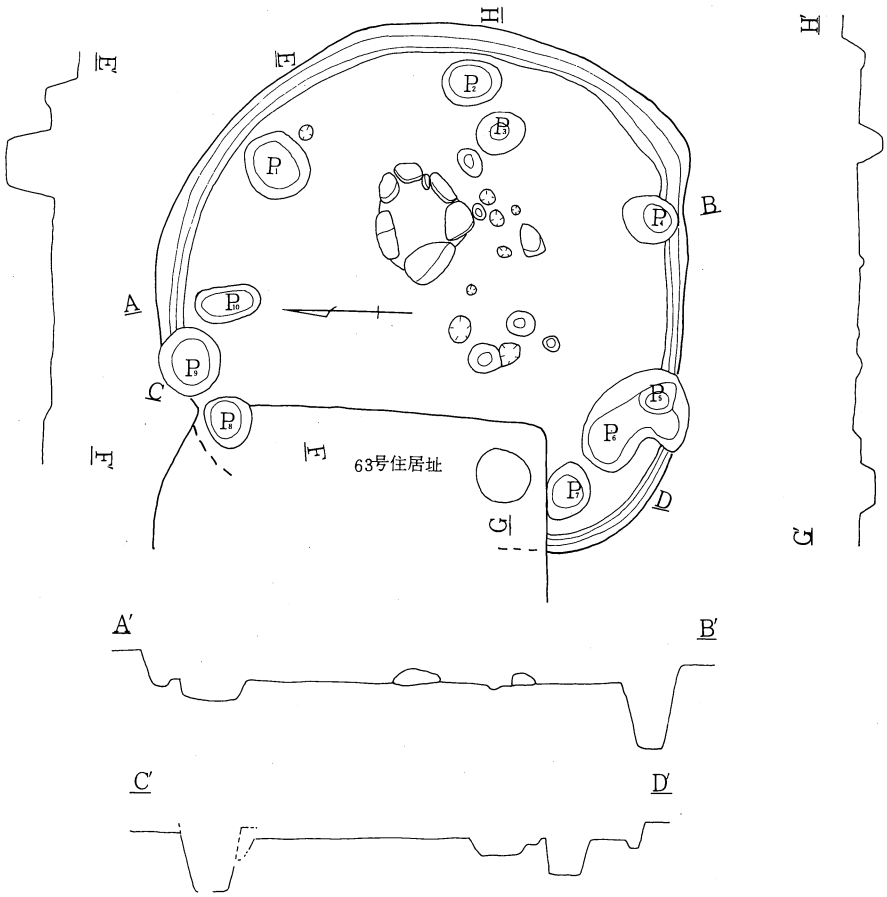
㉗　第66号住居址（第88・89図）

遺構　当住居址は北東部にて第52号住居址に近接し、西側は第63号住居址に切られている。

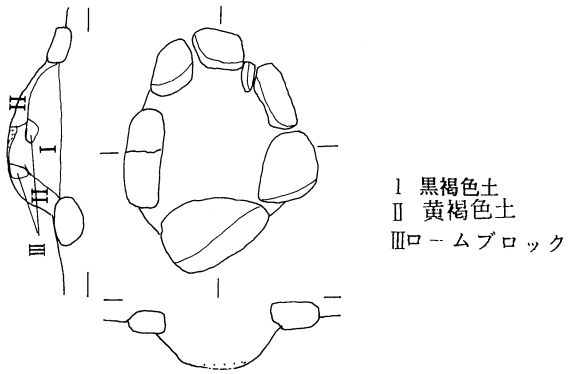
プランは一部に稜をみせるが全体的には円形で、規模は5.6×5.6mを測るであろう。主軸方向はN－85°－Eである。周溝が一周する。

壁高は北側がやや高く30cm、南側では20cm前後である。床面はほぼ平坦で固くタタかれ堅緻である。炉は中央東寄りに位置し楕円形の石組炉である。主柱穴は1，2・3，4，7，8・9の5本で重複する柱穴がある処から建替の可能性もある。

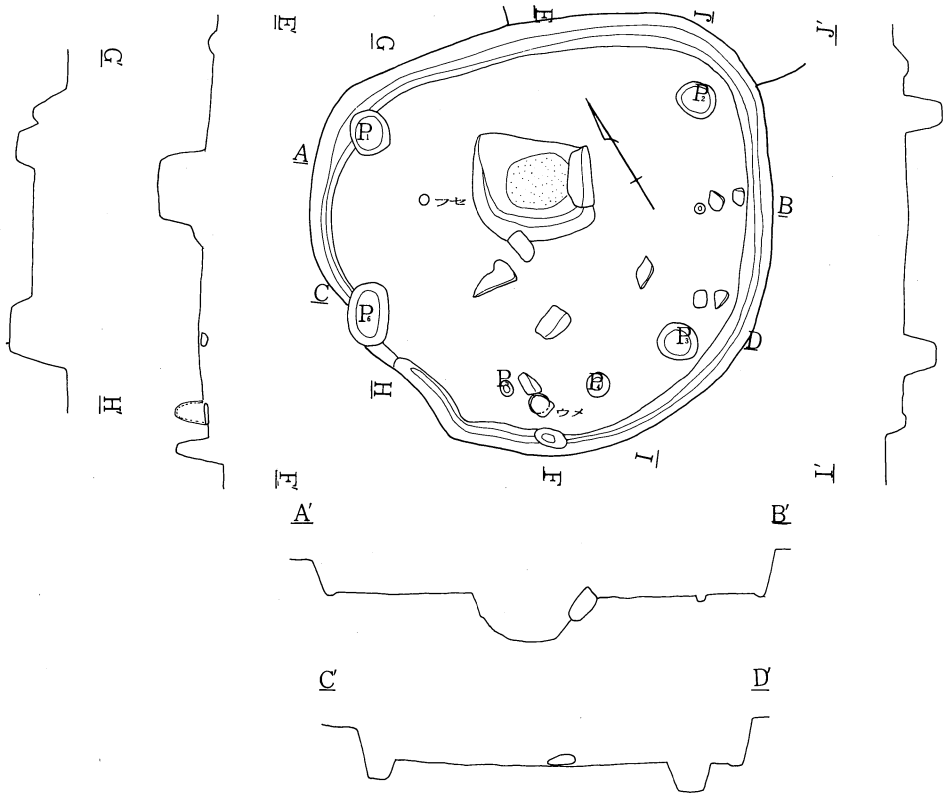
遺物　土器は少なく後期Ⅰ期の小破片が出土している。石器は床面より9点出土している。



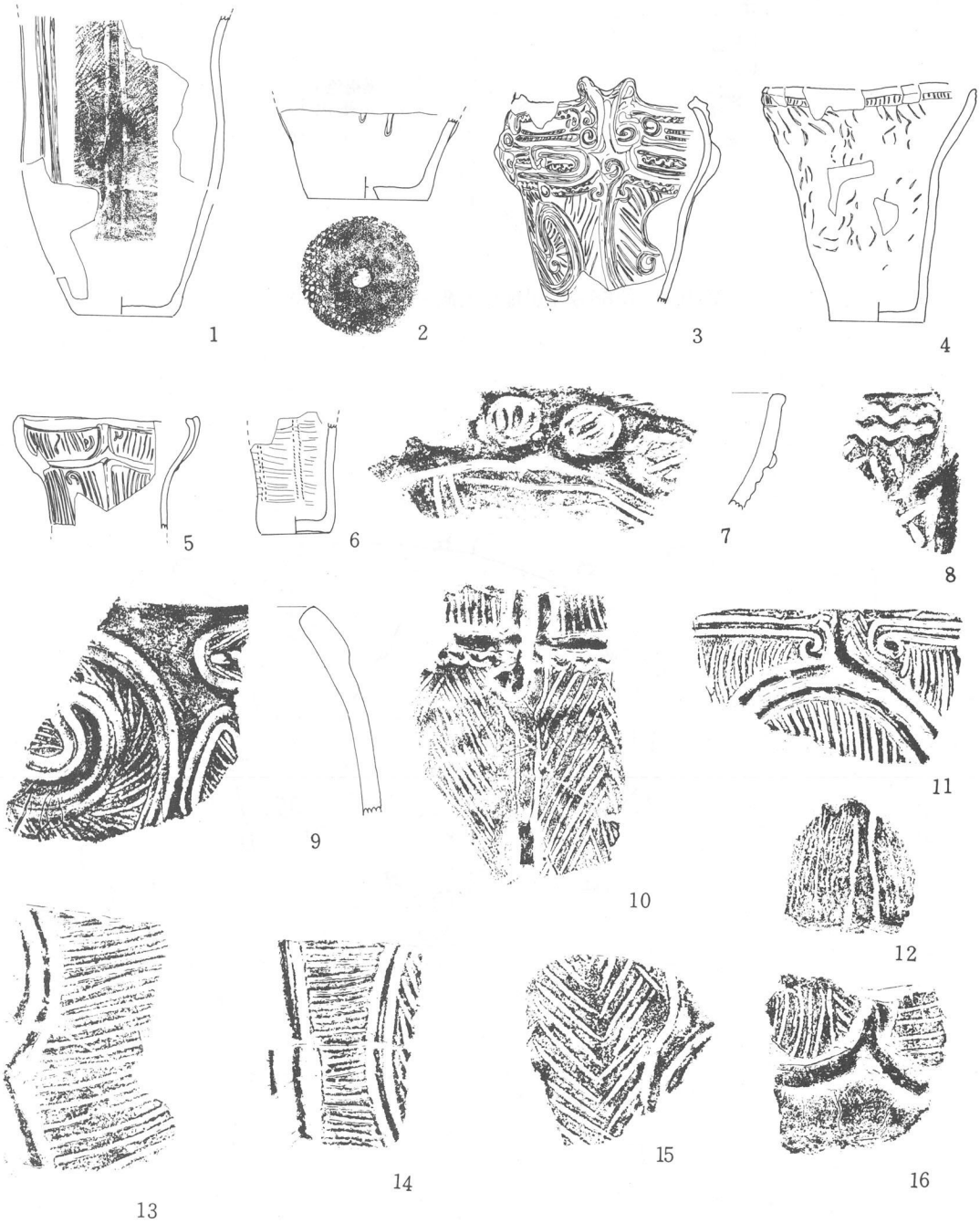
第88図　第66号住居址実測図（S＝1/80）



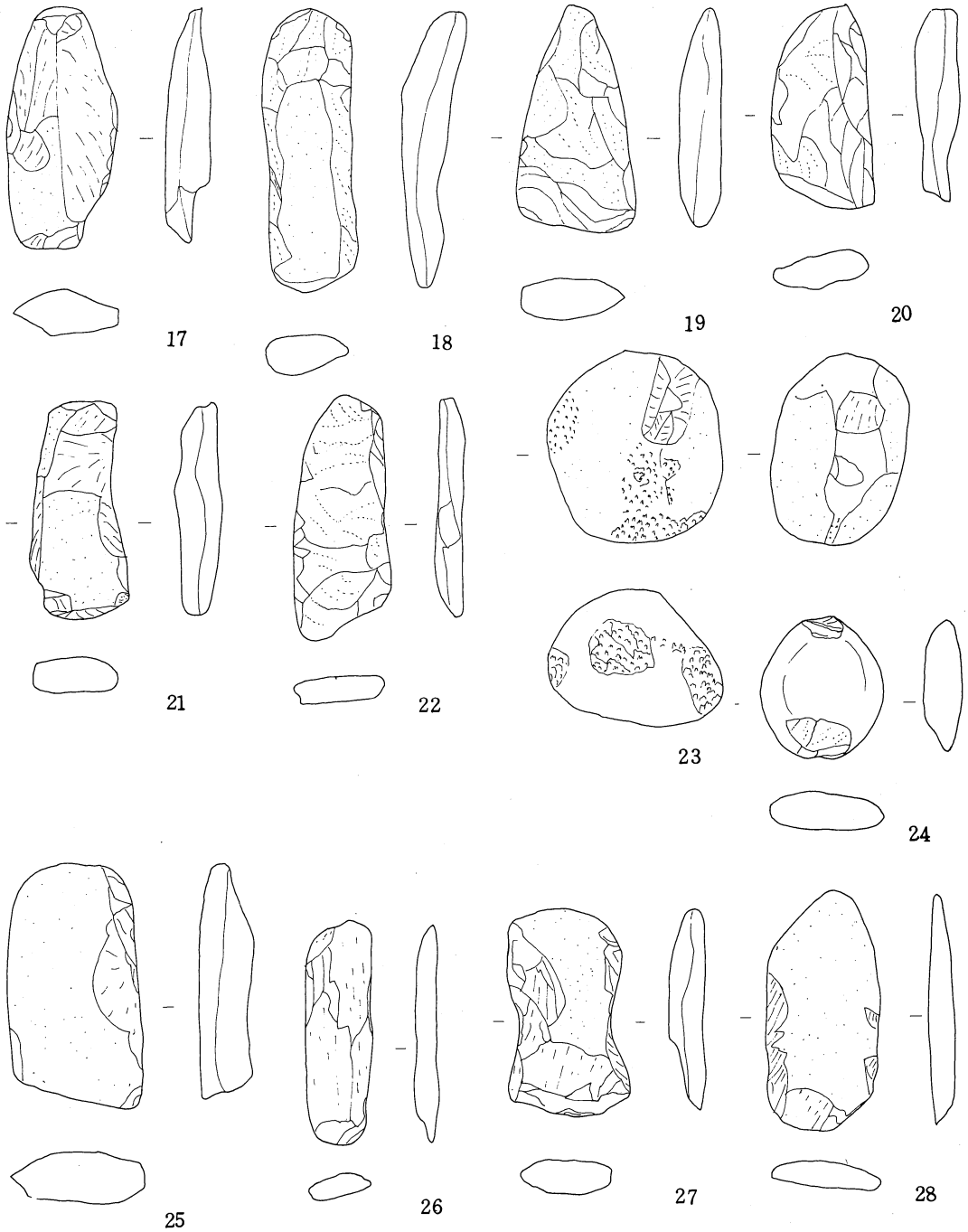
第89図　第66号住居址炉実測図（S＝1/40）



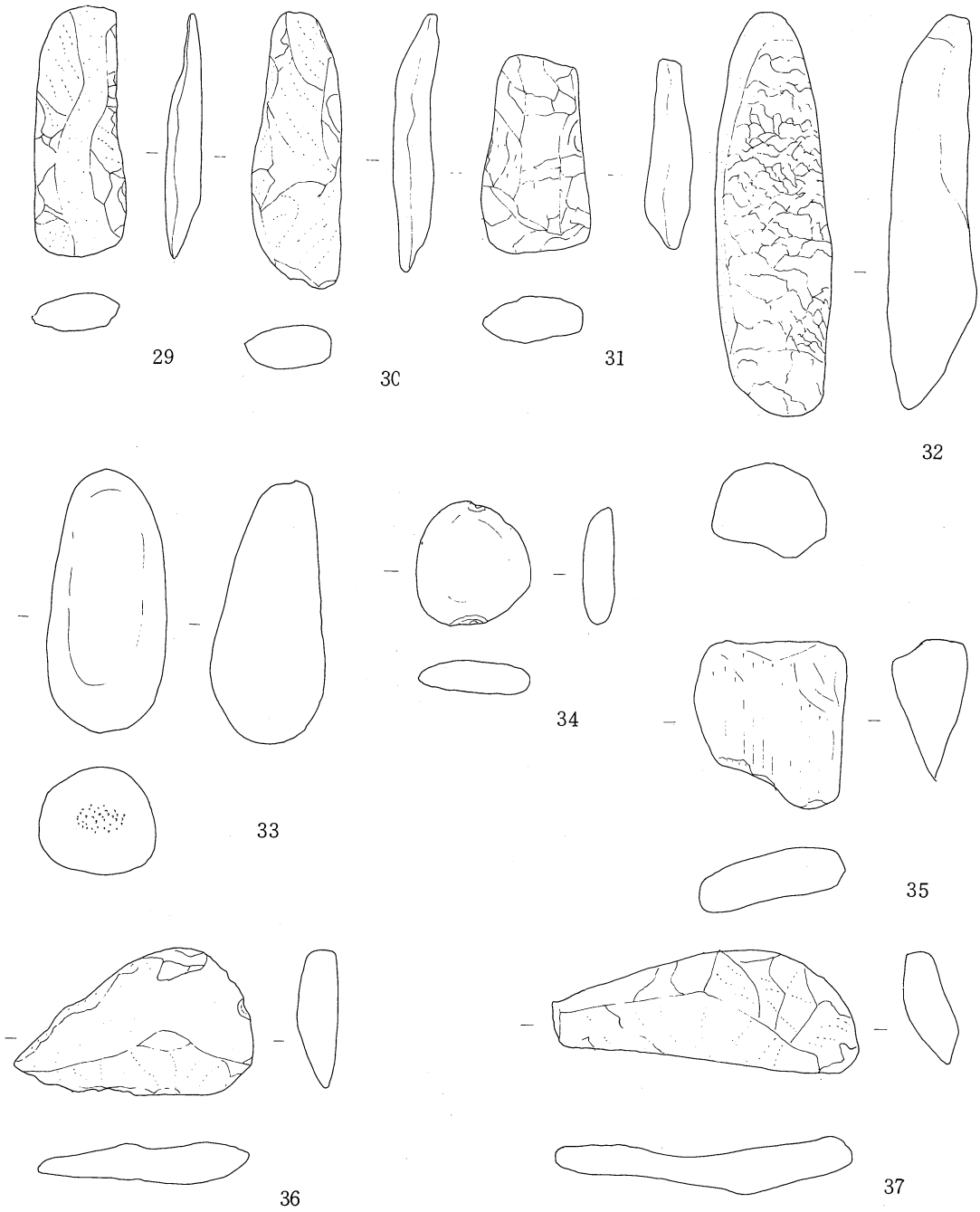
第90図　第68号住居址実測図（S＝1/80）



第91図　第68号住居址床面出土土器（1は埋甕、1～6は1/6他は1/3）



第92図　第68号住居址出土石器（17～24は覆土・他は床面、１/３）



第93図　第68号住居址床面出土石器（1/3）

㉘　第68号住居址（第90～93図）

遺構　当址は南にて第64号住居址を切り、北東部は第67号住居址が貼床している。また北西部は同レベルにて第74号住居址と重複する。

プランは南西部が内側に入るが、隅丸方形を呈し、4.6×4.8mを測る。主軸方向はN－27°－Eである。壁高は東側で50cm前後である。床面は炉の南側がやや凹み、壁ぎわはやや軟弱である。

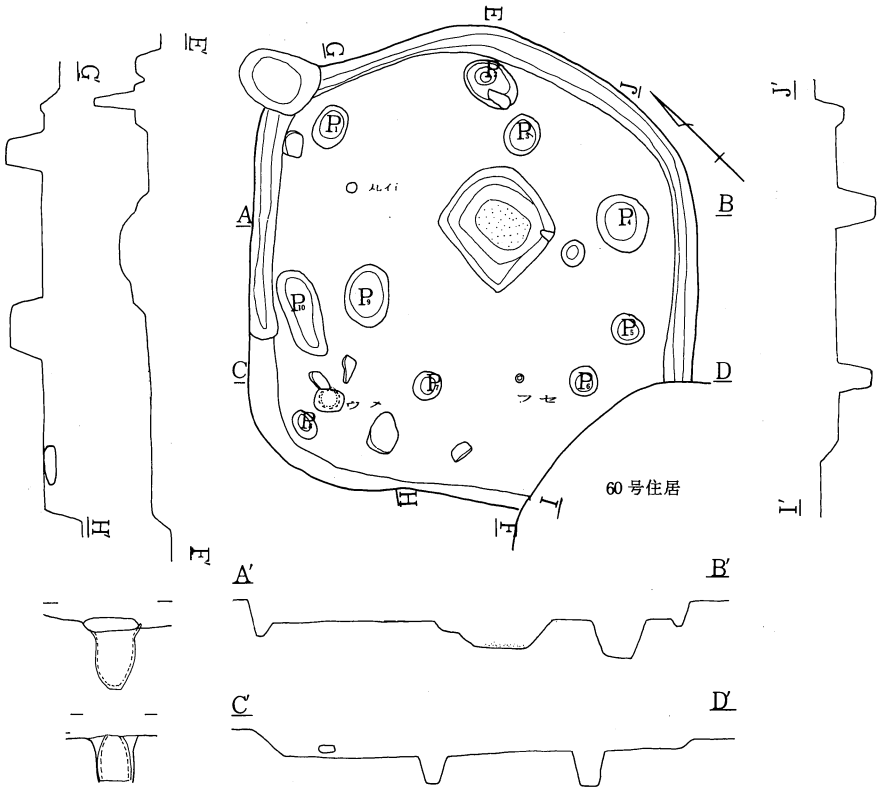
炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で東側を除き炉石は抜かれている。主柱穴は４本でP_4、P_5は入口部施設と考えられややP$_5$寄りに正位の埋甕（第91図－１）が検出されている。平盤な石がのせられている。

さらに炉の西に底部穿孔の逆位の埋甕（第91図－２）がある。周溝は一周している。

遺物　土器・石器とも多い。１は正位の埋甕で口縁部を欠く。２は逆位の埋甕で胴下部のみで径１cmほどに穿孔されている。４は小形の深鉢で口唇下に竹管文を一条横走させ胴部にはラフな爪形状竹管文がみられる。

石器は床面より21点、覆土中より11点の計32点が出土している。打製石斧19点、敲打器７点と卓越し、他の住居址と同様な傾向をみせている。

時期は中期後葉Ⅱ期に属する。



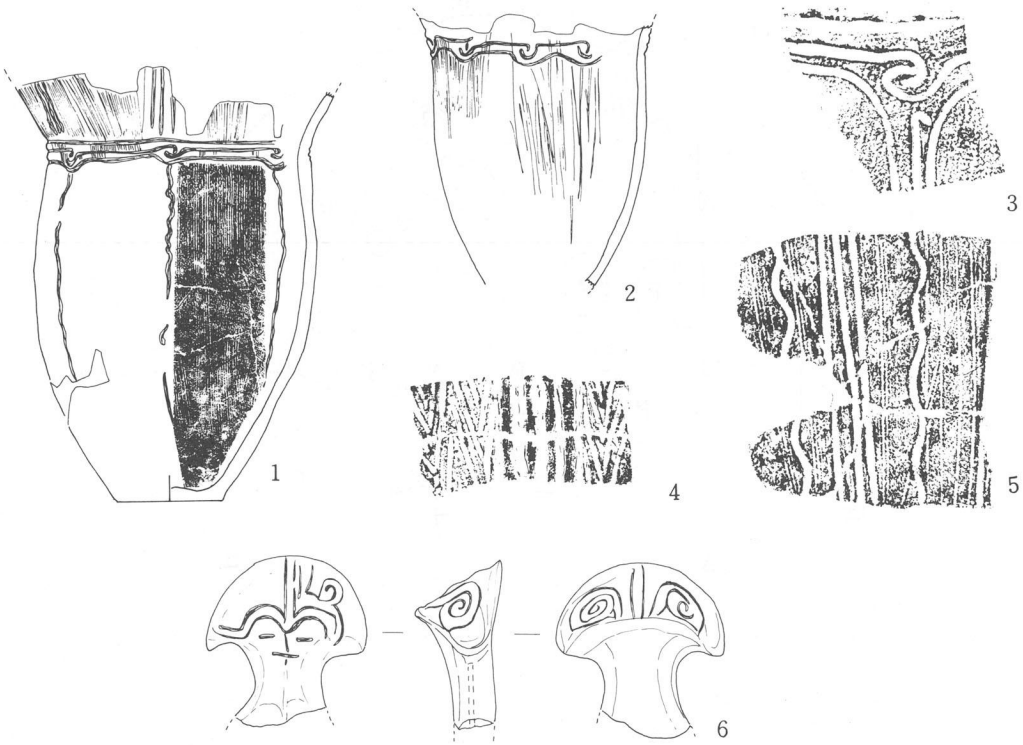
第94図　第69号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）

㉙　第69号住居址（第94・95図）

遺構　当住居址は南側を第60号住居址に切られ、北には第70号住居址があり、北側は第62号住居址とわずか重複している。

プランはベース板状の五角形を呈している。炉の向きが45°ずれた感じを受けるが、正位の埋甕の方向と一致している。珍しい例である。規模は5.3×5.6mを測るであろう。壁高は北側で30cm前後、南側はやや低くなり20cm前後である。周溝は西側にはみられない。主軸方向はN－90°－Eである。

床面は固く堅緻である。炉は掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主柱穴は１・２・４・６・７・９の６本である。南西コーナーP_8の内側に正位の埋甕（第95図－１）が上部に石をのせた状態で検出された。またP_6・P_7の線上ややP_6寄りに逆位の埋甕（第95図－２）がある。



第95図　第69号住居址床面出土土器（１は埋甕・２は伏甕、１・２は1/6、他は1/3）

遺物　土器は少なく１・２の埋甕を除けば器形を知り得るものはない。１は正位、２は逆位の埋甕であるが文様構成は同一である。ともに口縁を欠き２は胴下部を欠いている。

土偶（６）が１点出土している。胴部を欠いている。顔面は半円状を呈し、髪を後にたばねた感じである。表情は柔和である。

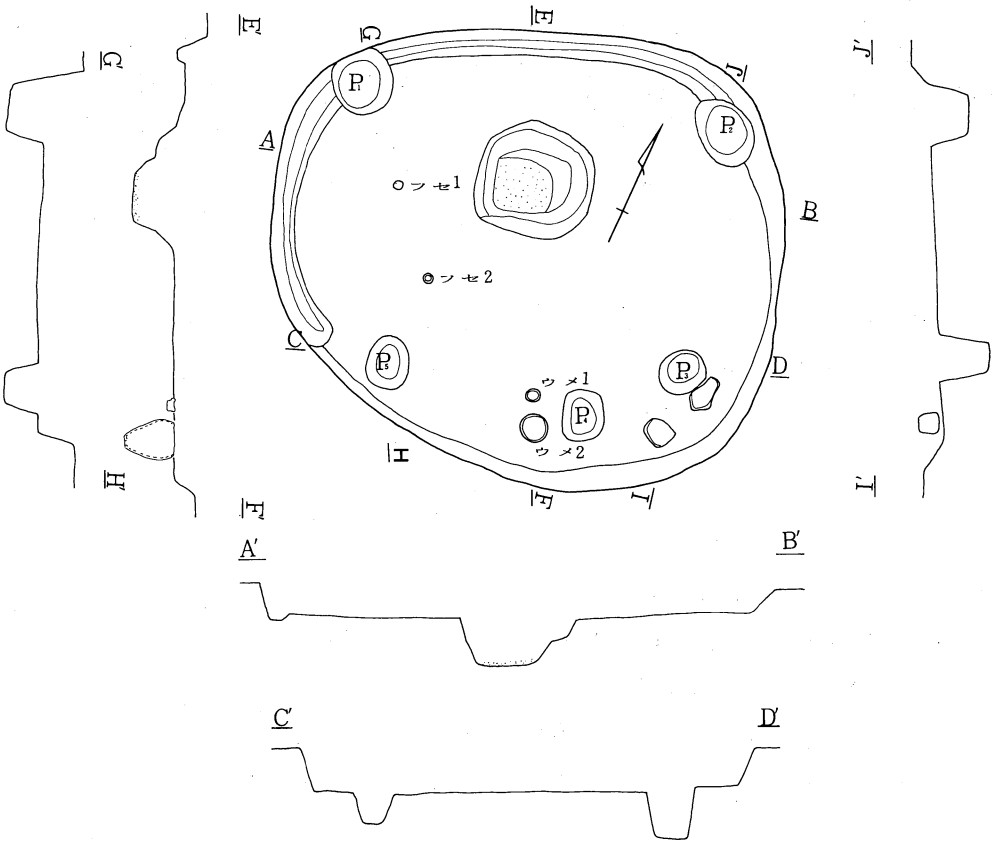
石器は床面より22点出土している。打製石斧12点、敲打器４、横刃形石器３、磨製の乳棒状石斧２、定角石斧１点である。

時期は中期後葉Ⅱ期に属する。

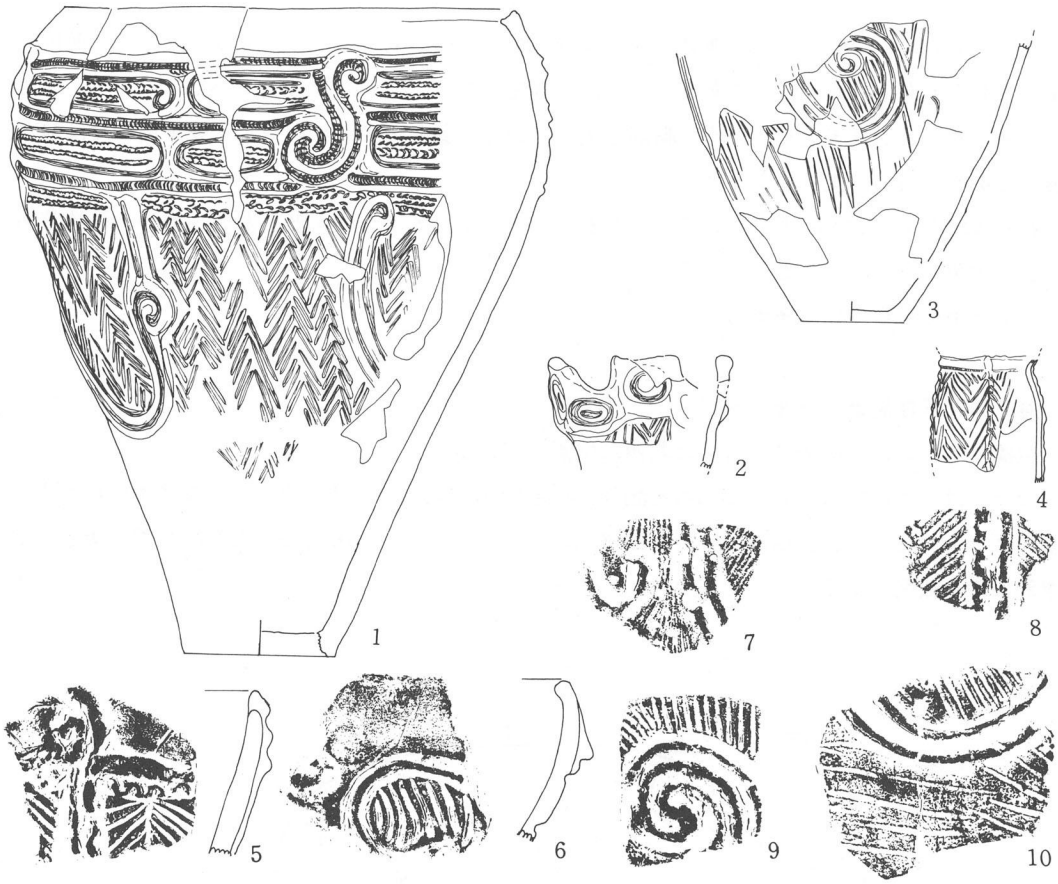
㉚　第70号住居址（第96・97図）

遺構　本住居址は第69号住居址の北西に位置している。

プランは不整楕円形で4.2×5.5mを測り、主軸方向はN－16°－Wである。周溝は北から西側の半分にみられる。付近が畑の撹乱のため壁高は一定していない。床面は南東部にわずか傾き、壁ぎわはやや軟弱である。



第96図　第70号住居址実測図（S＝1/80）



第97図　第70号住居址床面出土土器

（1は埋甕2・2は埋甕1・3は伏甕1・4は伏甕2、1～4は1/6他は1/3）

炉は中央北寄りにあり、掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主柱穴は4本である。

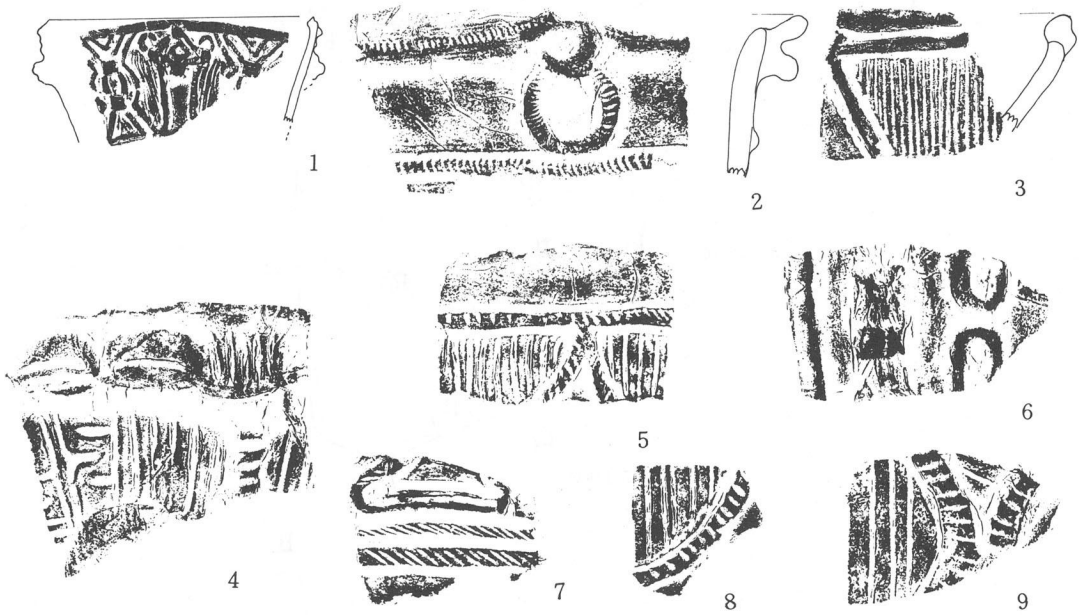
P_3とP_5の中間壁ぎわに縦に並んで正位の埋甕1（第97図－2）、2（1）が検出されている。上部に石はない。さらに炉の西1mの所に逆位の埋甕1（3）、その南1mに2（4）が確認された。

柱穴等から建替の可能性はないが、2・4は1・3よりやや時期的に古くなると思われ再利用の可能性もある。

遺物　埋設土器以外には器形を知り得るものはない。1は底部全体を打ち欠かれ、2は口頸部のみである。3は胴下半部で胴部は半分ほどである。4は胴上部のみである。2・4とも埋設土器としては利用された例としては珍しい。

石器は床面から9点、覆土中より1点の10点が出土しており、打製石斧が半分の5点である。

時期は中期後期のⅢ期と考えられるが、2・4はⅡ期と思われ、今後検討したい。



第98図　第71号住居址床面出土土器（1は1/6、他は1/3）

㉛　第71号住居址（第98図）

遺構　第69号・70号・72号住居址の間にタタキが所々にみられ遺物が集中する箇所があった。西側からは縄文土器が東側からは刃子と若干の土師器が出土している。西側を第71号住居址、東側を一応第73号住居址としたものである。本址南西部は第72号住居址が切っている。

プラン・規模は不明で浅いピットがみられた外は柱穴・炉址も確認されていない。

遺物　土器は床面上にまとまって出土している。1は小形の深鉢で胎土は良く精練され薄手で堅緻に焼かれている。偏平な粘土紐を用いて人体文などが表出されている。

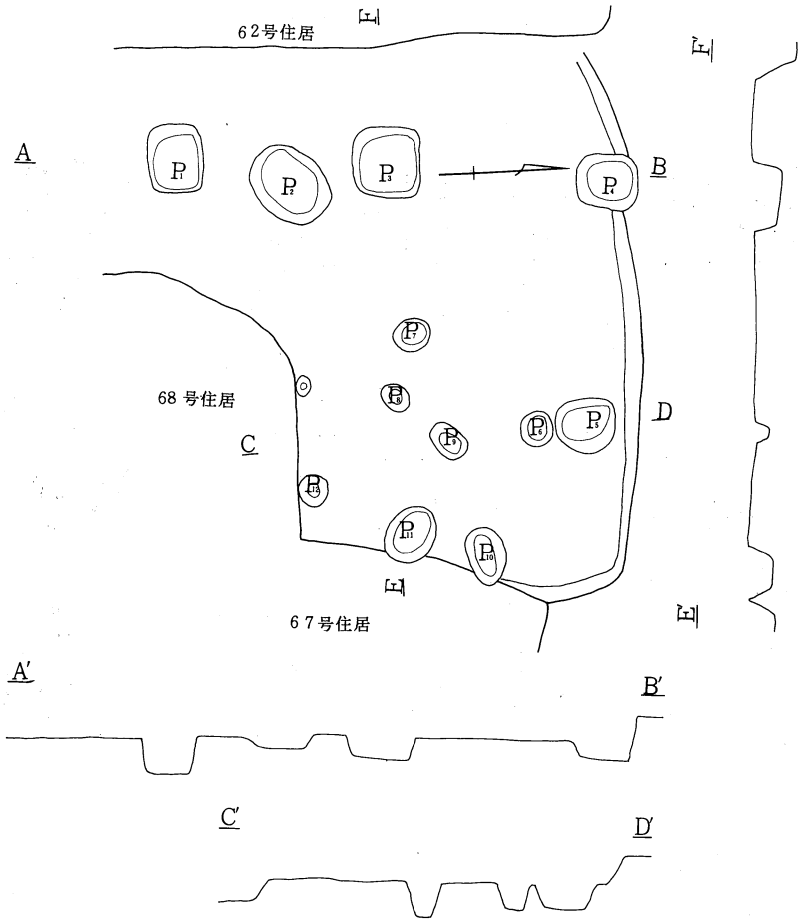
石器は5点出土している。覆土中より3点、床面より2点である。

時期は中期中葉井戸尻Ⅰ～Ⅱ期に属するであろう。

㉜　第74号住居址（第99・100図）

遺構　本址は第68号住居址に南東部を東側は第67号住居址に切られ、さらに西側も第62号住居址に切られている。壁は北側のみで検出され30cm前後を測る。床面はタタキが部分的にみられる位で全体的に軟弱である。

プラン・規模は不明である。炉も残っていない。柱穴はP_1，P_9などが考えられる。周溝はみられない。

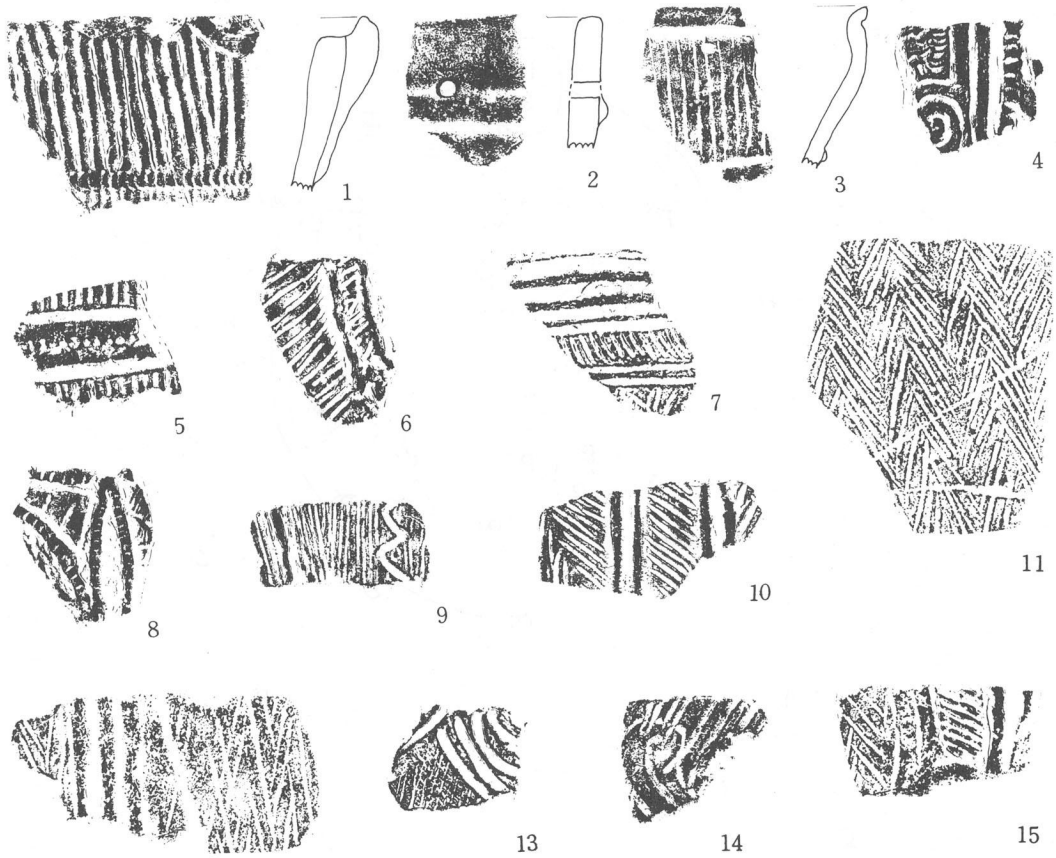


第99図　第74号住居址実測図（S＝1/80）

遺物　器形を知り得るものはない。2は有孔つば付土器である。

石器は9点出土しており、床面から4点、覆土中より5点である。打製石斧が6点と多い。

時期は1～4・8は中期中葉、5～7・9～15は中期後葉のもので両者が混在しており、量的にもあまり変わりない。本址を切っている第68号住居址が後葉Ⅱ期に属することからすれば、中期中葉の可能性が強い。



第100図　第74号住居址床面出土土器（1/3）

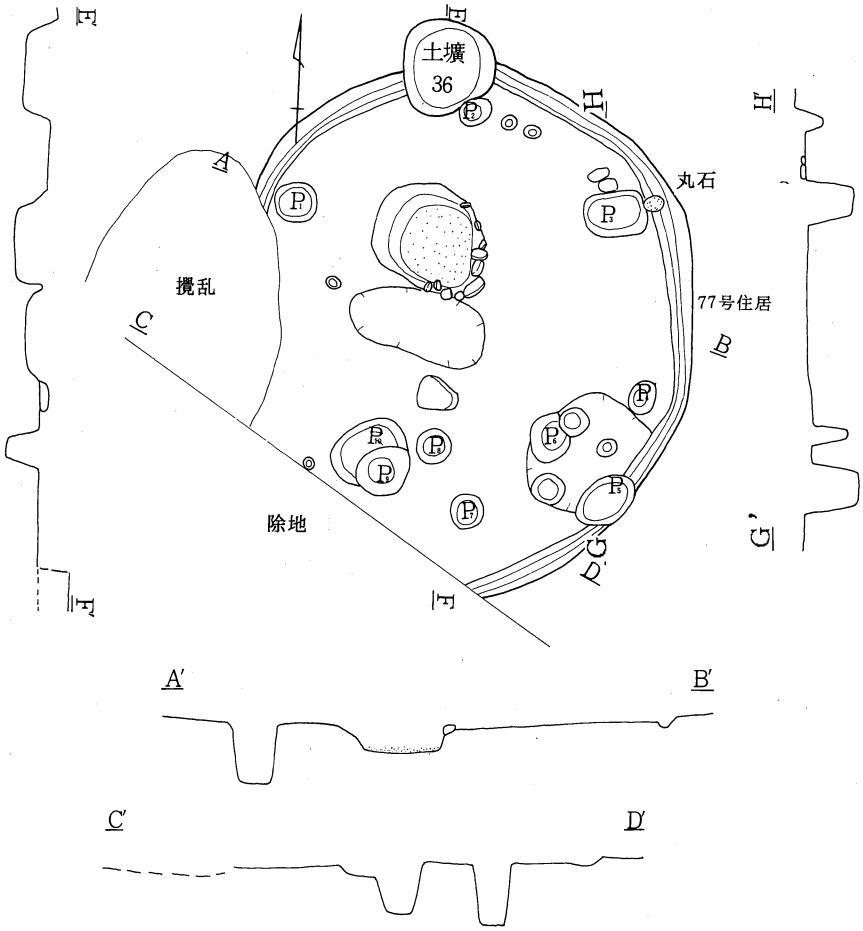
㉝　第78号住居址（第101・102図）

遺構　本住居址は段丘縁辺部に位置し、西に第79号、北に第83号住居址があり、東側は第77号住居址が貼床しカマドを造っている。南側は除外地であり、開田時に壊されたものと考えられる。南西部は撹乱により壁がない。

プランは北壁から東壁には明瞭な稜がみられる処から六角形を呈すであろう。規模は推定5.8×4.7mである。主軸方向はN－2°－Eと南北線上である。壁は浅く開田時にかなり削られたと思われる。

床面は凹凸がみられ、壁ぎわはやや軟弱である。炉は中央北寄りにあり東側を除き炉石は残っていない。掘形からして楕円形の石組炉であろう。埋甕は不明である。

主柱穴は1・3・6が考えられ南西部の一本を加え4本と考えたい。

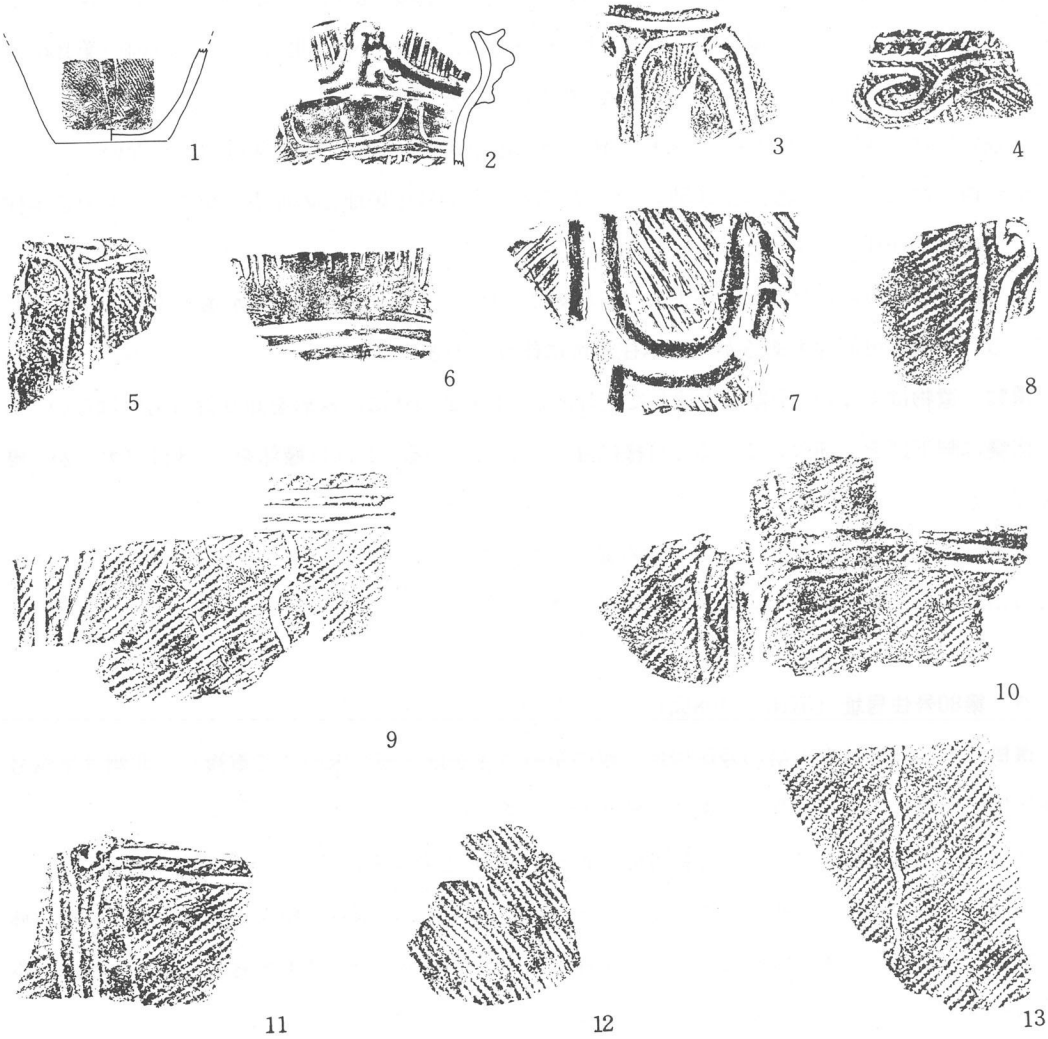


第101図　第78号住居址実測図（S＝1/80）

遺物　土器は少ない。全体に地文に縄文を持ち、入組文が施されるものである。

石器は床面から打製石斧６、磨石３、横刃形石器２、特殊磨石、削器各１の計13点が出土している。

時期は中期後葉Ⅱ期に属する。



第102図　第78号住居址床面出土土器（1・2は1/6他は1/3）

㉞ 第79号住居址（第103～106図）

遺構　当住居址は第78号住居址の西に位置し、西にて第80号住居址と同一床面にて重複し、さらに西及び北には第81号・84号住居が連続している。

プランは西側が不明のため定かでないが楕円形を呈すものと思われ、規模は5.4×4.2mを測るであろう。主軸方向はN－30°－Eと考えられる。

壁高は近接する住居址同様浅い。床面ほぼ平坦で固く堅緻である。炉は楕円形の石組炉で北寄りに位置している。全体に偏平な河原石を用いて横長にすえている。北東の炉石は石皿（第106図）で伏った状態で出土している。転用なのか共用かは不明である。

主柱穴ははっきりしないが、５・６、９、15・16の３本があり、南東部は明確でない。

炉の西１mに逆位の埋甕（第105図－１）がある。第80号住居址との接点に位置しており、本住居址に確実に帰属するものかはいえない。

さらに炉の北東には袋状ピットP_7，P_8があり、P_8よりは小形壷形土器が覆土上部より出土している。土壙の可能性もあるが一応本住居址に伴うものとする。

遺物　遺物は少ない。土器は先述した第105図－１・２の外には器形を知り得るものはない。１の伏甕は胴下部を一部欠いている。口縁は強く内屈している。２は口縁部を１/３ほど欠くが、優品である。

石器は床面より打製石斧２、炉石の石皿と削器１の４点のみである。

時期は中期後葉Ⅰ期からⅡ期への過渡期と考えたい。

㉟ 第80号住居址（第107・108図）

遺構　本住居址は東の第79号住居址、西の第81号住居址と同一床面にて重複し、北側は第84号住居址に切られている。壁は北東に一部残るだけである。

プラン・規模は定かでない。主軸方向はN－54°－Eと考えられる。床面は平坦で堅緻である。

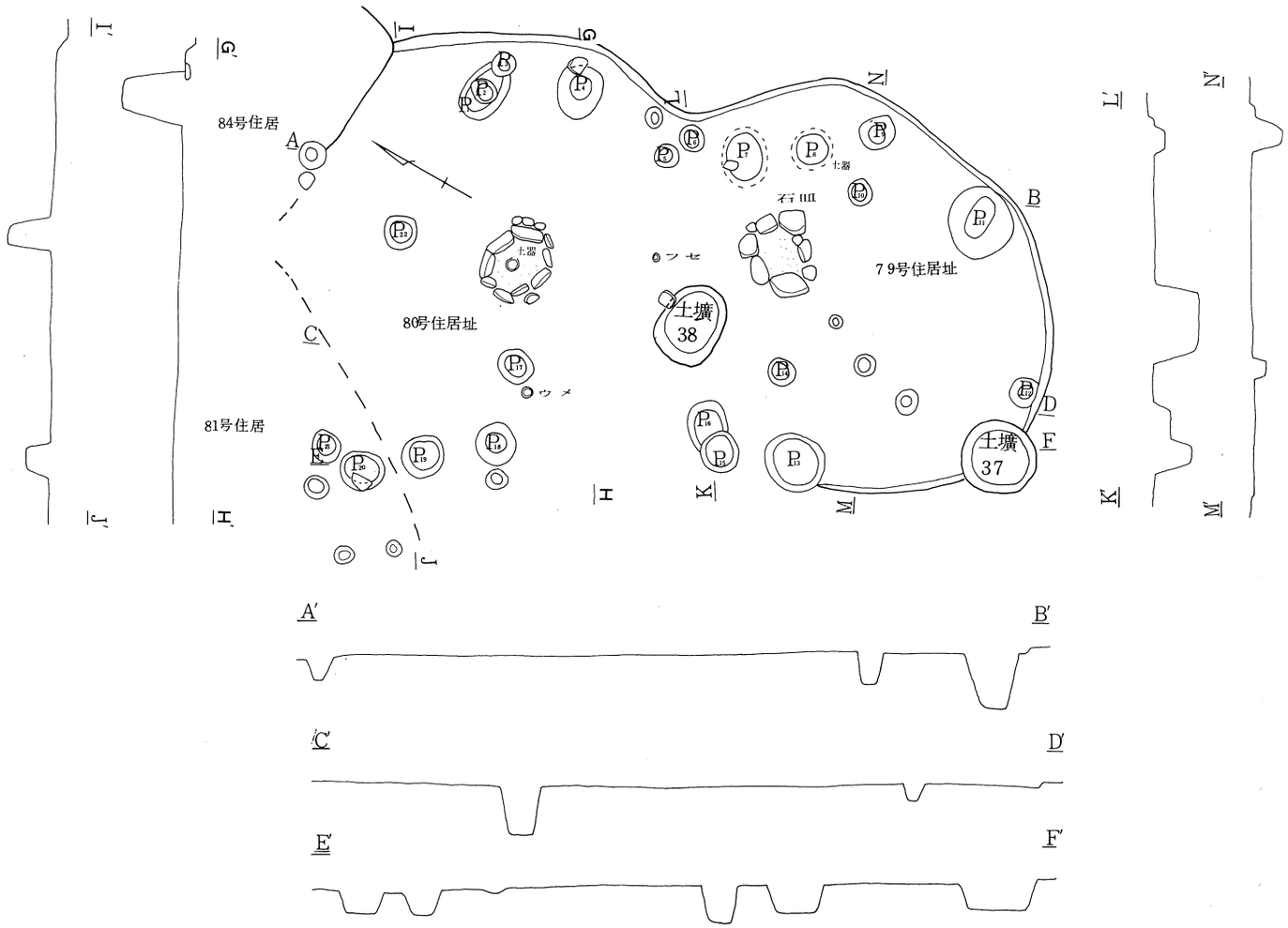
炉は六角形の石組炉である。小ぶりな石を用いている。底は南西に傾き口縁部を欠く小形深鉢が埋設されていた。床面は堅緻である。主柱穴は４、15・16、19の３本が考えられ、もとは４本であろう。

P_{18}の西に正位の埋甕（第108図－１）が検出されている。深鉢の口縁から胴上部約半分ほどが埋設されたものである。

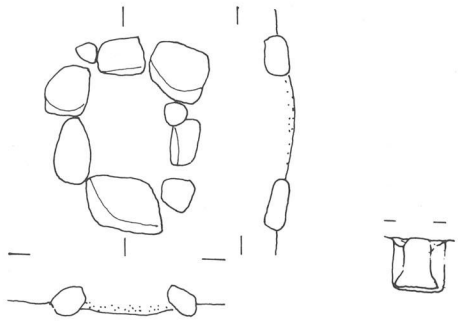
遺物　土器は器形を知り得るものは少ない。１は埋甕２は炉内埋設土器である。

全体に縄文を地文としたもので、入組文や蛇行文が盛行する。11・12のように古手のものも混在している。

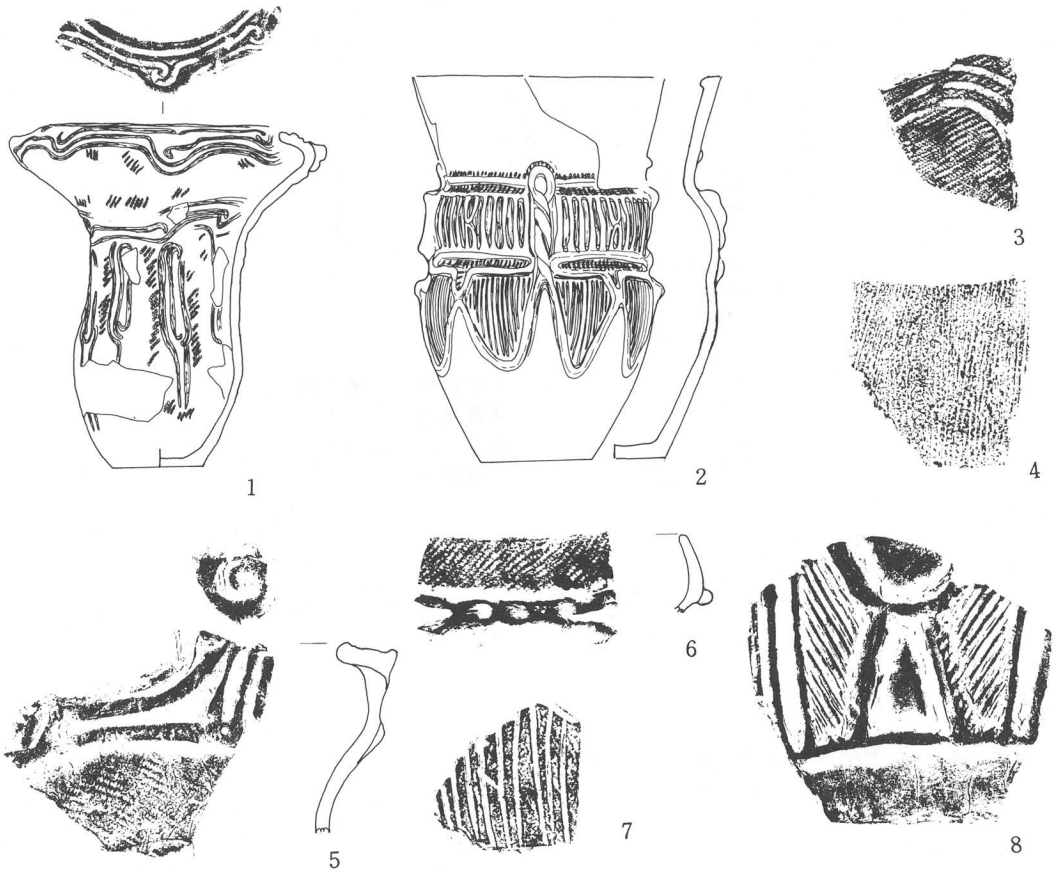
石器は床面より打製石斧２、磨製の蛤刃石斧・特殊磨石各１、覆土中より横刃形石器１の計５



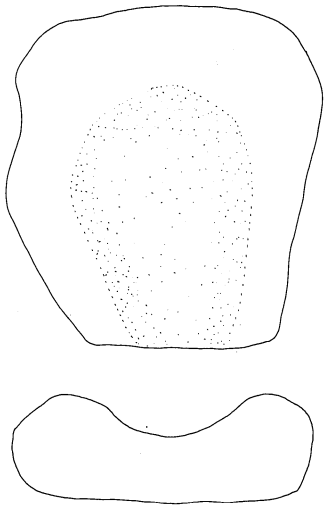
第103図　第79号・80号住居址実測図（S＝1/80）



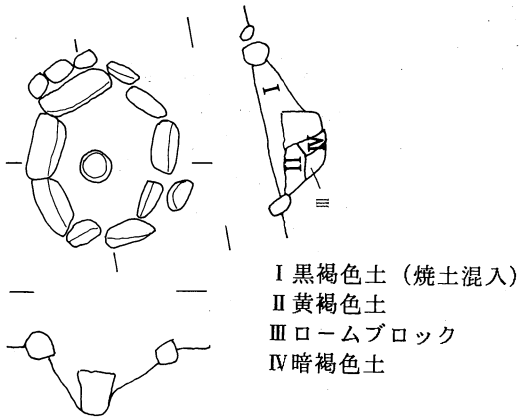
第104図　第79号住居址炉及び埋設土器断面図（S＝1/40）



第105図　第79号住居址床面出土土器（1は伏甕・2はP_8、1・2は1/6他は1/3）



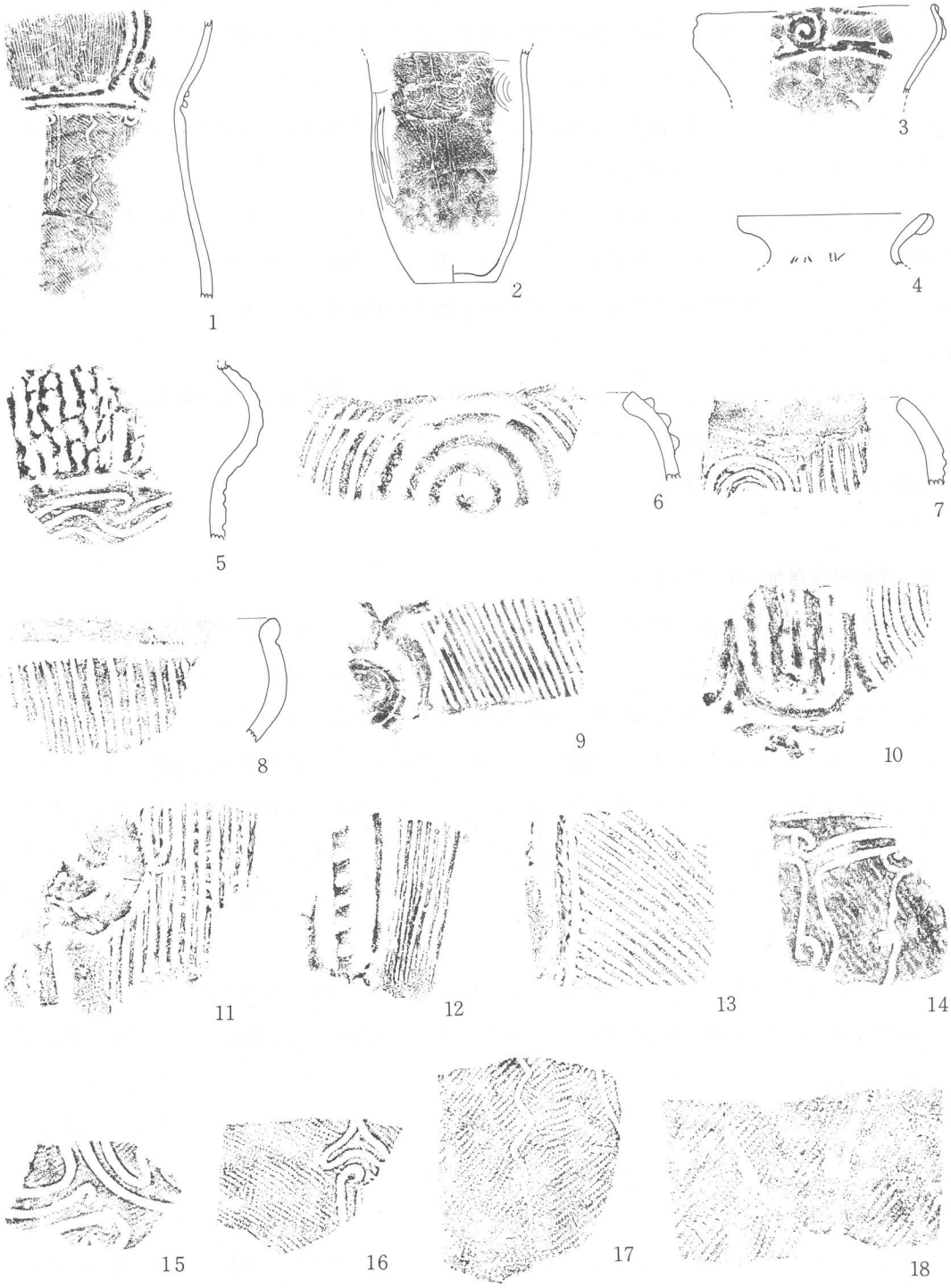
第106図　第79号住居址出土石皿（1/6）



第107図　第80号住居址炉実測図（S＝1/40）

点が出土したのみである。

時期は総じて中期後葉Ⅱ期に属するであろう。



第108図　第80号住居址床面出土土器（１は埋甕・２は炉内、１～４は１/６他は１/３）

㊱　第81号住居址（第109～113図）

遺構　当住居址は第80号住居址の西にあり同一床面にて重複している。また北側の第84号住居址を切った状態で検出されたが明らかに時期からする貼床されていたものと考えられる。

壁は浅く西で10cmほどで第84号住居址との床面差もほぼ同様である。プランは隅丸形を呈すと思われるが定かでない。規模もはっきりしない。床面は炉の周囲は堅緻であるが西側はやや軟弱である。主軸方向はN－55°－Wである。

炉は皿状の地床炉で内部より深鉢（第110図－１）が出土している。主柱穴は４本と考えられる。

遺物　１は炉内出土の土器で胴下部はない。粘土紐により抽象文を配し竹管による刻みを施すものである。２は隆帯を懸垂させ波状文や円弧文を施す平出ⅢＡ系の土器である。

他は同時期の破片である。

石器は多く31点出土している。内訳は打製石斧10、敲打器・磨石各７、大形粗製石匙３、横刃形石器２、磨製の定角・蛤刃石斧各１点である。

時期は中期中葉狢沢期である。

㊲　第83号住居址（第114～116図）

遺構　本住居址は第78号、79号住居址の北に位置し、北西には第93号住居址がある。周溝が南から東にみられ、北では壁より１ｍほど内側にみられる。北東部周溝には貼床がみられなかった点からすると拡張というより重複住居の可能性が強いと思われるが定かでない。

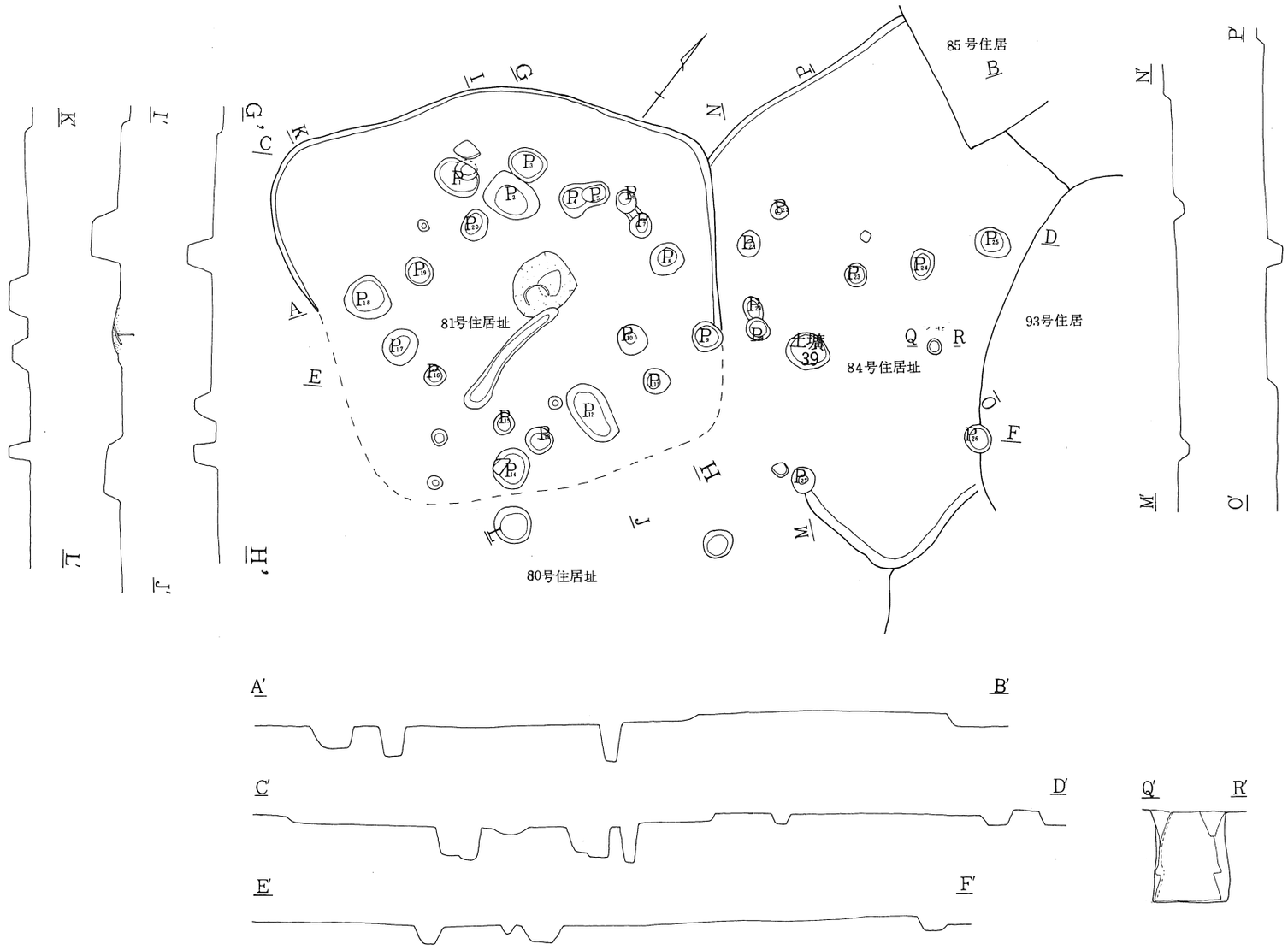
プランは円形を呈し6.2×6.2m、周溝部分で5.7×5.7mを測る。主軸方向はN－48°－Wである。床面は全体に堅緻である。炉は北西寄りにあり、楕円形の石組炉で炉石は南側を残して抜かれている。内部には胴下部を欠く小形の深鉢（第116図－４）が埋設されている。その下部は落ち込みがあり土壙の上に炉が造られた可能性がある。炉の東側にわずか焼土が検出されている。旧住居址に伴うものであろうか。

ピットが数多くあり柱穴は多柱穴であろうか。P_{20}とP_{27}の中間壁ぎわに正位の埋甕（第116図－２）炉の南東に逆位の埋甕（第116図－１）がある。埋甕は胴部のみで、伏甕は完形で底部がきれいに抜かれている。

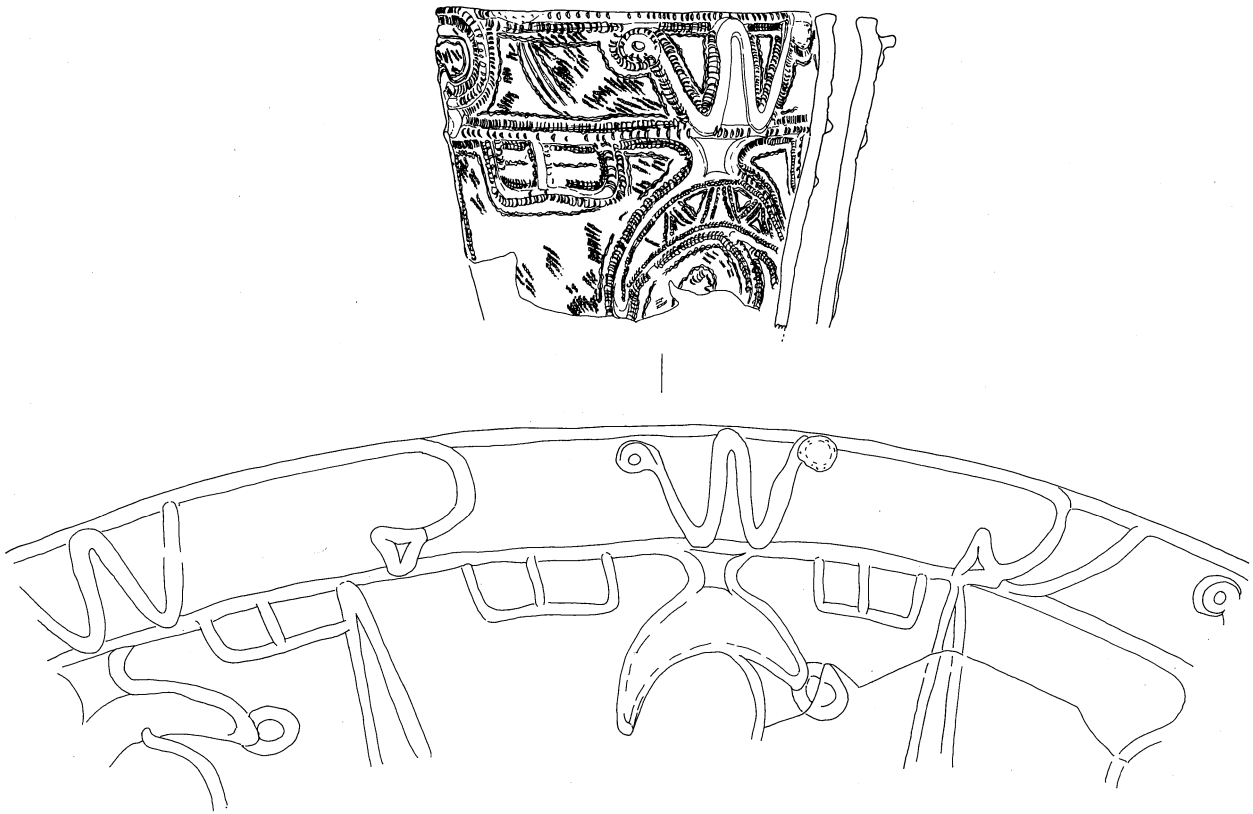
遺物　１は伏甕で大形の深鉢である。口縁は粘土紐による波状区画を作り内部を浅い竹管で施文し、胴部は縄文地に蛇行沈線文が懸垂する。他の土器に比べると前期の色彩を強く残すものである。総じて縄文を地文とするものである。

石器は床面より８点が出土している。内訳は敲打器３、打製石斧２、磨製の定角・蛤刃石斧・磨石各１点である。

時期は中期後葉Ⅱ期に属し、１からするとⅡ期も古い時期である。

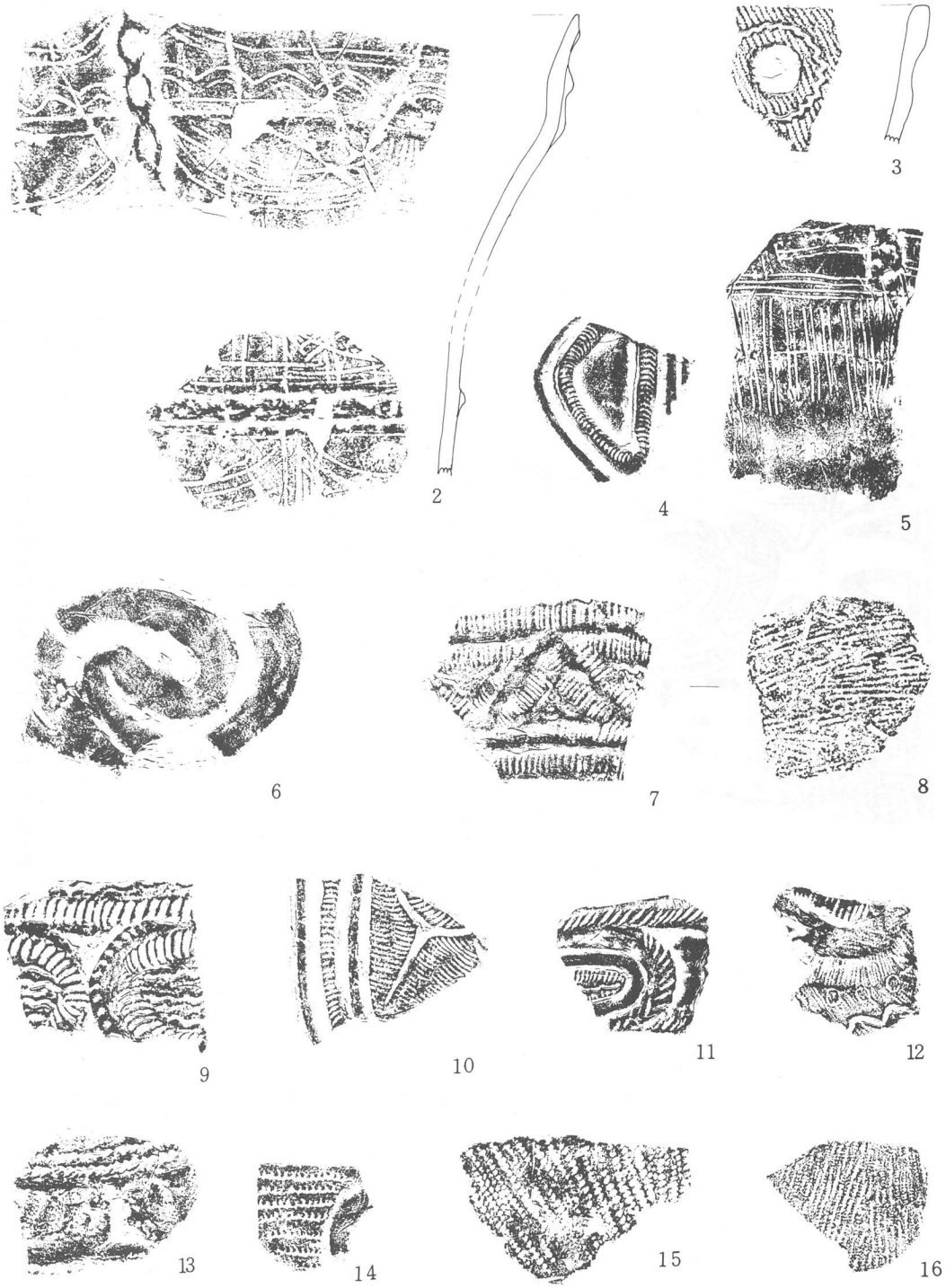


第109図　第81号・84号住居址実測図（S＝1/80、埋設土器断面図は1/40）

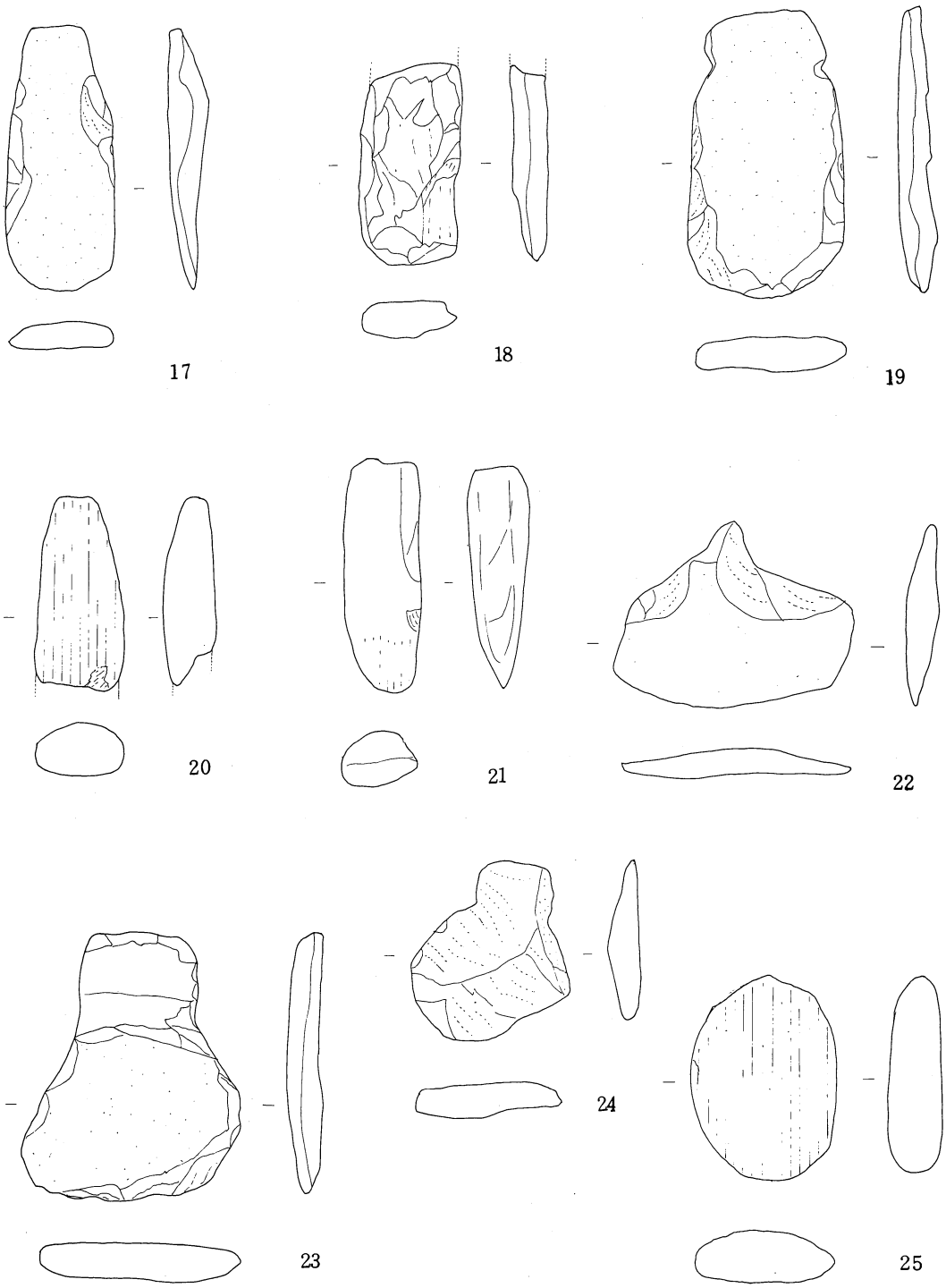


1

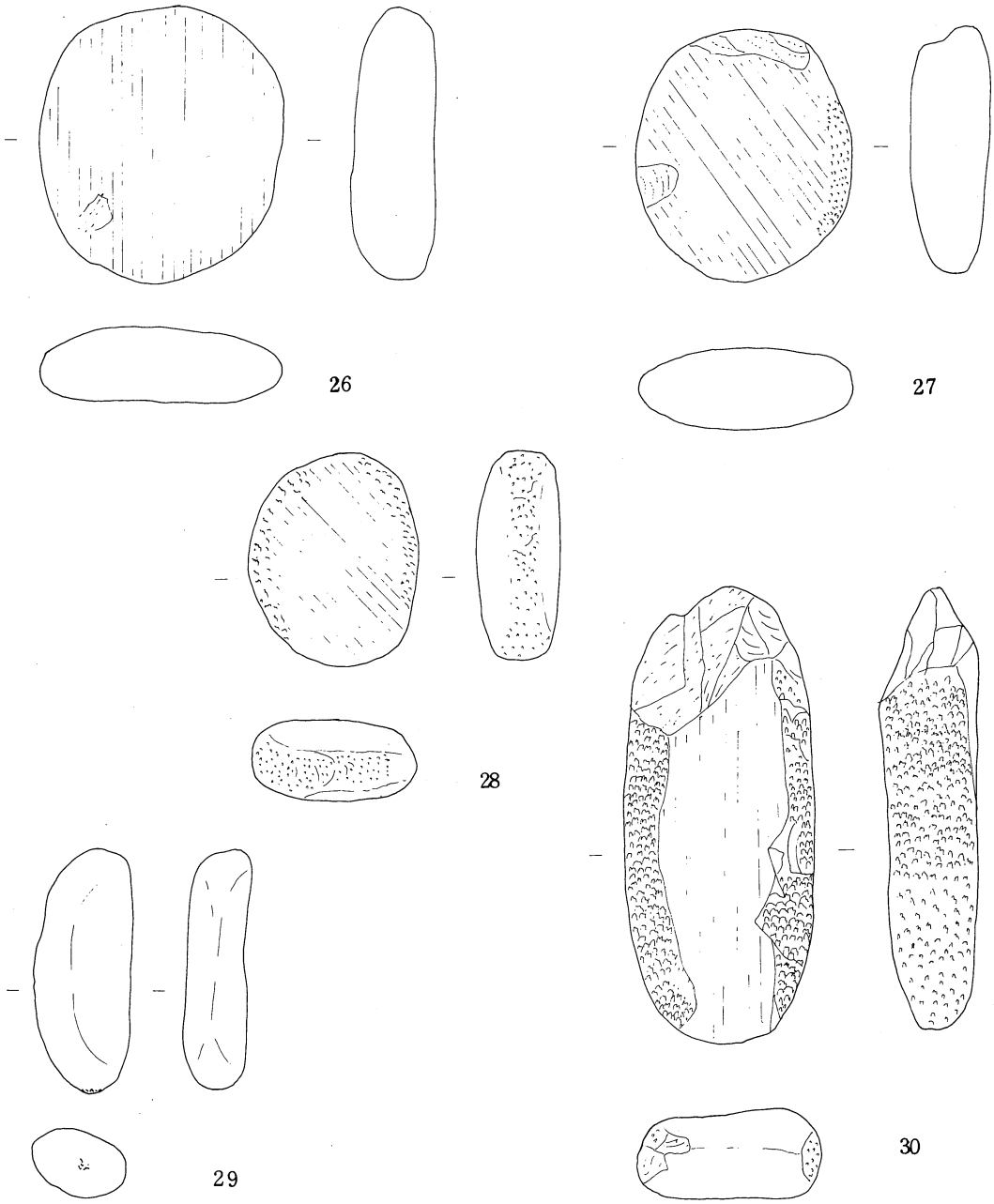
第110図　第81号住居址炉内出土土器（1/6）



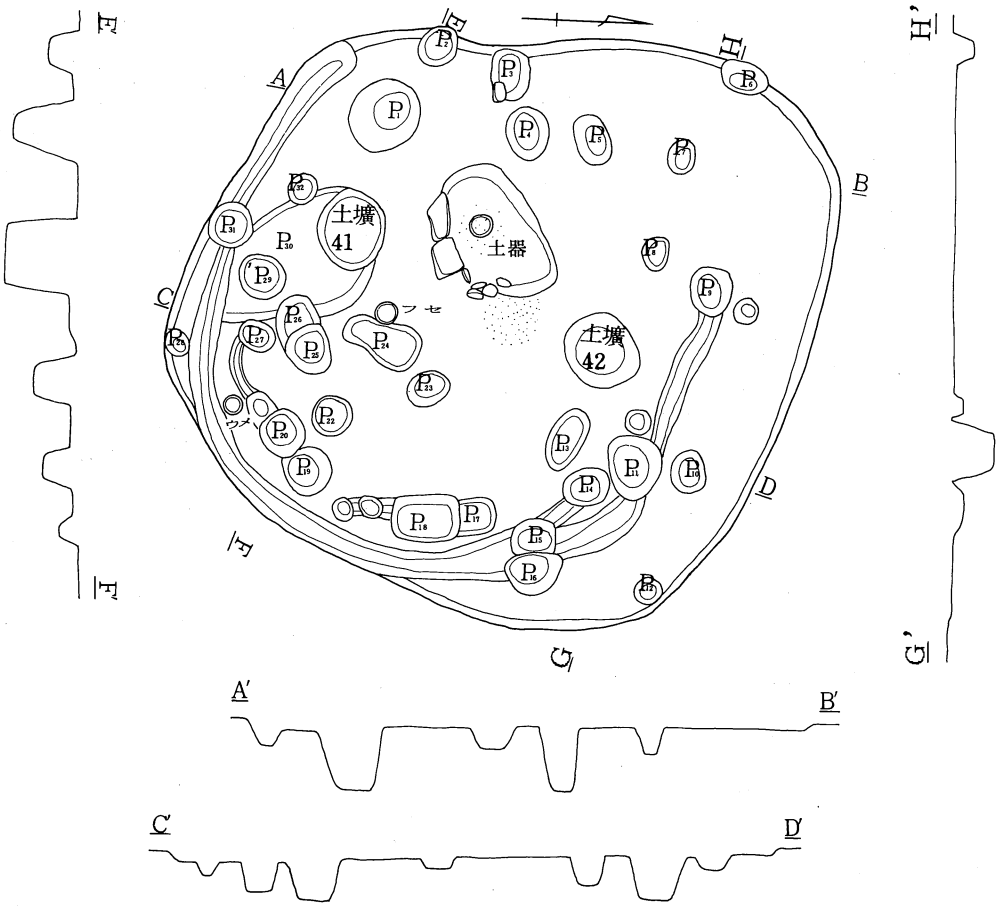
第111図　第81号住居址床面出土土器（1/3）



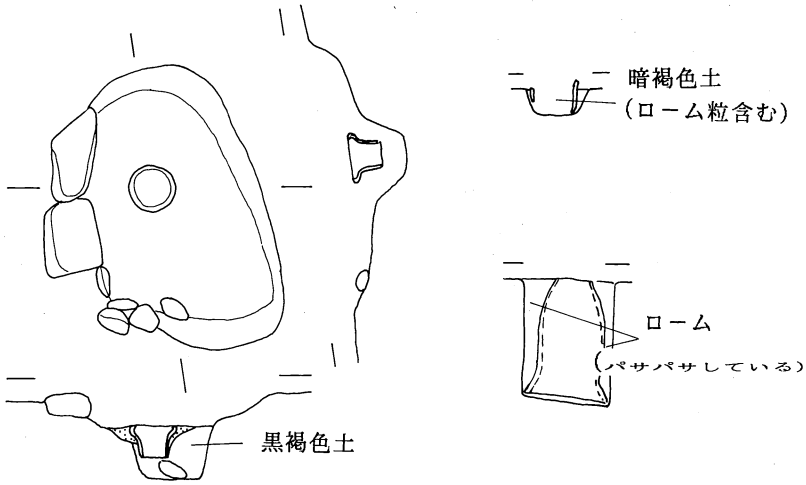
第112図　第81号住居址床面出土石器（1/3）



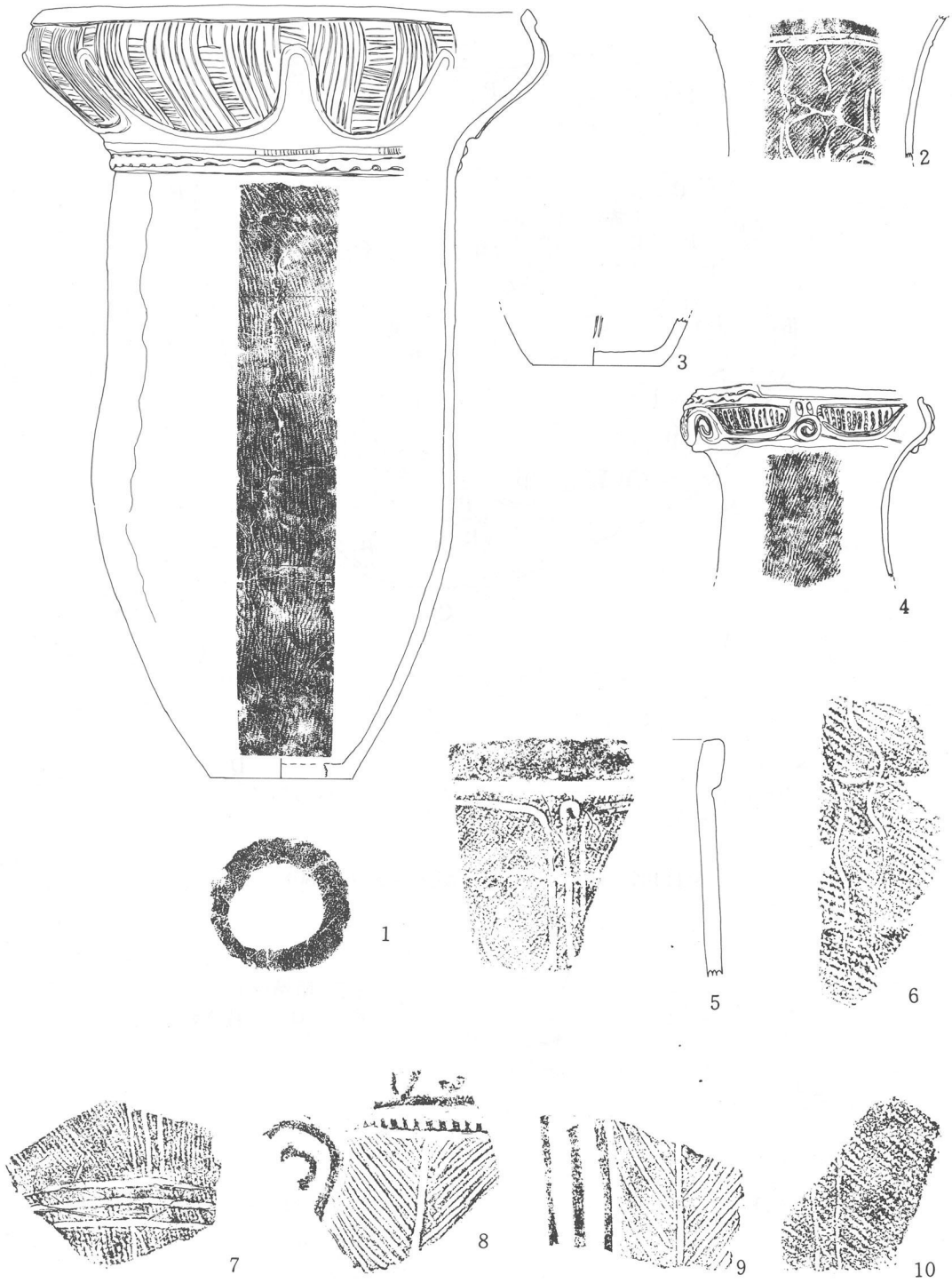
第113図　第81号住居址床面出土石器（1/3）



第114図　第83号住居址実測図（S＝1/80）



第115図　第83号住居址炉及び埋設土器断面図（S＝1/40）



第116図　第83号住居址床面出土土器（１は伏甕・２は埋甕・４は炉内埋設土器、１～４は１/６他は１/３）

第117図　第84号住居址床面出土土器（1は伏甕1/6他は1/3）

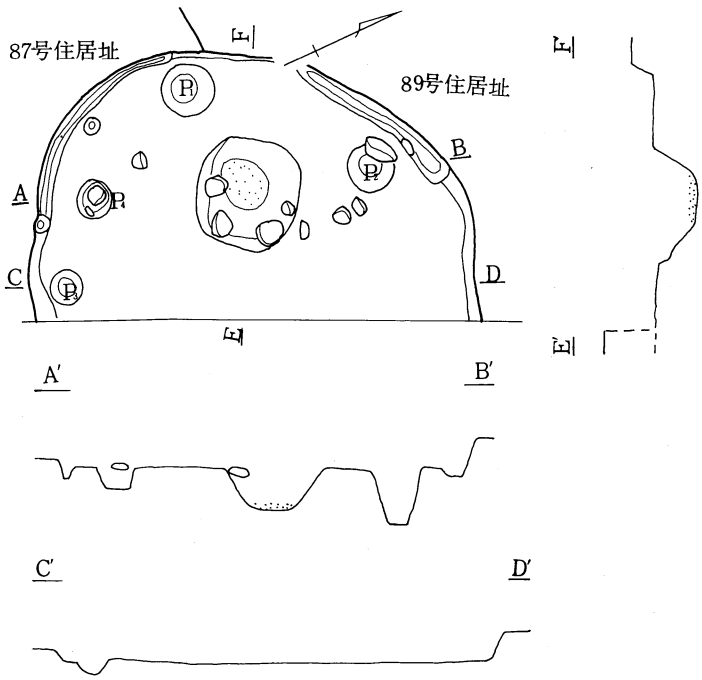
㊳　第84号住居址（第109・117図）

遺構　本住居址は北東部を第85号住居址に切られている。さらに東側は第93号住居址、南西部は第81号住居址によって切られた状態で検出された。ところが、どちらも本址より旧い住居址であり、発掘時においては貼床面の痕跡が認められなかったが、軟弱な貼床の存在でもあったと考えられる。床面の残存状況からすると炉が当然残されていても良いと考えられるが検出されていない点は特殊な施設の可能性もある。

プラン・規模は不明である。壁高は10cm前後と浅い。床面は部分的にタタキが認められる程度である。ピットは幾つかみられるがはっきりしたものは認められなかった。先にもふれたように炉は検出されていない。

第93号住居址よりに逆位の埋甕（第117図－１）が検出された。底部を欠く大形の深鉢で、掘り込みの下部に礫があったため、口縁をそれにあわせて壊して埋設している。

遺物　遺物は少ない。土器は伏甕以外は破片である。１は大形の深鉢で胎土も良く堅緻に焼かれている。ラッパ状に開く口縁は無文で、口唇は肥厚し内傾している。頸部にはみみずく状把手を８個配しその間を隆帯がつないでいる。その下部には隆帯の懸垂文とそれをつなぐ鎖文が施され、雨だれ状の刺突が充填している。伏甕のため底部がないが、この手の土器の中では優品である。

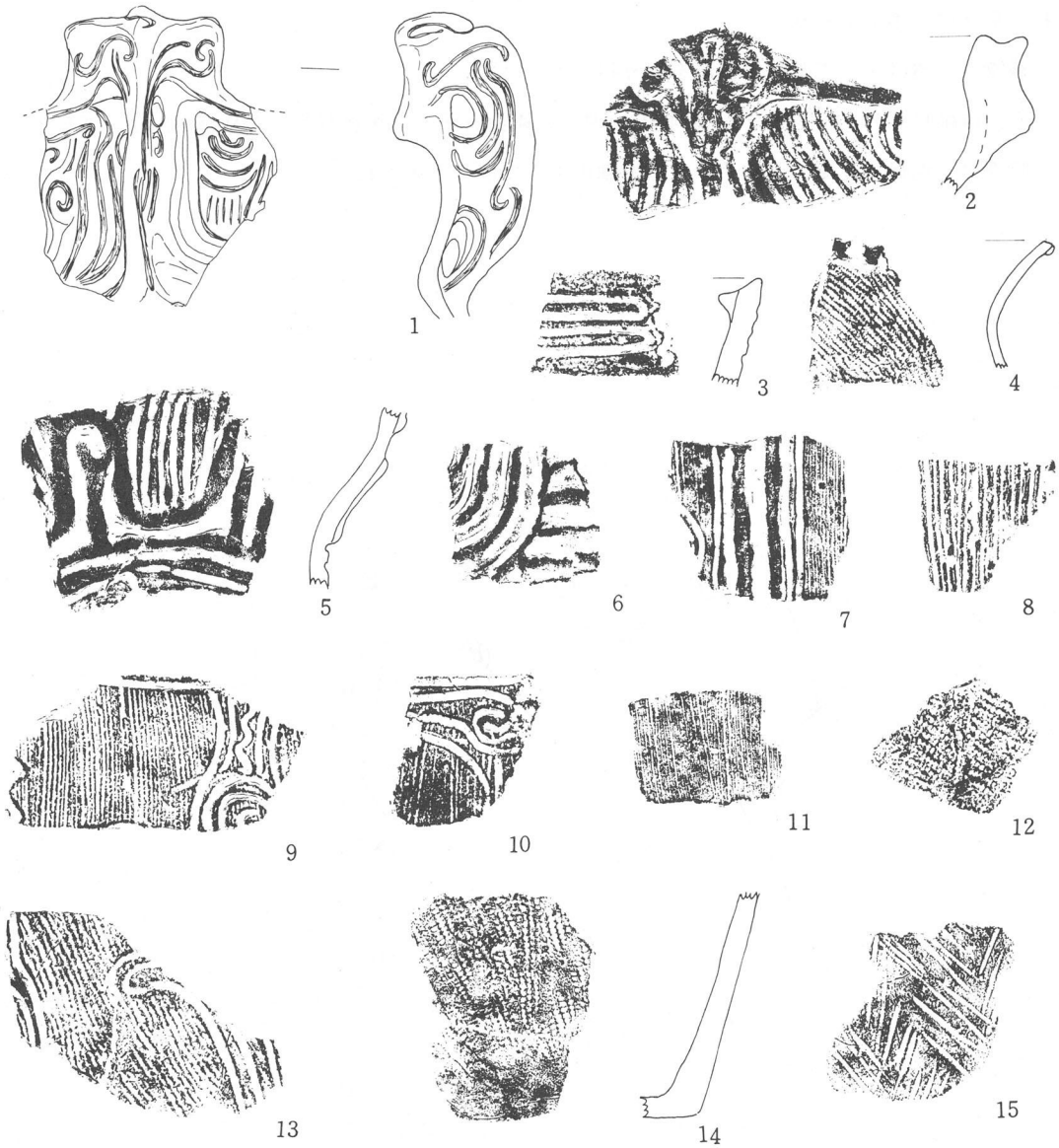


第118図　第88号住居址実測図（S＝1/80）

３は浅鉢である。

石器は打製石斧と磨製定角石斧が各１点出土しているのみである。

時期は、中期後葉Ⅱ期に属する。



第119図　第88号住居址床面出土土器（1/3）

㊴　第88号住居址（第118・119図）

遺構　本住居址は調査区の最も西側にあり、井を狭んだ東は埋立保存箇所である。周辺からは縄文時代の住居址は確認されていない。北側は第89号住居址が貼床している。

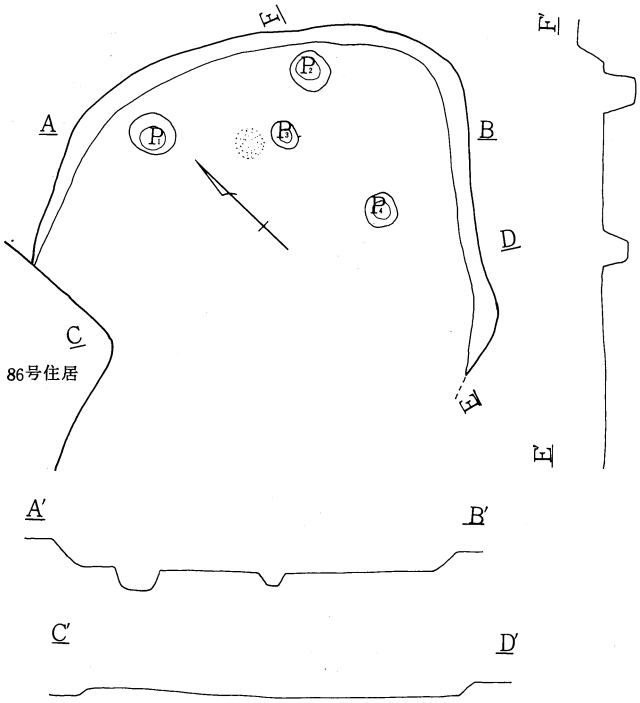
東側は未発掘であるが、プランは円形を呈すと思われ東西方向4.7mを測る。主軸方向はN－57°－Wである。壁高は西で40cm前後、東は井のためはっきりしない。床面はほぼ平坦で堅緻である。

炉は西に寄ってあり、掘炬燵状石囲炉で炉石はすべて抜かれている。主柱穴は2、4が考えられ、もとは4本であろう。

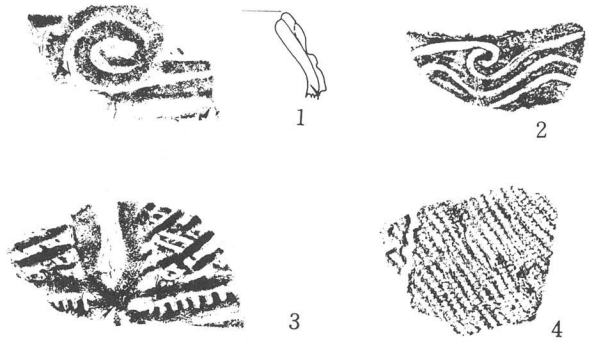
遺物　土器はすべて破片で器形を知り得るものはない。

石器は敲打器3、打製石斧2、磨製の蛤刃・乳棒状石斧・特殊磨石各1の9点が出土している。

時期は中期後葉Ⅱ期に属する。6はⅠ期のもので混在と思われる。



第120図　第92号住居址実測図（S＝1/80）



第121図　第92号住居址床面出土土器（1/3）

㊵　第92号住居址（第120・121図）

遺構　当住居址は第81号住居址の西にあり、南西部は第86号住居址によって切られている。

南西部は田の土手のため壁は壊されている。プランは定かでないが、隅丸方形を呈すと思われ、東西方向4.7mを測ることができる。床面はわずかにタタキが認められる位で全体軟弱である。

P_3のわきに5cmほどの厚さで焼土が検出されたのみで炉は認められなかった。柱穴は1・2・4の3本があり、南西部は確認されていない。

遺物　土器は少なくすべて小破片である。石器はすべて床面出土で、打製石斧2、磨製乳棒状石斧・敲打器・磨石各1の5点が出土している。

時期は土器が少なく決め難いが中期後葉Ⅱ期に属するであろう。

㊶　第93号住居址（第122・123図）

遺構　当住居址は第84号住居址北にあり切った状態で検出されたが、先にふれたように貼床があったものと考えられる。また東には第83号住居址、北東には第97号住居址が近接してある。

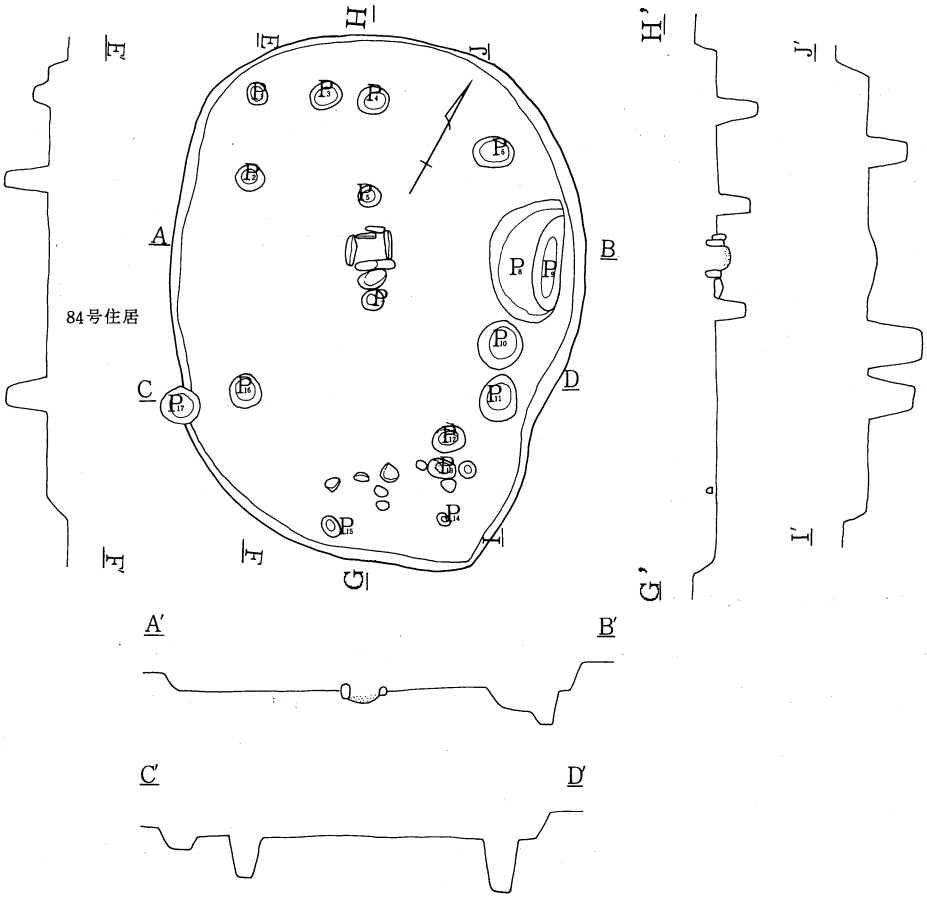
プランは不整の楕円形で5.5×4.3mを測る。主軸方向はN－28°－Wである。壁高は25cm前後で床面は全体に固くタタかれ堅緻である。

炉は中央やや北寄りに位置し、方形の石組炉である。四方とも細長い石を縦長にすえている。炉の南わきには平盤な石がすえられており平盤石皿の可能性もある。

主柱穴は2、6、10・11、16の4本で14・15は入口施設の柱穴であろう。また炉の南と北に小ピットがみられる。

遺物　満足な形で検出された住居址の割には土器は少ない。石器は打製石斧1点である。

時期は中期中葉井戸尻Ⅰ期であろう。



第122図　第93号住居址実測図（S＝1/80）